

JAFCOF 釧路研究会
リサーチ・ペーパー vol.5

太平洋炭鉱主婦会の記録

北海道炭鉱主婦協議会の会長の聞き取りと資料を中心に

【改訂版】

西城戸 誠 法政大学人間環境学部
nishikido@hosei.ac.jp

大國 充彦 札幌学院大学社会情報学部
ohkuni@earth.sgu.ac.jp

久保 ともえ 札幌学院大学総合研究所 SORD 特設部会調査員
sord.of@sgu.ac.jp

井上 博登 赤平市教育委員会
nobo78@hotmail.com

2015年6月28日

目次

1	炭鉱主婦会・炭婦協研究プロジェクトの概要と リサーチ・ペーパーの位置づけ（西城戸誠）	1
1.1	炭鉱主婦会・炭婦協研究プロジェクトの概要	1
1.2	2人の主婦会会長のプロフィール	3
1.3	本リサーチ・ペーパーの構成	6
2	太平洋炭鉱主婦会・北海道炭鉱主婦協議会会長の記録（1）多嶋光子氏	7
2.1	多嶋光子氏・講演（1987年9月12日・札幌女性史研究会例会） （編集・西城戸誠・久保ともえ）	7
2.2	多嶋光子氏・講演（1999年7月11日・北海道母親大会第14分科会） （編集・西城戸誠・久保ともえ）	51
2.3	多嶋光子氏の講演についての論点（西城戸誠）	67
3	太平洋炭鉱主婦会・北海道炭鉱主婦協議会会長の記録（2）佐藤邦子氏	73
3.1	佐藤邦子氏・講演（2013年11月30日・北海道岩見沢市「シンポジウム・空知の 炭鉱（ヤマ）の女性たちが語る集いー炭鉱主婦会・炭婦協の歴史に学ぶー」） （編集・西城戸誠・久保ともえ）	73
3.2	佐藤邦子氏の講演についての論点（西城戸誠）	82
4	「釧路資料」について	87
4-1	釧路資料の内容に関する概説（大國充彦・西城戸誠）	87
4-2	「釧路資料」リスト（作成・大國充彦・久保ともえ）	90

1. 炭鉱主婦会・炭婦協研究プロジェクトの概要とリサーチ・ペーパーの位置づけ

西城戸誠

1.1 炭鉱主婦会・炭婦協研究プロジェクトの概要

本研究グループは、産炭地研究会 (JAFCOF) の中で、炭鉱主婦会・炭婦協に着目した研究グループである。産炭地研究会 (JAFCOF) とは、社会学や経営史を中心とした研究グループ (研究代表者: 中澤秀雄・中央大学教授) で、(1) 旧産炭地域における (広い意味での) 炭鉱遺産を通じた地域再生に関する調査研究および実践、(2) 炭鉱社会とその後のコミュニティに関する社会調査を通じた、旧産炭地の歴史的経路に関する国際・国内比較、(3) 「20 世紀資本主義の証言者」としての旧産炭地の生活史の発掘と集合的記憶の伝承、という観点から調査研究を実施している。

産炭地研究会・炭鉱主婦会調査グループは、炭鉱主婦会、日本炭鉱主婦協議会 (炭婦協) の調査研究を 2010 年 2 月から開始した¹。当初はインフォーマントのリストも全くない状態であったが、住友赤平炭鉱の調査の中で、住友赤平炭鉱主婦会へのコンタクトが可能になったことと、日本炭鉱主婦協議会北海道支部 (道炭婦協) の元幹部のリストを得ることができたことによって、調査対象が広がった。その後、空知炭鉱主婦会 (歌志内)、三井芦別炭鉱主婦会 (芦別)、幌内炭鉱主婦会 (三笠)、太平洋炭鉱主婦会 (釧路) の関係者に調査を行うことができた。

本研究グループでは、北海道地域の炭鉱における炭鉱主婦会、道炭婦協の歴史を概観し、それらを北海道における「主婦」による運動に位置づける作業や、炭鉱主婦会の活動が地域社会のさまざまな女性による活動にどのような影響を与え、それが現在の地域社会の中にどのように引き継がれているのかという関心をもとに、閉山をした炭鉱の主婦会の関係者や、炭婦協の関係者に聞き取り調査を実施し、さまざまな資料を収集し整理をしてきた。

釧路市立博物館や釧路市教育委員会から仲介していただき、また、本研究グループの調査研究の中で得た炭鉱主婦会、炭婦協のネットワークによって、元太平洋炭鉱主婦会会長、元炭婦協会長の佐藤邦子氏とコンタクトを得ることが可能になった。元炭婦協会長の佐藤邦子氏とコンタクトを得ることが可能になった。佐藤邦子氏のご自宅には、炭鉱主婦会・炭婦協関連の資料を中心とする段ボール 7-8 箱におよぶ資料があることをうかがった。この資料について、私どもは「資料の発見」という言い方をしているが、この言い方は字面だけ見ていると短絡的なものである。しかし、実際には、釧路の関係者の方々の長年にわたる活動の積み重ねと、相互の連携の成果の一つとして、関係者の方々のご尽力の集大成として「資料の発見」を位置づける必要がある。「資料の発見」という言葉に、これだけの広がりや深みを持った内実に私どもが気づくことができたのも、釧路の皆さまのおかげだと考えている。この点については 4. 1 に詳述している。この資料は、札幌学院大学にいったん搬送して整理を行うことになった。なお、資料の一次受け入れ等その際には、釧路市立博物館や釧路市教育委員会から多大なる協力を得た。これらの資料は、釧路市管轄

¹ メンバーは、西城戸誠 (法政大学)、大國充彦 (札幌学院大学)、井上博登 (札幌国際大学) である。

の太平洋炭鉱資料室に保管されている。また、整理した資料のリストは、大國・久保(2014)に記載されているが、本リサーチ・ペーパーでも、そのリストを掲載してある²。

本研究グループの一つの成果として、2013年11月30日に、北海道岩見沢市において「シンポジウム・空知の炭鉱(ヤマ)の女性たちが語る集いー炭鉱主婦会・炭婦協の歴史に学ぶー」を実施した³。シンポジウムは北海道空知地方の炭鉱主婦会の話が中心であったが、最後に太平洋炭鉱主婦会の元会長で、日本炭鉱主婦協議会の元会長であった、佐藤邦子氏にも講演をしていただいた。本リサーチ・ペーパーでもその内容を一部編集して集録している。

一方、このシンポジウムの開催によって、本研究グループメンバーは、札幌女性史研究会の方々と面識を持つことができた。その後、札幌女性史研究会の方と意見交換を行い、北海道炭鉱主婦協議会の初代会長で太平洋炭鉱主婦会の会長でもあった、多嶋光子氏の2つの講演録のテープを札幌女性史研究会のメンバーの方が保管していることがわかった⁴。本研究プロジェクトでは、札幌女性史研究会および遺族の方の許可を得て、多嶋光子氏のテープ起こしを行った。本リサーチ・ペーパーでは、その内容が掲載してある。また、掲載にあたっては、札幌女性史研究会の林恒子氏からもアドバイスを得た。

1952(昭和27)年に北海道炭鉱主婦協議会が誕生したが、初代の会長は多嶋光子氏であった。後述しているように多嶋氏はその後、主婦会活動、炭婦協、母親大会などの活動に大きな影響を与えた。一方、最後の炭婦協の会長が佐藤邦子氏である。最初と最後の炭婦協の会長が、北海道内の炭鉱の中で中心的な役割を果たしたとされる空知の炭鉱ではなく、釧路の太平洋炭鉱だったという点は、偶然なのか、必然なのかはわからないが、何か因縁めいたものを考えざるを得ない。本リサーチ・ペーパーは、太平洋炭鉱主婦会の会長経験者で、かつ最初と最後の炭婦協会会長であった二人の講演録を収録し、炭鉱主婦会や炭婦協の状況、課題、および当時の炭鉱主婦会・炭婦協のリーダーがどのような思いで、活動をしていたのかという点を記録することを目的として作られた。

その理由は、多くの炭鉱主婦会、炭婦協のリーダー格であった方が、相次いで鬼籍に入られ、炭鉱主婦会・炭婦協の歴史、経験を記録する必要性を感じたからである。本研究プロジェクトがスタートした2010年から数多くの炭鉱主婦会・炭婦協の関係者にインタビューを行った。例えば、2011年8月に夕張新炭鉱主婦会の会長を結成から解散まで務め、夕張市議会議員、夕張市議会議長もされた秋元嘉代氏にお話を伺った。我々は、秋元氏のご高齢でありながらもはっきりとした口調でお話を伺ったこともあり、また別の機会に再度インタビューを行えばよいという判断をしていたが、その後、2012年5月に亡くなったことを、夕張調査をしている別のJAFCOFのメンバーから聞くことになった。秋元氏が逝去されたことを、インタビュー先の他の空知の炭鉱主婦会の方に話した際に、「実は、私たちも久しく秋元さんには会っていません、一番、最近、

² ただし、データを加筆してあるため、本リサーチ・ペーパーの情報が最新情報となる。

³ シンポジウムの主催は、産炭地研究会(JAFCOF)と札幌学院大学であったが、特定非営利法人炭鉱の記憶推進事業団(<http://www.soratan.com/>)の協力を得ている。なお、このシンポジウムの報告書は、特定非営利法人炭鉱の記憶推進事業団による「炭鉱の記憶ブックレット3」としてまとめられている。

⁴ 1987年9月12日札幌女性史研究会例会テープは林恒子氏が所蔵していたものであり、1999年7月11日開催の「第42回北海道母親大会第14分科会」のテープは岸伸子氏の個人の所蔵であったものを、使用させていただいた。記して感謝したい。

お会いになったのは、皆さんだったのですよ」と言われ、炭鉱主婦会、炭婦協の方同士でも、近年では直接会う機会がないことを知った。

また、三井芦別主婦会出身で日本炭婦協会会長でもあった佐藤俊江氏には 2010 年 11 月と、2011 年 12 月にお目にかかり、長時間お話を伺ったが、2013 年 10 月に鬼籍に入られた。また、本リサーチ・ペーパーで講演録を収録している、多嶋光子氏も、2013 年春に亡くなっている。さらに、2013 年の年末に、私たちが直接お目にかかることができなかつた一戸キヨさんも鬼籍に入られたという話を、間接的に伺っている。さらに、三井芦別炭鉱では、炭鉱主婦会の OG 会があったもののすでに解散しており、住友赤平炭鉱主婦会の OB(OG)会も、会員の交流が続いていたものの、2013 年春に 19 年の歴史を閉じた。本研究プロジェクトの調査では、北海道の炭鉱主婦会、炭婦協の歴史のキーパーソンとなる方にお目にかかれなかつたことも多く、「あと 10 年早く、お話を伺えれば」という思いも強くしたが、その一方で、閉山から時を経た今だから話ができたという当事者の話も聞くと、記録を残すことの難しさを感じざるを得なかつた。

以上のような北海道空知地方を中心とした炭鉱主婦会に関する論考は、別に準備を行うが、本リサーチプロジェクトは、上記のような調査研究の知見や経験も踏まえて、太平洋炭鉱主婦会、および北海道炭鉱主婦協議会で活躍された二人の会長の語りを中心に、編纂されたものである。

1.2 2 人の主婦会会長のプロフィール

次に多嶋光子氏と佐藤邦子氏のプロフィールを紹介したい⁵。

多嶋光子氏は、1920(大正 9)年 9 月 8 日に生まれた。1933(昭和 8)年に帯広柏尋常小学校を卒業後、19 歳の時に前夫に出会う。国防婦人会に入り、活躍した後、1944(昭和 19)年 4 月に日本生命札幌支社に入社、在職中には婦人部長にもなった。1948(昭和 23)年に札幌ファッション洋裁学院を卒業後、再婚し、釧路へと移住する。太平洋炭鉱主婦会に入り、1950(昭和 25)年に太平洋炭鉱主婦会会長に就任した。1951(昭和 26)年に北海道炭鉱主婦協議会会長、1952(昭和 27)年に日本炭鉱主婦協議会(炭婦協)会長となり、1955(昭和 30)年の世界母親大会に、日本代表としてスイス・ローザンヌを訪問し、母親運動を推進した。

1957(昭和 32)年に北海道婦人団体連絡協議会⁶発足に参加、副会長となり、また 1958(昭和 33)年には、北海道主婦連絡協議会⁷の設立に参加し、会長となった。1966(昭和 41)年に、夫の退職により、札幌に転

⁵ 多嶋光子氏の略歴については、2010 年 2 月 22 日に多嶋光子氏と親交があった三浦章子氏のインタビューの際に、「多嶋光子の歩んだ道」という書類を得て、そこから引用した(一部、年号を修正)。佐藤邦子氏は、本人からの聞き取り調査による。

⁶ 北海道婦人団体連絡協議会とは、地域における婦人団体の連携を図るための組織である。地域の地域婦人会の幹部が保守的であることも多く、「労働者の妻や家族の女性」という立場で、子どもの教育や平和の問題などを訴えても「労働組合の意見」として却下されることもあるため、「母親としての連携」を地域で模索するために作られた組織である。「お母さん同士が、子どもの教育や台所のやりくり、原水爆や平和の問題を話し合い、お互いが理解し、協力しあえる問題から実行」し、具体的な問題ごとに連携を図っていった。成果として「小児マヒ」の生ワクチンの輸入と接種(1960 年)がある(日本炭鉱主婦協議会北海道地方本部, 1973: 165-168)。もっとも、地域によっては炭鉱主婦会のメンバーが、婦人団体連絡協議会で主要な役割を果たす場合もある。

⁷ 北海道主婦会連絡協議会は、全北海道労働組合協議会(全道労協)が 1957(昭和 32)年の定期大会で、労

居し、北海道炭鉱主婦協議会顧問に就任、1971(昭和46)年に炭鉱離職者主婦の会⁸会長となった。1973(昭和48)年に、市民生協の理事に就任した他、「ベトナム母と子支援／保健センター設立運動代表」(1970(昭和45)年)、「国連軍縮特別総会」核兵器完全禁止を要請する日本代表(1978(昭和53)年)などの社会運動に参加する一方で、日本習字教育連盟札幌支部長などを歴任し、2013年に逝去された。

一方、佐藤邦子氏は、1940(昭和15)年、函館市に生まれた。1945(昭和20)年に釧路に移住し、1964(昭和39)年に結婚し、太平洋炭鉱主婦会に入った。その後、1976(昭和51)年に太平洋炭鉱主婦会会長、1990(平成2)年、日本炭鉱主婦協議会会長となった。1995(平成7)年、日本炭鉱主婦協議会が解散したが、この時の会長を佐藤邦子氏が務めた。なお、炭婦協が解散した後、太平洋炭鉱主婦会会長が交代し、2002(平成14)年に太平洋炭鉱の閉山とともに、太平洋炭鉱主婦会も解散した。太平洋炭鉱は現在、釧路コールマインが継承しているが、炭鉱主婦会は存在していない。佐藤氏は現在、釧路市健康を守る会会長を務めている。

表1 日本炭婦協／道炭婦協の歴代

炭婦協・会長		道炭婦協・会長	
S27	野仲ツマ(九州)	S27	多嶋光子(太平洋)
S28-29	北 幸子(九州)	S28	三浦節子(清水沢)
S30-35	多嶋光子(北海道・太平洋)	S29	畑田下枝(尺別)
S36-40	只隈 操(九州)	S30-34	多嶋光子(太平洋)
S41	原口貞子(九州)	S35-36	栗田みどり(砂川)
S43-44	佐藤俊江(北海道・三井芦別)	S37-40	多嶋光子(太平洋)
S45-46	福井よしえ(北海道・新夕張)	S41-44	佐藤俊江(三井芦別)
S47-49	五十嵐光枝(北海道・三笠)	S45-48	福井よしえ(新夕張)
S50-60	一戸キヨ(北海道・砂川)	S49-57	一戸キヨ(砂川)
S61-63	田奈田京子(北海道・三笠)	S58-	田奈田京子(三笠)
H01	根田久枝(北海道・空知)	H01	根田久枝(空知)
H02-07	佐藤邦子(北海道・釧路)	H02-07	佐藤邦子(釧路)

働組合の活動に果たした主婦の役割を高く評価し、主婦会作りとその連携のために結成された組織である。1958(昭和33)年に、道炭婦協、日鋼主婦協、全鉱婦協、国鉄家族会、動力車家族会、全日通家族会など、10単産、10万人の婦人団体が誕生した。岸(2003)では、王子製紙労働組合苫小牧支部・主婦連絡協議会の形成過程、活動内容とその課題を析出しながら、王子製紙労働組合苫小牧支部・主婦連絡協議会が、北海道主婦協議会の設立準備段階の会合に参加したこと(ibid, 100)や、北海道主婦会連絡協議会の運営に関して言及している。それは、炭婦協のような労働組合と連携している主婦会と、活動を始めたばかりの王子主婦連や、全道的に組織化を進めている北海道教職員組合や全道庁職員組合家族会などでは経験に大きな差があったため、北海道主婦会連絡協議会の運営は「徹底した話し合い」が目指されたという(岸, 2003: 104-105)。さて、北海道主婦会連絡協議会の組織としての目的は、労働者婦人(女性)の団結と、平和と民主主義を基本とした運動を展開し、母親大会(第1回～15回まで)、いのちとくらしを守る全道女性集会(物価値上がり、公共料金の値上がり、健康保険法改悪への反対。1972(昭和47)年の第1回から第20回)、合成洗剤追放北海道連絡会(1975(昭和50)年～)などの運動を行った。また、各地域では社会党系議員のための選挙活動を展開した。

⁸ 炭鉱離職者主婦の会とは、炭鉱の閉山に伴い、労働者とその家族が札幌などに仕事を求めてくる、その主婦の集まりとして設立された。多嶋光子氏が、炭婦協OM会(1967(昭和42)年)を結成し、その後、炭鉱離職者主婦の会として活動した。2002(平成14)年から、鉱夫史(こぶし)会に名称変更し、現在は会員の交流が中心となっている。

このように、二人の経歴を列举すると、道炭婦協、日本炭婦協の会長経験という共通点があることがわかる。多嶋氏は、北海道炭鉱主婦協議会(日本炭鉱主婦協議会北海道支部)の初代会長であり、また、日本炭鉱主婦協議会の会長(3代目:1955年～1960年)を、北海道の炭鉱主婦会会長で初めて務めた。佐藤氏は、日本炭鉱主婦協議会、北海道炭鉱主婦協議会の最後の会長である(1990年～1995年)。ただし、両者の間には、炭婦協会長、主婦会会長としての時期に30年の時間差があり、同じ会長経験者であるが、その内容や意味づけは異なることには留意する必要がある。この点については具体的に後述する。

日本炭鉱主婦協議会と、日本炭鉱主婦協議会北海道支部の会長のリストは、表1の通りである。また、表2は、太平洋炭鉱主婦会会長のリストである。多嶋光子氏は昭和26年度、30-31年度、36年度と3回会長になっていることがわかる。一方、佐藤邦子氏は、昭和51年度から平成6年度まで主婦会会長を務めた。佐藤氏は、歴代の太平洋炭鉱主婦会の中で在任期間が一番長いこともわかる。

表2 太平洋炭鉱主婦会会長一覧

昭和22年	森チヨウ
昭和23年	岩本千恵子
昭和24年	役員名不明・各地で活動
昭和25年	井口みさお
昭和26年	多嶋光子
昭和27年	安藤登代
昭和28年	荒木博子
昭和29年	阿部カツ
昭和30年-31年	多嶋光子
昭和32年	安藤登代
昭和33年	荒木博子
昭和34年	最上香代子
昭和35年	田沢晴子
昭和36年	多嶋光子
昭和37年-40年	石川セイ子
昭和41年-42年	田沢晴子
昭和43年-44年	柴田節子
昭和45年-49年	石川セイ子
昭和50年	佐藤邦子
昭和51年-平成06年	佐藤邦子
平成07年-08年	浅野康子
平成09年-14年	村上由貴子

出典:『母のうぶごえ』太平洋炭鉱主婦会

表1,2を参考に、日本炭鉱主婦協議会の歴史を大きく区分すると、3つの時期に大別できる。第一は炭婦協の黎明期であり、炭婦協や炭鉱主婦会が誕生し、1950年代の炭鉱における労働争議において、炭鉱の主婦たちが相当の苦労はしながらもさまざまな権利が獲得できた時代である。第二に、1960年代に入り石炭から石油へのエネルギー革命に対して、日本炭鉱労働組合(炭労)が行った石炭政策転換闘争が展開され、大蔵省や通商産業省などの関連省庁への陳情やデモ行進などが展開され、炭婦協も動員された。その一方で、炭鉱の合理化による保安体制の軽視が事故を招き、企業に保安、労災補償を求めながら、「ヤマ」の存続を求める要望も行うようになった。全国の炭婦協会長と、2度の道炭婦協会長を担った多嶋光子氏は、第一と第二の前半部分に該当し、炭鉱主婦会、炭婦協がもっとも輝く時期

の会長であったといえるだろう。

第三の時期は、第7次石炭政策以降、「閉山やむなし」とされた中での炭婦協、主婦会の活動である。佐藤邦子氏は、1976(昭和51)年から太平洋炭鉱主婦会の会長、平成2年から炭婦協会長をされているが、石炭政策転換闘争の後半と、閉山闘争時期を担ったことになる。また、太平洋炭鉱では、1962(昭和37)年から持ち家制度が導入され、社宅を離れる組合員が増加したことや、炭鉱主婦会発足当初の衣食住を要求する運動を知る会員の減少、働く女性の増加などによって、炭鉱主婦会の組織のあり方や運営方法が困難になっていった。つまり、佐藤邦子氏は、太平洋炭鉱および、日本や北海道の炭鉱が斜陽していく中で、自分たちのヤマと、他のヤマに対して、どのように炭鉱(ヤマ)を存続していけばいいのかという重い課題と、主婦会活動の運営に関する困難さを背負うことになった会長でもあった。

以上のように、多嶋光子氏と佐藤邦子氏の講演録を読み解く際には、上記のような時代背景の違いを念頭に置く必要がある。その一方で、炭鉱主婦会や炭婦協における活動の中で、何が重要であったのかとい

うエッセンスや、組織運営に関する課題については、共通する項目も多いことも見いだせるだろう。

1.3 本リサーチ・ペーパーの構成

本リサーチ・ペーパーの構成は、以下の通りである。第2章では、多嶋光子氏の講演録を2つ紹介する。最初の講演録は、1987年9月12日に、札幌女性史研究会例会で行われたもの(2-1)であり、次の講演録は、1999年7月11日に実施された北海道母親大会第14分科会である(2-2)。2-3では、多嶋氏の講演録に対して、いくつかの論点と補足の説明を行う。

第3章では、佐藤邦子氏の講演(2013年11月30日)を中心に、佐藤氏による手記も含めて再録する(3-1)。3-2で佐藤氏の講演および手記からの論点提示と補足の説明を行う。

最後に第4章で、釧路資料の内容の概要(4-1)とリスト(4-2)を提示する。

*なお、本報告では太平洋炭鉱という表記に統一している。会社・管理職倶楽部は「炭砦」、労働組合は「炭鉱」、炭鉱主婦会は「炭鉱」と「炭砦」を併用している。

【参考文献】

岸伸子, 2003, 「王子主婦連の活動が語るもの—王子製紙労働組合苫小牧支部・主婦連絡協議会」『女性史研究ほっかいどう』創刊号: 94-111.

大國充彦・久保ともえ, 2014, 「SORD 釧路資料リスト」『社会情報』23(1): 61-78.

2 太平洋炭鉱主婦会・北海道炭鉱主婦協議会会長の記録(1) 多嶋光子氏

2.1 多嶋光子氏・講演(1987年9月12日・札幌女性史研究会例会)

西城戸誠・久保ともえ(編集)

[編者注]

多嶋光子氏に関する録音テープは、札幌女性史研究会の林恒子氏を通して行われ、本節では林氏が所蔵していた1987年9月12日札幌女性史研究会例会 テープの内容を記載した。なお、多嶋光子氏の講演に際して、司会者や参加者が質問する場合があるが、基本的には多嶋光子氏の講演内容を記載してある。()内は編者が補った言葉、注は編者がその後補足した内容、□□は、聞き取りが不明瞭だった点である。確認できない人名についてはカタカナ表記を行った。表現の一部は、現在の感覚では表記してはいけないもの、独特の言い回しがあるが、本人の人柄や当時の状況を残すことを優先させ、そのまま表記してある。多嶋氏の語り口には独特の表現があり、例えば、「するのですよ」ではなく「するんですよ」などがある。本リサーチ・ペーパーでは、多嶋氏の独特の言い回しを正確に記録することも考えたが、講演の内容の理解のしやすさという観点をあえて重視し、表現方法は変えてある部分がある。また、講演は4時間以上に及ぶもので、途中でテープの切り替えがあり、音声を確認できない箇所があるが、その点は省略してある。また、個人のプライバシーに関わる内容については、編者の責任でカットしてある。また、いくつかのセッションに区切ったが、それは編者による編集である。

本文中の写真は出典が書かれていないものは『光子のアルバム』からの転載であり、札幌女性史研究会・林恒子氏からの提供を受けた。また、林氏や札幌女性史研究会・王子製紙争議を語りつぐ会の岸伸子氏には、本記録の原稿に目を通していただき、コメントを頂いたが、記載内容の責任は編者にある。なお、掲載にあたっては、多嶋光子氏の親族の許可を得ている。

■はじめに

私はこんなことを言うのは何ですが、今まで、自分の好きなように生きてきたんですね。夫は一昨年に亡くなりましたが、夫には本当に(感謝しています)。夫は、実におとなしい亭主で、おとなしいだけではなく、昭和35、36年代になりますと、三池闘争や安保などもありましたから、九州などへ行くとすぐに帰ることはできません。全部の炭鉱(やま)を回るのですね。常磐炭鉱などもありますしね。行かなかったのは炭鉱のない四国だけでした。

私は、それで329日間も家を空けてんですよ。そのくらい家に帰って来ない母ちゃんを怒りもせずに待っていてくれた旦那さんですから、かなり義隆(よしたか)には世話になりました。私には義隆との子どもはいませんが、ひとつぶ種がいます。その子を育てて、大学まで行かせてもらって、とうとう炭鉱に32年勤めていました。仕事は機械の方でしたが、ドイツとの提携や交流が始まるとコンベアーで石炭を掘るようになったんですね。そうすると「炭じん」がものすごいんですね。手掘りの何十倍も「炭じん」が舞いますから、そのようなことで「けい肺」になりまして、9年間苦しんで亡くなりました。

私は不信心ですから、仏壇や墓は必要がないと思っていたのですがね。仏様は好きなんです。仏様

のお顔を見ていると自分に邪心があるからでしょうね。とても好きなのです、気持ちが治まって。でも、墓なんか要らないと思っていました。ところが、私には三人の孫がおりまして、その一人が、「死んだのを知らずに、今はわかったと来てくれても仏壇がなかったら、拜んでももらえないでしょう？」と、そして「いずれ、僕たちも入るのだし、遊びにも行きたいから、墓くらい作ったら」と言うので、ああ、孫がこんなふうにするのなら、墓を作った方がいいな、と思って、それは恩返しと思って作りました。それだけが唯一の夫孝行でした。

それから、いつも私が家を空けてばかりなので、(夫に)「何か、欲しい物があれば買ってあげる」と言うと、「俺に、いつも家にいてくれる嫁さんを買ってくれ」と言いました。本当は何だと思いませんか、電気炊飯器です。まあ、もう腹を抱えて笑いました。

■父と母のこと

私が生まれたのは、大正9年、1920年9月8日です。父は渡部山吉(わたべ やまきち)で、「さんきち、さんきち」と言っていました。母はチセと言います。父は新潟県の出身で東京の塗り物屋に婿としてきたようです。そこを15歳の時に出て、随分、極道をしたみたいです。そして、神田の塗り物屋に一度、連れて行ってくれたことがありました。母チセはエサシのチバナ¹の出身です。漁師町ですね。母の父親は大変な力持ちで、「神童の虎」、虎と言われたそうです。

虎の娘と言うのは大変弁舌の立つ子でしたが、母は無学でした。なぜかと言うと、こんなに子どもの内から弁が立つ子に教育をしたら、親の手が後ろに回ると言って、学校へは行かせてもらえませんでした。非常に義侠心の強い、不正には黙ってられない人なんですね。ですから、教育の面ではスパルタでした。そのスパルタも一回、一回怒られるのなら、なぜ怒られたのかがわかりますよね。それが溜めておいていっぺんに怒るんです。それで私は小さい頃、キチガイの真似をして、その時は帯広に住んでいましたから、自分の下駄を十勝川の淵(川岸)に置いて、川に身投げしたように見せかけて、実は物置に隠れていたことがあるんですよ。それを30歳位の時に、私、言ったの。そうしたら、デレッキを持って追っかけてきた。それくらいの母でした。走るのには私にかなわないけどね。

父は煉瓦職人で、職人氣質な人でした。昭和になってからは少し、野幌の煉瓦などで学校の煉瓦を積んだり、平岸の焼き場²を造成したり、いろいろやりましたが、戦前はもっぱらトンネル造りでした。(私が)厚岸で生まれたというのも、工事が終わる寸前に産まれたらしく、厚岸生まれと言えるのかどうかわからないくらい、転々としてたんですね。ただ、トンネル造りですから、かなり長い間の、あれ(工事期間)なので家族が一緒に付いて行って、飯場を組んで、うちには常時20人ほどの若い人がいました。私は、そういう環境で荒くれの中で育ちましたが、小さい頃は泣き虫だったそう



父 渡部山吉(やまきち)



母 渡部チセ

¹ 江差町津花のことか？(不明)

² 元平岸火葬場のこと。

です。下駄に水がかかっちゃあ泣き、拭いてあげるからと言ってもだめ、おしっこをするとお尻を手ぬぐいでちゃんと拭かないと嫌だとか、メーメーと泣いていたんだそうです。

小学校も最初に入學したのは、今もあるのかわかりませんが、函館の宝小学校³です。その次は長岡トンネルの時に新潟の小千谷縮(おじやちぢみ)で有名なところがありますよね、そこから田舎に入った、土樽(つちたる)村の小学校に入りました。そして、4年生の時に帯広の柏小学校へ転校しました。そして、どう言うわけか4年生からは全く違う私になりました。きかなくて、きかなくて。きかないと言っても悪戯などをするということではありませんでした。私は運動の選手でしたので、随分と柏小学校に優勝旗を持ってきたのです。私が走っている姿を見て、「東北海道の馬が走っている」と言われたくらいです。それで、学校で大事にされたせいもありますが、勉強も悪くはありませんでしたが、これは、おまけですかね、優勝旗も作ってもらいました。柏尋常高等小学校では、そのような生活をしていました。

学校を卒業後は舞踊や長唄をやりました。私の声はお腹から声を出すので、演説の中身はたいしたこと無くても元気だけはいいいんですね、私の演説は。やはりお腹から声が出るのは長唄をやったせいだと思います。

■前夫との出会いと別れ

そんなことで、前夫と知り合ったのは19歳の時でした。1938年(昭和13年)ですね。これは、昔は「内地(ないち)」と私たちは言っていたんですけど、本州の人は北海道から来た人間をよそ者として扱ったので、どこの馬の骨かもわからないから結婚は許さない、と言われたんですよ。年齢も7歳も違って若かったのですね。それで、同棲をしたんです。これはちょうど「はしり」ですね。三年程つき合っていました。同棲を始めて家庭に入ったもんですから、この時はまだ昭和15年で、昭和16年の大東亜戦争が始まる前ですよ。ですから、それほどやかましくはなかったのですが、既に愛国婦人会ができていましたし、国防婦人会もできていました。そうですね。

私は愛国婦人会に入れるような身分ではありませんでした。大体が役人の奥さんや医者のお奥さんなどが隊長になっていました。それで私は分会の副会長になりました。なぜ、私のような若い人間がなったのかと言うと、とにかく、号令をかけるにしても何にしても、元気がいいわけですね。分会長というのは病院のお奥さんで、大変弱い人だったのですね。だから、全部私が代理をして、英霊の家を訪ねている写真もあります。喪服に割烹着をした自転車部隊でした。

そのようなことで、国防婦人会に入りました。兵隊さんの送り迎え、段々と空襲があるようになってからは空襲の時のバケツの一律供給、それから軍の命令や町内会の隣組の命令などをいち早く伝達すること、そしていよいよ大東亜戦争に入っていく時代になると、「一億総決起」ということで私たちもみんな、射撃訓練



昭和15年国防婦人会副会長／戦死者の遺族を慰問

³ 函館市立宝小学校のこと。

をさせられたんですね。銃を持たされたんですね。一番射撃が上手かったのは学校の先生でした。3 発撃って 30 点なんですけど、その学校の先生を私はいつも 2 点くらい上回っていたので、優秀だと言われていました。これで、一回表彰、伝令も速いと一回(表彰)、自転車は両手を離しても乗れるので、今でも先生は暴走族だと言われるくらい、速いのですよ。何せ、お転婆ですから。今日は恥ずかしいと思うことをみんなしゃべるん(話すの)だよ。あまりよそでしゃべった(話した)ことがないのに。今日は私の恥を全部さらすのだと思って来たんですけど。まあ、恥も今となれば楽しい思い出になっています。

そのような感じで、全部代行をしました。それが三回でしょう。射撃、伝令、それと一律のバケツの供給。これも早かったのです。め組のまといを持ちおろして(上げ下げして)、「はいっ」と上がって、ばあっと上がって、「はいっ」と、早いのですね。それからね、竹槍訓練。竹槍訓練なんかもやりました。岐阜県の大垣(おおがき)でしたので、かなり古い城下町なのですね。竹槍訓練なども、やるのはやはり奥さん方ですし、隣近所の奥さんたちは「やあ」と言って突くわけ、でも私は 100 メートル位向こうから走って来る勢いで「やあ」と突くので、私の竹槍はいつも藁人形に「ぶすっ」と刺さりました。これで 4 回(目の表彰)。北海道では知事を長官と言いますが、本州で知事表彰を 4 回も受けています。

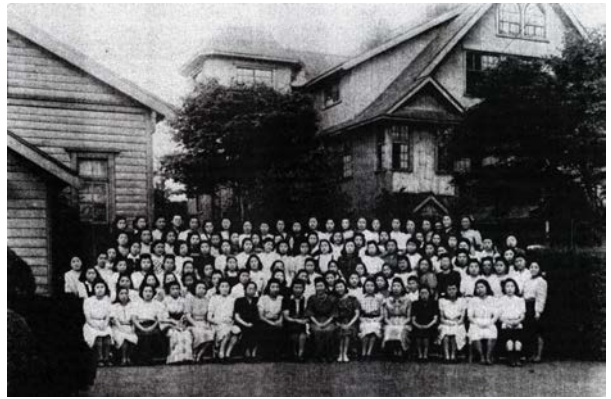
岐阜県には、連隊も師団もありましたから。ですから般若心経も、「かけまくもかしこみ、かしこみ」とやる、神社の祝詞も全部そういうことで声がかかりました。だって、よその人が行くわけでしょう。国のために行くわけですから、私などは死んで帰ってこればいいと思ってんですからね、本当にね。ただ、自分の夫が行く時には何とか行かずにすめばいいのにと願いましたが、国防婦人会の会長⁴という立場で、一人でも戦争に協力する人を作らないといけないわけでしょう。だから、うわの空でした。「勝って来るぞと勇ましく」もうわの空で旗だけ振って。あとは「かけまくもかしこみ、かしこみ」と全部暗記してしまいました。そういう時代だったんですね。

それから、北海道へ、次の年ですか。夫が招集されたのは(昭和 16 年)7 月で、子どもは 6 月に生まれましましたので、子どもは父親に 1 ヶ月しか抱かれなかったんです。同棲を始めたのが昭和 15 年(1940 年)、昭和 16 年、1941 年の 6 月に息子が生まれました。昭和 17 年の 7 月、ちょうど、子どもが生まれて 1 年で戦病死しました。肺結核を患ったようでした。夫は岐阜の田舎の横山という村の出身で一人息子でした。私たちは許されてない結婚でしょう。夫の親にすると息子は死んでしまったので、今度は直系の子どもが欲しいのです。それで子どもをおいて行って欲しいと言われました。でも、どこの馬の骨かわからない者を家に入れるわけには行かないと、私のことは(籍に)入れないわけです。私の母はお前がよいのなら一緒にいなさいと言って、意外とそういうことは理解があったと言うのか、放っておいたと言うのかね。その時に、親に相談したり、小学校の先生に相談したりしたのですが、やはり子どもは手放したくないわけですよ。自分の愛した人の忘れ形見ですからね。それに遺族補償のこともあって、本当は、私は遺族補償が欲しかったんです。でも(籍に)入れてくれないと遺族補償はもらえないんです。けれども入れないと言うので、じゃあ子どもも渡さないと言って、縁を切って札幌に戻って来ました。子どもを連れて帰って来たのが、昭和 17 年の暮れでした。

⁴ 副会長の言い間違えか？

■札幌での生活

私は職業というものを持っていないのです。ただ、二回だけ、お給料をもらった経験があります。一度目は昭和 19 年(1944 年)年に日本生命に入った時です。これは男性が少なくなってしまうと、そして私などの高等小学校出身なんていうのは、金融機関は使わないですね。やはり学校の成績の良い、実家もしっかりして多少の財産もある、そういう女学校出身の人を使うのですが、でも男がいなくなって、なかなかたくましい人間がいなくなったのですね。それで、石狩支部でセールスを専門にやっていた人をちょっと知っていたのですね。すると「みっちゃん、入らないかい」と言ってくれて、私は保険のセールスなんて嫌だと言っていました。そうではなくて代理店の手紙を書いたりする文書係として入って欲しいと言われ、入りました。それで日本生命に籍を置くことができました。それが昭和 19 年で、それから昭和 24 年までおりました。



昭和 23 年札幌ファッション洋裁学院卒業

その間に宮島初子先生が校長だった、ファッション洋裁学院という学校⁵が、天使病院のすぐ前にあったのですが、そこに夜学で 3 年ほど通い裁断科を卒業しました。(中略)

そうやって日本生命に事務員として入りまして、その間に洋裁学校を卒業している間、ちょうど昭和 23 年から昭和 24 年にかけて戦争が終わったとき、これは、私が終戦をむかえたのは、日本生命に事務員としておりました、名前だけ婦人部長になったんです。ただの一度も会合も開かず、何もしていません。会合の開き方もわからないんですね。誰も言うてくれないし、国防婦人会の時は言うてくれたからちゃんとやりましたが、国防婦人会の時代は、私の言うことなど相手は聞かないのですから、受けたものを全部口真似して言えばいいから簡単だし、言いたいほうだから言うわけでしょう。ところが日本生命に入ったら何をしたいかわからない。新生(しんせい)日本という言葉さえわからなかった。それで終戦の時には悔しくて、悔しくて、涙を流して放送を聞いたのですが、本当にあなた方からすれば嘘でしょうと思うくらい、神風が吹いてくると思っていました。本当に思っていました。日本は神国だから、負けるわけがないと。

日本生命に入ってからいろいろな人から話を聞きながら、ああ日本はやはり負けたのだと、かなり遅れてから意識しました。でも、私は、不安はなかったんです。なぜかという、親が半纏や地下足袋など、当時としては全くなかった木綿の物をたくさん持っていたんです。それで、今はあるかどうかわかりませんが、(札幌に)雁来(かりき)というところがあって、その農家の人と仲よしで、半纏や地下足袋や軍手と食



昭和 19 年日本生命札幌支社に事務員として入社
戦後、米国教育使節を迎えて

⁵ 現、宮島学園北海道ファッション専門学校。

べ物を物々交換していたので、私は食べる物にはあまり苦労しなかったんです。ただ、配給米になってからは遅欠配⁶が二十日位ありましたでしょう。その時には狸小路の山福(やまふく)という蕎麦屋の奥さんが日本生命に出入りしていたのですが、雑炊を食べるのに(そこに)並ぶのですね。一杯いくらでしたか、もう忘れてしまいましたが。私は二回立たせてくれるのですよ。当時のお弁当というのはこういうアルマイトの鍋にポンと蓋をするものしか無いのです。おかゆですから、弁当で持って行くようなご飯ではなかったです。汁が漏れないように蓋をするだけで、私たちが持って行った弁当は、スプーンと言って高い弁当だったんです。

そのような状況の中で、私は日本生命に行く前に職業についていろいろと考えたのです。というのは、昔は(女性が)働くということが卑しいことのように言われましたでしょう。けれど、戦争が終わってみれば、私だって働かざるを得ないわけです。いくら、親がかりと言ってもね。それで、これは愛する夫の子どもを何とか大きくしなきゃなんないと。お父さんに対してね。それが名誉の戦病死を遂げた、夫への家族のやることだという教えですから、大和撫子として何とかしなければいけない。それには、当時はパンパン(街娼)になるか、赤線ですね、赤線の女になるか、旅館の女中か、闇屋かで、手に職の無い女の働く場所というのはそのような場所しかないんです。そうするとパンパンは子どもの教育に良くない。そうかと言って、旅館の女中だと、とてもではありませんが、この子どもを抱えて、親に(面倒を)みさせてはね。旅館の女中は泊まり込みですから、泊まり込みだと深夜でも働くことができるので喜ばれるのですよ。そう考えてみると闇屋もちよつとできない。随分買いに行っても徴発で取り上げられてしまうんですから。そんなことを考えたら、まあ食べ物にはあまり(困って)なかったから、これは早いこと、人の良い男性を見つけて再婚しようと思いました。これ、打算的ですね。(以下、テープ交換のため不明)

■炭鉱での生活と再婚

炭鉱の鉱夫というのは、「人間」ではなく、「タコ」だと思いました。よく「タコ、タコ」と言うでしょう。それは炭鉱に行ってから、本州で身を食い詰めて炭鉱へ来た人で、自分の身を食べるから「タコ」というのだ、ということがわかりましたが、炭鉱の鉱夫など罪人の集まりだと思っていました。茨戸に監獄がありましたでしょう⁷。あそこに炭鉱の人や朝鮮の人が入っていると札幌で聞いているもんだから。

それから自分の造作はともかく、私は再婚をするのなら、自分より背の高い人、すらっとした人と思っていました。だから、理想だけ高いわけです。それと、戦争が終わって昭和24年くらいの小学4年生の副読本の中に職業のランキングが載っていたのです。ランキングは36番目までありました。

一番上が大臣などの国会議員や医者、そういう人たちで医者、音楽家、それから物理学者ですが、炭鉱の鉱夫を見ると尻から二番目なの。尻から



昭和24年2月5日光子29歳
太平洋炭鉱の多嶋義隆と再婚

⁶ 配給が遅れたり、切り捨てられたりすること。

⁷ 月形町にある樺戸集治監のことか？

二番目でしかも、その自分のすぐ上に、どんな職業があったかという、雑品屋さんがいたの。いかに炭鉱の労働者が冷遇されていたか。その後、私も炭鉱へ行きまして、炭婦協のことをやるようになりましたが、調べてみると炭鉱というのは日露戦争までは「燃える石」という評価しかされておらず、商業化はされていなかったんです。それから、日清、日露戦争で一躍脚光を浴びて基幹産業になったわけです。けれど非常に、最初はよく「佐渡の金山(かなやま)、鬼より怖い」と言うところだけに、囚人の人たちがみんな炭鉱に連れて来られて、刑期を務めさせられたのです。そういう歴史を持っていますから、逃げられては困るからと、本人に現金を預けなかったのです。そのような生活ですから、山札(やまさつ)など、そのようなもので現金はなかなか。豊里炭鉱などは昭和 35 年から昭和 36 年くらいまで、山札(やまさつ)だったのです。そのくらい、炭鉱労働者には現金は持たせない生活を強いたのです。

飯場というのは、どういう仕組みのところかという、「友子制度」と言って、親分が、部屋頭(へやがしら)がいますよね。その部屋頭が自分を慕ってくれる人を何人か組織します。これは殆ど独身者でした。結婚する程の給料も現金ももらっていませんので、結婚はしていませんでした。結婚ができるようになったのは昭和に入ってからです。それで、そういう人たちを集めていて、誰かが死にますね。その時にみんなで出し合ったもので葬式をしたり、病院にかけたりといったことをしたのです。ですからこの「友子制度」の団結はものすごく強かったそうです。私は昭和 24 年に来たので、それは知らないのです。そして、朝鮮人、中国人が強制送還⁸されて、本当に生かさず殺さず、病気になると死ぬのを待つというように苦役をしたのです。そんなことはあまり知らなかったのですが、炭鉱労働者などは嫌だったのです。

ところが、昔は見合い結婚には嘘があったのです。(見合い相手は)測量技師だと言うんです。そしてこの間、昭和 23 年にシベリアから帰って来て、太平洋炭鉱にいるのだけれども、とても大人しやかな人であなただより背も高いし、みっちゃんの理想に合うと思うのだけれども、というわけです。それで私は子どもに相談したんです。その時に子どもが何て言ったかという、前の夫の写真が 3、4 枚残っていたのですが、ところが実物を見たことが全くないわけですから、ただ写真を見ただけで顔を知らないのです。一方、家には祖父さんが、私の父がいますでしょう。だから、自分には二人のお父さんがいる。祖父ちゃんもお父さんというような気がするんじゃないの。写真のお父さんもお父さん、ということで「二人もお父さんがいるのに三人もいるの」と、言いました。息子はまだ小学校一年生でした。いや再婚が 2 月だから入学前かな、いや、あがってからかな、3 月かな。それから、実は、あなた、このお父さんは写真でしか見たことが無いけれど、まだ帰って来ていない。その当時、アツ島で玉砕した、ソロモン海戦で玉砕したところから生き残りの兵隊がどんどんトラックで帰還されて来ていたの。そして、毎日、お前のお父さんも、どこかで生きているといいねというのが、子どもとの毎朝の挨拶でした。そして、なんか釧路に生きて帰って来たから見に行くだけ見に行こうと言って、子どもを連れて行って、帯広で見合いをしたんです。

すると、まあ背は高いけれど、大したいい男でもないし、とそう思っていました。そして、いろいろと話して、私はとにかく心臓が強いので「あなた、今、おいくらくらいの給料をもらっていますか」と聞きました。金融機関は年に 4 回位、ボーナスがあるのですよ、今でも。当時、私は 6 千円くらいもらっていたの、親には 100

⁸ 強制連行のこと。

円だけ食いぶちを出して、残りは自分で全部食べていたんですけね。社交ダンスをしに行ったり、いろいろナンパしたりしたの。

代ゼミ⁹の向かいに「エルム」というカフェがあったのですが、つぶれてね。うまい具合に日本生命などでも、北大生などは卒業して入社すると、まず私のところを関門として通らないといけないの。そうすると、私はいろいろと、今度の休みにダンスに行こうと誘って、そして、行ったりしました。私は子どもがお腹に入った時から煙草を吸っていましたが、日本生命にいた時に私が机のところで、ばあっと煙草を吹かしているでしょう。支店長が代わった時に、あれは何者だと言ったそうです。そういうくらい、普通の人から見るとものすごく、今の言葉で言うと、「とんでいる女」という、とんでもない女だったのです。まあ、そんな日常でした。ですから、お金も貯めようと思ってあまり貯めていませんでした。そうしたら、大体6千円くらいだったのかね、円が値上がりしてからですね。

そして、夫に「あんた測量技師だと言うけれど、測量技師って何をやるんですか」と聞いたら、兄嫁がお勝手をやっていたのに、さっと通って、「それは新しい山、新しい山を開拓していくんだ」というわけ。ああ、なるほど、新しい山ね、と私は思いました。後になって、夫を虐める時に言ったのですが、「あんた新しい山、新しい山を開拓するって言って、私も新しい山を開拓されたしょ」と、笑ったのですが、そういうふうに言われて、ああ、そうすると鉱夫ではなく職員かと、そう思ったのですね。札幌では職員のところに行くとするので大判振る舞いの立ち振る舞いをしてくれたわけですから。だから、私は結婚してから、日本生命に行くのが嫌だったの。だって、それが鉱夫、機械夫だったわけでしょう。もう嫌だったの。それで、しばらくの間、日本の会長(日本炭婦協)をやるようになってからは、会議のためにしょっちゅう東京へ行くでしょう。私は誰とも話をするので、「お宅の旦那さんはどこにお勤めですか」と、「太平洋炭鉱の勤務です」と言っていたの。そのうちに、ああ、違う、「労働組合の組合員」というふうに言わなければいけない、と気がついたのは、母親大会に来てからですね。労働者の使う言葉と、資本家の使う言葉があるということがわかったのは、母親大会の時ですね。それまでは、恥ずかしくてね、「ええ、太平洋炭鉱に勤めております」とまるっきり、いい振りをしてしまっただけ。そういうふうになっていたからね。

そうしている間に、子どもは「母さん、写真の顔と違う」と。「そりゃ、あんた、焼夷弾で焼かれたり、気に入わなきゃ上官に顔を殴られたりするから、顔もちよっと違ってしまったかも知れないよ、もっと良く見なきゃ」と言いました。すると、子どもが「母さん、後ろにハゲがある」と。子どもの時にやけどをしたハゲがここにあったのです。それで夫は、なかなか学校に行きたがらなかったらしいのです。いやあ、あれは面白かったですね。

そう言っている間、2時間見合いをしている間にもうすっかり自分の中では父親になっていたのです。そして、お酒も出されるでしょう。夫は飲めない人でしたが、膝のところに「ちょこん」と腰をかけて、飲まない、「飲みなさい」と言う子どもになっていました。それで、私は親にも相談しないといけないなと思っていたし、もう少し待てば、もっと良い男性がいるのではと思っていたし、親も無理するなと言ってくれていましたしね。そう思ったのですが、子どもをもう二度とだませないと思いました。今だましたら、もう同じだましは効か

⁹ 代々木ゼミナール札幌校のこと。

ないと思いました。そう思って、「どうでしょうか」と言われたから、親にも相談せずに、「いいですよ、来ますよ」と言いました。

そうして、2月に釧路に行ったら、ひどいところだったの。春採でも一番悪い社宅。いわゆる、六軒長屋でね。吹雪の日でしたが、トイレに行きたくて行ったらもう、トイレがもう枠が山になってうんちが凍っているでしょう。そして、山になってしまっているもんだから、うんちを便所にしないで、通路にしているわけですよ。私はもう、あれを見たらがっかりしたの。こんなところはとてもじゃないけれど我慢できないと。そして部屋も二間しか無いでしょう。そこに、おしゅうとめさんもいるんだから。

夫は五男でしたが、うちの居心地が一番良かったようなのです。スズと言って義隆の母親ですが、これがまた鳥取の藩士の娘でね。鳥取から引っ越してきて鳥取村を作ったのだから、その武家の出身なのです。気位の高い人でね。私が「お母様、ご飯ができました」と、言わないとテーブルに向かわないの。私はね、「ちょっとお母さん、面倒くさいから、お膳出して、お茶碗出したら座ってよ」と言ったら、泣いちゃってね。あと、私は背が高いから、棚も高いところに吊ったら、それも泣かれてしまってね。弱っちゃただけでね。それでも亡くなる時はまた家に帰って来てくれて、亡くなりました。

まあ、ひどいところで、これは札幌に来て、うちの父の仕事をさせればなんぼでもあるわけですよ。それで、早く連れ出そうと思って、行ってすぐにファッション洋裁学校のあれをあれして、何とか私も少し働きたいと思って、洋裁を教えたのです。10人くらい生徒がいました。それから、なんせこの弁舌が、舌から先に生まれたような人間ですから、それで主婦会の会合があって、班長になったのです。(釧路に)行ってすぐでした。2月に結婚して4月に班長になりました。そして、洋裁でも教えているというので、なかなかの者だと思ったのではないですか。

■太平洋炭鉱主婦会・会長として

当時、やはり、坑内に男性は少なかったの、裸で、お腰¹⁰一枚で坑内に入っていた女性たちが最初の組織をしたのです。ですから、大変な私以上の「あばずれ」が、いっぱいいるわけですよ。「あばずれ」と言う言葉が悪いから、「あねご」がいっぱいいるのです。

そして、主婦会のいろいろなことを提案するのは、主婦会の役員ではなくて、いわゆる、組合の教宣部の人たちがいろいろな提案したり、答弁をしたりしました。そして、そこにいつでも焼酎があるんです。焼酎がダンと据えてあって、飲みながらこういう鉢巻をしてね。子守結びっていつのか、前の方に結んでね。そしてこういうふうにして、ダンと置いてグビーっとね。会長さんやいろいろな人が、グビー、グビーと飲みながら、



昭和26年太平洋炭鉱主婦会会長となる

¹⁰ おこし:女性の腰巻のこと。

ね。そのうちに喧嘩が始まるわけ。そうするとお前はの間、下駄を買ってきた金を主婦会から出させた、だとか、つまらない話で喧嘩をするのです。それをずっと、40 人くらいがだまって見ているの、こうやってね、帰りたい顔をして。だから、私は「あんた方、ここに何をしに来ていて、何時間ここに座っているのだ」と、「私たちはあんた方が酒を飲んで喧嘩をするの見物に来たのではない、私は帰ります」と言って出てきたの。そうしたら、全員、ぞろぞろとついて出てきてしまったの。それで、「あの野郎、たいした者だ」となったわけ。それですぐに、この時に総務部長になったの。ひどいものですね。そして、昭和 26 年に会長になりました。

その時に私はどうしたと思いますか。最初になった時に私がテーブルに向って、ただいまから主婦会の会合を始めますと、それは慣れていきますね。国防婦人会時代に経験がありますから。そう挨拶をすると「うん、どったらことするのかな。俺見てやる」と言って、ばあっと着物を捲いたら、私の前に三人が並びました。私はその時に～。¹¹

(テープ変換のため音声なし)

そんな大きな声出すのなら、あんた以上に私は声が出せるのだからと、「があっ」とやるものだからね。その時は私がやりたい、やりたいと言ったのではない、みんながやってくれ、やってくれと言うからやったのだから、私に文句をつける者がいるのなら、たった今辞めてやると、何時でも辞表を懐に入れていました。これが武器だった。そして、やり手だったのですね。訓練をされていますから。人をおだてて使うことも知っているし。それから男性とも随分、よく喧嘩をするのです。私は、その点でやはり、今でもある先生は町で会うと、私のことを「あねご」って言います。私が、「もう 70 歳近いのだから、あねごって言わないでよ」と言うと、「いつまでも、その血は、あねごだべ」と言いますが。

やはり、そういう荒くれの中で育ってきて、頼もしくなければ会長は務まらないと、その時から思っていました。私が会長にされたというのは、私が立ったら、みんなが私についてきた、この影響が大きいというのを、そんな理屈っぽく覚えているわけではないですよ。けれど、それだけの力が私にはあるのだから。人をあれ(引きつける)する力がね。それが怖くて会長にしたのだと思っていました。そのかわり、ちゃんとやったのです。

それと、もうひとつ、私は哲学的に炭婦協で覚えたことがあります。私は副会長というのは、道婦連¹²の副会長と炭婦協の初代副会長しかやっていません。後は全部会長でした。実行委員長とね。そうすると会長や実行委員長というものは、長くそういう任務を務めあげるといったことになった場合、大事なことが何かと言うと三つあるのですね。ひとつは金銭に汚くないということ。それと艶聞が無いということ、誰かと仲良くなったとか、そのようなことがない。もうひとつはみんなを仲良くさせて、自分で孤独が守れないとだめだということです。自分が中心になりたかったら、人と仲良くできないものなのです。自分がのけ者にされて面白くない人がいますよね。それは会長を長くはできません。だって、いい加減、何十年もやれば飽きてきますから。代わってほしいと思われるでしょう。そういうものなのです。そしてその中で人を押しのけるわけだから、余計

¹¹ 「そっちがそうならと議長用の机に座り自分も裾をまくった」(林恒子氏による補足)。

¹² 北海道婦人団体連絡協議会(現北海道女性団体連絡協議会)。昭和 32 年度副会長(道婦連協二十年史)。

に厭らしさが目立つわけでしょう。これは、炭婦協で身につけましたね、私。

そして、とにかく、私が行った時には、「天ぷら 10 枚、ツケ何々さん」と請求が主婦会に来るのです。天ぷら蒲鉾 10 枚のツケですよ。帳簿も何もなかった。それで私の前会長で井口さん¹³という会長の事務局だった、武内さん¹⁴、この人の父親が後でレッドパージになるのですが、なかなかしつかりした奥さんで、帳簿が無ければだめだと、それからもうひとつは役員をきちんと位置づけしないとだめだと、そのようなことがその人の口から出ていたのですね。そして私の代になってから、帳簿もつけるし、班ごとにそれぞれの役割分担も決めてやるようになりました。それまでは本当に大福帳でした。前の会長さんが辞めて、これは悪口ではなくて、そういうこともあったということで、百、いや、十何円魚屋に主婦会の借金がありました。

そんなような状態で主婦会の会長になりました。その時は、私は貧乏なのは個人の責任だと思っていました。そして、戦争なんて、必然的に起こるもので、人間同士の争いと同じだと思っていました。それから、強いものが弱いものを食うのは当たり前だとも思っていました。本当に人間らしい考え方には全く立っていませんでした。そうでしょう？弱い者を食うのは当たり前だと、そういう気持ちでいました。だから、私ほどできる者がいるならやってみろと。当時、鰯を貨車で買うなど、随分とやりました。当時は交通の便が悪かったし、炭鉱は山坂があって、そうすると、貨車で買って箱に入ってきた、その鰯をリヤカーに積んで配達するのが大変だった。

それから、行った当時は、ちり紙を 1 枚ずつ、20 枚を束ねて配給したものです。マッチの棒もそうです。輪ゴムでまとめていました。そんなような仕事をしないとイケませんでした。本当に、ちり紙 1 枚でも喧嘩が起きました。そういうような状態の中でジャガイモを買って種イモにして、空き地だったところを野菜畑にもしました。

いろいろなことをやっていく間に、やはりできるし頼もしいということで、もうひとつ、私が長く続いた理由があると思っています。それまでは自分たちで宣伝ビラなどは書いたことがなかったのです。全部労働組合が書いてしまうのです。私が(会長に)なってからは、どんなに下手でもいいから自分たちで書こうと。今にして思うと、ウーマンリブの考え方で男が女をだめにしていると思っていましたから。ですから、私たちの手でやろう、相手に意思さえ通じればいいのだからと。そういうことで書くでしょう、そうするとやはり炭鉱にはいろいろな人がいますから、戦後になって女子大などを出た人もたくさん入って来ましたが、そういう人はうまくすり抜けてしまって、役員には出て来ませんから。そうすると、字の書けない人もいますのですよ、間違いもたくさんありますが、鉛筆を舐めながら一生懸命に書くわけでしょう。

それを会社の掲示板に貼らせてもらうわけですから、会社に持って行って見せないといけないのです。すると、この字が間違っている、こんなことで主婦会は良いのかと言われ、泣いて帰ってくるわけ。そうすると、私は雪下駄を履いて「がっ、がっ」と、鉱業所に入って行って、課長や労務主任を徹底的にやっつけてやった。そうすると、みんなが仕事をやめて、こうやって見ているから、「何見てる、あんた方、さっさと仕事をしなさい」と。

¹³ 井口みさおさん(太平洋主婦会機関誌「母のうぶごえ 50 年史」14 頁)。

¹⁴ 武内幸子さん(ただし「母のうぶごえ 50 年史」14 頁には副会長とある)。

Q:会社の人と喧嘩をした、というのはそういうこともあるのですね。

そう、そう、そう。皆を泣かせるから、私は腹が立つ。そして私は必ず鉱業所に入っていく時も、労組(労働組合)に入っていく時も、相手に対する礼だけは尽くしたんですよ。「ご苦労さまでございます」と、それを言ってからおっかない(恐ろしい)わけ。でも、それは必ず言いました。だって、働いている人はみんなご苦労さまですからね。そして、「だけどね、課長」と始まったら、声が大きいものだから、鉱業所中のみんながこうやってね。大きな部屋でしょう、そこで「あんた方、何をやってんの」と。まあ、そんなふうにしてね。炭鉱では、(女性のことを)大抵は「母ちゃん」か「姉さん」というのです。隣近所の人は「姉さん」、偉い人は「母ちゃん」というのですが、そんなふうだから、私が行くと、私のことは「光子さん」と。だから、私は「親からもらった名前だけれど、あんた方に光子さんと言われる筋合いは何もない」「多嶋さんと言いなさい」と言い直させるんだね。それから、「奥さま」と言われると、「いつもは奥さんで来たけれど、今日はおっかあで来たんだから、よろしく頼むよ」なんて、行くわけね。それが、そんな、女傑みたいのがやはり信頼されたのではないですか。それと、「いい」と。

「会長なのだから、会長というのは皆の責任を私が持っているのだから、恐れなくてなんでもすれ(しろ)って」と私は言いました。「全部、尻は拭いてやるから」と。そこらへんが「あねご」だよ。それが、やはり理屈ではなくて。岡田利春とやったことを随分と書かれていますね。岡田利春が青年部長から、太平洋炭鉱の委員長になりました時に、「主婦会とは車の両輪である。しかし炭労がなくなれば、主婦会はなくなる」と、そう言ったのです。何を言っているのだと、何で労働組合がなくなったら、主婦会がなくなるのだ。私が会長になってからは、自分たちで会費も集めましたからね。だから、「会社のある以上は、労働組合ではなく、会社がある以上は、主婦会はなくなるのだから、生意気なことを言うな」と言うものだから、論旨は滅茶苦茶でも、そういうことをいう会長は、今まではいなかったのです。なんせ論旨は別で「会長、がんばれ」と会場中、沸き立つわけですから、あの人も、たじたじになってしまっただけ。そんな私でした。

ですが、仕事はやりました。まず、張り合いがあったの。会社に押しかけて行くから、米取れる、味噌取れる、長靴取れる、地下足袋取れる、何でも取れるんだから。そして、「無い」と言ったら、守衛を連れて行って開けさせてでも、しゃにむに取る勢いを見せるので、うるさいということがわかっているから、少しでも出さないといけないのです。随分とお願いをしてね。

函館教育大の清野先生¹⁵をご存じですか。あの先生が炭婦協を称してこう言ったそうです。「炭婦協は、非常に物取り闘争はうまいけれど、炭婦協には思想が無い」と。それで私は、偉い学者が何を生意気なことを言っているのだ、と。「思想が無いと言ったって、思想が無くても、食べるものが無ければ物を取ってくれば、それで良いのではないか。そこに思想が(あっても)なにをするの」と、私は演説をしたことがあります。

¹⁵ 清野きみ氏のことだと思われる(北海道教育大学函館校)。「清野氏は女性団体(婦人労働者と家庭婦人)の連携を模索している頃だったようだ。女子大を出て数年の函館でも『食糧よこせ』の時代。多嶋氏の物事を学ぶ姿勢と吸収力が溢れるエピソードだと思われる」岸伸子氏からのコメント(2015年4月15日)による。

5月1日のメーデーには必ず、私はね。私は面白いなと思ったのは、炭労の大会に、大概、主婦会なんて馬鹿にされるでしょう。炭労だけは、主婦会の会長は必ずメッセージをするのです。メッセージをしないとならなかったのです。そこで5月1日のメーデーなどで釧路に行くでしょう。ガンガン(一斗缶など)を叩いたり、貨車に乗ったりして行くのです。そうするとそういうところで、私は、清野さんを名指して、「何を生意気なことを言っているのよ、あなた、大学の教授が生意気なことを言うな。物が無くて食べられずに腹をすかしている時に、物を持ってくればそれで良いのではないか。そこに何が思想だ」なんてね、勇ましいことを言っていたのですが、考えてみたら、何で会社ってこうやって闘争をしないと賃金をくれないのだろうと、段々と思うようになりました。

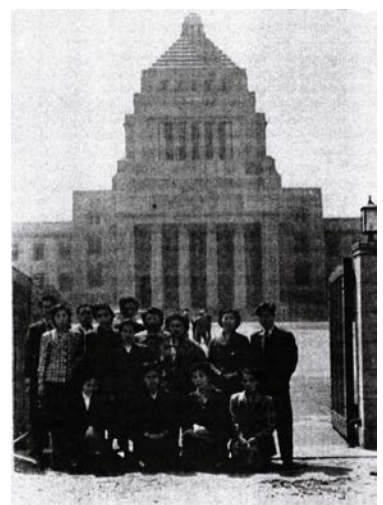


昭和26年5月太平洋炭労メーデーに決意表明

うちの父さん(夫)なんか馬鹿みたいに優しい人で、休まない労働者なの。それなのに、うまく回る人は10時間の残業手当をもらって、何でうちの夫は残業をしても2時間しかもらえないの。そういうふうを考えていくと、あれ、これは、貧乏は個人の責任ではないぞ、ということがわかってきました。

それから今度、昭和25年頃から朝鮮戦争が始まってきますね。その前に、レッドパージは、私は知らないのですから。そうすると、黒ダイヤの戦士とものおどされて、加配米も少し多くなって、地下足袋などももらえるようになって、もう働いても、働いても、働いても、二番方も三番方、お父さん(夫)たちは一緒になって働いたのですから。一、二、三番方って、三交代だったのです。それをうちのお父さん(夫)なんて、私がいなくて、何も言わず黙っていたら、ひょっとすると三交代全部を働いていることがあるのですから。

そういうような生活を続けていく中で、さあ、今度は炭婦協の編成があるわけでしょう。私が出て行った時には炭婦連(北海道炭鉱主婦連絡会)と言っていました。北海道の運営委員をやっていました。その時は赤間炭鉱の中野好子さんという人が、炭婦連の会長をしていました。そこに地区協などは無くて、炭鉱(やま)が何山か入っている中で、代表者会議のようなのが開かれていました。私も運営委員のような形になって出て行って、次の年に発展的解消をして、炭婦協にするために5月の段階で発展的解消をして、道炭婦協(北海道炭鉱主婦協議会)を名乗るようになり、初代会長に私になりました。そして、中央(の炭婦協)が9月ですから、そうすると今度は、準備委員会というのが作られて、福岡、佐賀、熊本、長崎、山口、常磐の方に行きましては常磐炭鉱、好間、日炭高松だとか、杵島炭鉱とか、もう名前を忘れましたが、たくさんところが加入して、確か115支部、11万(人)と言われる組織ができて、そして野仲ツマさんという、日炭高松の方が初代会長になって、その後すぐ私が一年間ですぐに会長をやりました¹⁶。



昭和27年日本炭鉱主婦協議会結成

¹⁶ 日本炭婦協は1952年9月(11)12日発足116支部、84,300名という記録が残っている。

そして、随分と会長の年数も長いのですが、私は最初に主婦会をやる時に、上田歆子さんという、北海道の婦人少年室長が来ていました。それで、随分といろいろな主婦会の講座によんだことがあるのですが、婦人少年室長ですから、あの当時は民主主義を何とかして発展させようというふうに使っていた人だったのだと思います。「役員などは長い間やっていると、その会はマンネリになるし独裁的になってだめだよ。だから役員は頻繁に変わる方がよい」というのが、その先生の持論でした。それを聞いて、ああ、なるほど、そうだと。その点、私は素直で、その素直さが今までの私を支えてきたと思います。そうでないと、ろくでもない自民党の女性になっていたのではないかと思います。さっきも言ったように、考えてみるとそう思います。それで、やはり、一回ごとに(役員は)代わったのです。毎年代わったのですから、太平洋炭鉱の主婦会には7、8人の会長がいるはず。けれども、やっぱり多嶋さんでないとだめだということで、また会長をやらせられました。

そして、その後ろのあとの方にありますが、私は、夫の退職が近くなってから、女性に政治の道を開けなければいけないと考え、炭婦協でやる私たちは私たち、それから女性の立場で市議員、村議員など、いろいろなところへ女性も立てて、女性の代弁者となる人を育てないとならないと思うようになってから、随分たくさんの方が市議員、村議員に出ました。後で、あまり良くななくなりましたけれどもね。そうやって出したのですが、太平洋炭鉱の主婦会からも出さないといけないと思って、私が推薦して会長になった、石川セイ子という会長がいて、その女性は学校の先生もしていて、庶路中学校などの受け持ちもするなど、なかなか優秀な、しかも綺麗な女性でね。私はその人を要請したのです。

私自身も、道議や市議員を何度も勧められたんですが、私は自分では、三つのことを考えて、政治の世界には出ない、と最初から思っていたんです。

■母親大会について

それは、母親大会に行つて来てからなのですが、ひとつは、母親運動に14人で行きましたが、世界母親大会の代表として、ずっと活動を続けているのは、私しかいないんです。なぜなのかと言うと、私はまだ若いほうで、ご年配で病気になって亡くなった方もいますが、帰つて来てから、みんな、「先生」と呼ばれるようになってだめになっちゃったんです。そこにありますように、「時の人」になりましたから。「炭鉱の母ちゃんが、洋行」ですから。あの「あねご」が「洋行」、ですから。「時の人」です。そして、もう一躍、世間は偉い人を見るような眼になっちゃうんですね。それで私たちは、私もものすごく思想的に変革を持って帰つて来ましたが、ただ、その時でもソビエトに入るのは、ものすごく皆、躊躇をしました。「アカ」って言われたくない、とね。そう思ったのですが、英語もわからないし、ソビエト語もわからない。ついて行くより仕方がないのです。「ええい、ままよ」っちゅうなもんですよね。私は、「アカ」くならないぞ、小笠原さんみたく、「アカ」くなくてたまるものか、あんな洗脳はされないぞと、入つて行つたわけですね。すると、洗脳されたわけではないけれ



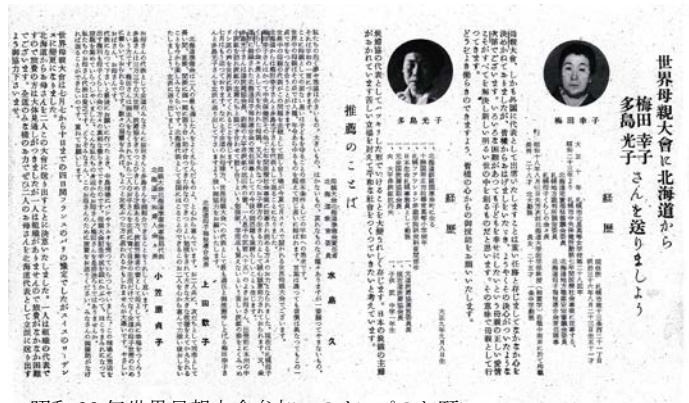
昭和30年世界母親大会
人生最大の意義をもたらしてくれた

ど、見たら本当にそうだったからね。ああ、小笠原さんが言ったことは嘘ではなかったのだと思ったんですが。

そういう気持ちでしたから、自分では「分(ぶん)に過ぎたこと」を、北海道のお母さん、炭鉱のお母さん、全国のお母さんがカンパして、当時のお金で140万円を作ったのですから。狸小路の4丁目か5丁目に、ヨロイヤさん¹⁷があったのですが、雨の日も風の日もそこに行って、2時間しゃべって(話して)12円しかもらえなかったんですからね。そのくらい、民主的な運動に対する理解というのは、まだまだだったわけでしょう。前の年の昭和28年に小笠原さんが行って来ましたが、あの人だって、みんなが、たいしたものだ、

たいしたものだ、と褒め称えた一面、労働組合、その当時、小笠原さんなんて、随分、労働組合に入って来ていたのですよ。松浦一さんなどと一緒に平和運動をしていましたから。けれども、私たちも労働組合が言うから、洗脳された、と思っていましたからね。ですが、そういう小笠原さんの下地がひとつあって、母親運動というのができてきたわけでしょう。もちろん、平塚らいてう先生が、前後3回にわたって受けた原爆の被災国だと、その母親だということで訴えて、それから母親運動が始まるわけですが、私などは、母親なのだから、母親運動に行くのだろうと、そのくらいにしか思わなかったのです。だって、原爆が落ちた時にも大変な爆弾が落ちたのだ、というだけで、私たちには何年も知らされなかったのですよ。もちろん、資料はみんな持ってっちゃうしね。ね、だから、そうですね、昭和29年にその運動が起こっていくわけですから、随分の間ね、(昭和)20年でしょう、終戦は。大分、長くまで、なんか、ピカドンが落ちたって言ったのですよ。なんか、ピカッと光ったらドンと落ちたと。今まではドン、ピカだったの。それが、ピカ、ドンが落ちた、とこうなって、ピカドンというのが落ちたのだと。そう言っていることしか聞いていないのです。そういう状態でしたからね。だから、母親大会へ行く時に、おっかさんの(集まりの)ところへ行くのだと。

ただ、ひとつ、私が困ったのは、いろいろと子どもがいる人だとかね、今までに平和運動をやってきた人、それからこれからも平和運動を続けてくれる人、これが困ったのですよ。朝鮮戦争が始まる前からずっと、「平和」と言ったら「アカ」と言われた時代ですね。そして、朝鮮戦争が終わっても、中国がほら、解放されるような状況の中で封じ込め政策が行われる前段でしょう。「アカ」と言われた時代なのです。だから、「アカ」いなんて言われてしまったらと。私は毛虫が怖いのですが、一番怖いのは「お金」で、二番目が「毛虫」で、



昭和30年世界母親大会参加へのカンパのお願い



昭和31年豊里にて小笠原貞子さんと

¹⁷ ただし、編者が調べた範囲では同名の店舗はない。

三番目が「アカ」だったのです。炭婦協の会合に、随分といろいろとあって。また共産党の人がたは熱心だったのね。来て下さいと言わなくても(会合に)来るのです。そうすると私がね、「あら、社会党には来てくれて言ったけれど、あんたには来てくれて言わないから、帰って」とか言って、追い返してしまうのですよね。そんな恥ずかしいことが何年も続いたの。だからね、今も共産党の人に、「あの当時の多嶋さん、怖かったものね」と言われます。「出て行かなかったら、つまみだすよ」と言うんだから。そんな私だった。ごめん。

それで、そうやっている間に「先生、先生」と言われるようになったの。私はね、「ああ」と思いました。このことでね、「得意絶頂の時」とはこの時のことだな、と。「先生」なんてね、炭鉱の母ちゃんを「先生」なんて言わなくてもね。「おばさん」でもいいんでないかと。何で「先生」って言うんだろう。「先生」と言うと、「先生」と言われただけの話しをしなきゃなんないと思っちゃうわけでしょう。私は「あねご」で「おっかさん」なのだから、おっかさん流にしゃべりたいのだからさ、先生なんて言わないでよ。「先生と言われるほどの馬鹿でも無い」という言葉があるでしょう、と私ね。みんな「先生」と言われて偉くなっちゃった。そういうつもりでいたのです。だから、私が思うのは、さっきの哲学のところに戻すと、「なった気になるな」と、ということです。



昭和33年8月第4回日本母親大会北海道代表团



昭和34年第5回日本母親大会参加

人はおだてますよ。おだてた方が、相手が気持ち良く動くと思うからおだてますよ。特に社会党なんかね。私が母親大会行ってからは、ものすごく、私を大事にしました。ますます人気が高くなるわけでしょう。そして、もう男にも負けないような状態がね。割と今までは男らしい女、母ちゃんだったけれど、今度は幾らか労働組合も理解しながら、ああ、社会主義という国なんてあるなんて知らなかったのが、あったのですから。

それから中国が解放したのは、農民や、青年だとか、労働者が解放したのでしょう。あつ、こら、労働者つてたいしたもんだなって思ってから、うちのお父さんの、あなたのお父さんの勤め先はと聞かれたら、「太平洋炭鉱労働組合の一員です」と言えるようになった。これは、ひどい変革なんです。だからものすごく、ものを素直に見ていたのね。

そして、私のこの自信が揺らがないのは、自分の目で見て、踏みしめて、掴んできたものだからだと、誰が何と言おうと揺らがないんです。これだけは幸せだったな。そういうのが母親運動だったと思うんです。そして、帰って来てから、懐に入れた辞表を、今度は外して歩いたの。いつもこれは武器だったのですね。

Q: 本当に入れてあったのですか。

入れて無いんだ。代わりに紙切れを入れてね。入れて無いのだけれど、これは辞表だって、皆に言っておくわけさ。そして「うん、文句あるなら辞める、何時でも辞めてやるよ」って。その、何時でも辞めてあげるよと言うのも、ひとつの武器だった。会長のなり手が無いんだもの。タダ仕事だから、あんた。少しでも給料をくれるんならいいでしょう。私はね、炭婦協も母親(運動)も、報酬をもらったことが無いんですから。私のことはタダで使えると思うから、どこでも、いろいろなことをさせるけれども、給料のひとつもくれたところは無いんだから。ただ、日本生命とそれからさっきの労働省の嘱託¹⁸、これは、ひと月3万円もらった、それだけ。日本生命はたくさんもらっているけれどもね。あと、どっこも給料くれるところ無いんだよ。だから今、何でお茶とお習字をやっているのかと言ったら、ひとつは仲間作りの方法として考えたし、いくらか稼がなきゃならないということがあったんですよ。

そういう時を過ごしていましたが、母親大会に行く前の段階での活動で、私は「ううん」と、やっぱり、階級的なものが身についたと思うんです。と、言うのは、朝鮮戦争が終わると企業整備反対闘争がありました。企反闘争¹⁹というのが、ですね。そうすると、もう、お父ちゃんは当てにしているわけですから、闘争の時にはいつでも主婦会がいなければと。主婦会が無ければ闘争もできない、と言うのはね、なにも大変な力があつたからでは無いんですよ。お父さんたちが、なぜストライキをやるのか。労働者の武器はストライキだと、組合から教えられるけれども、実際に休めば(賃金が)入って来ないわけですから。そうすると、文句は台所から出るので。最初の段階では、組合潰しをやるのは台所だったのです。それを、お母さんがいろいろ組合に行つて話を聞けばね。今の日本の支配階層というのは、労働者が要求してストライキしなければ、出さないのだから。そうすると、主婦会でも、こりゃ、ストライキをね、何とかして支持しなければならぬと思うようになったわけです。その力なのです。そりゃ、最初のうちはストライキなんかやったら、お父ちゃんと夫婦別れするとかね、いろいろ言った炭鉱(やま)の主婦なのです。それがもう、主婦会ができて、そして労働組合と一緒に話をして、部落常会をやるようになってからね。だから、私など、部落の主婦の人に話をするのに、繰り込み所って、地下に入るところの詰め所があるでしょ、あそこへ行ってね。そこで、お父ちゃんたちと話をするのが、私は大好きだったの。それを皆がね、「なにを、多嶋のおっかあが、またしゃべって(話して)いる」という風に顔ではそうしているのよ。そして、後ろ向きになって煙草を吸ってね。「なに、おっかあ、何しゃべって(話して)いる」という振りを見せるの。でも、耳だけはこっちを向いて、「ぐう」と、こんなになっているの。それが楽しくてね、うん。私ね、「あれ、あそこにお父ちゃんいるけれどさ」とか言って、しゃべる(話す)のだよね。そうしたら、うちの夫は、「また言っている」という顔をしてね。人の前でも、「うちのお父ちゃん、えらいのだからね」とか言ってね、そんな冗談を言いながら、しゃべった(話した)のですけれどもね。

そうやって段々、段々、段々、敵が沸いてきているでしょう、企反闘争では。それから企反闘争が激しくなつて、雲行きが激しくなつていくと、どうしても、政府の要求はどんどん出せ、という要求なわけだから、そうすると保安サボ²⁰が起こってきますね。保安に対しての手抜きが出てきます。すると、ものすごく殉職者が出

¹⁸ 労働省の年少就職者相談員を委嘱(昭和45年6月～昭和48年まで)

¹⁹ 企業整備反対闘争のこと

²⁰ 保安のサボタージュのこと。保安に対する手抜きを指す。

るわけでしょう。お父さんの命が危ないのだから。炭鉱の労働者って、弁当と怪我はつきものだって言うけれどもね。そんなばかな話があるかって。ちゃんと枠組みを組んでね、掘進と言うのですが、枠組みを組んで前へ、前へと進んで行けば、それは山鳴りって言ってね、山が動いたり、山が鳴いたりするのだそうです。そうだったり、坑木を作ったのが、こんな風になって震えたりすることがあるらしいの。そういうのだって、きちんと見つけてやれば、上から落ちて来た物の下敷きにならなくていいのだろうし。そうことやなにかも、段々、段々と、坑内の中のこともお父さんから聞きだして、わかってくるようになってから、お父さんの命を守ろうという闘いになっていくわけですね。そうすると、命と引き換えの闘いですから、どんな闘いをやっても熱が入るんですよ。加配米にしたって、なににしたって、ものすごく熱が入ってくるわけですね。そして、職員なんかにはね、「お前の母ちゃんも未亡人にしてやるか」とか言ってね。そんなことを言って職員を脅したりしました。でね、陰に回っては、私はね、この人たちも私たちと同じように可哀想なんだなと思いました。だって、社長は出て来ないのだから。そうするとね、課長だとか、鉱長だとか、係長がでてくるわけでしょう。この人が会社の代表だから、あなたが代表だから、私は言うのだと。言うけれども、あなたの立場はわかっていますよと。だから、あなたが、あなたにしてほしいことは、言ったことを上に告げることだと、こういうことがありましたと言ってくれと。それを、なかなか上司のところには持っていけない、そんなものくらいおさめることはできないのか、となるから、言わないのです。ところが、その点では、いつも言うてくれました。そういう人の奥さんと私たちはとっても仲良くしました。だからね、職員も始めの段階では組織(=主婦会)の中に入っていましたね。ところが段々、闘争が激しくなるにつれて、自分たちのお父さんが吊るし上げられるわけでしょう。いたたまれなくなって、抜けてったり、もう、とてもじゃないけれどあんな恐ろしい主婦会とは一緒になれないっていつたり、抜けていく段階がありました。それから、主婦会の敬老会なんかは一緒にやりましたが、二つの会ができていく過程がひとつありますね。

そういう中でも、私たちは陰になって、一緒にやっていた時も、会社に交渉をする時にはあんた方は出るなど。あんた方は職員の奥さんだから、立場上あれだからね、出るんじゃないと。そういう時には私たちに任せて下さい。何か作る時にはあんた方、一生懸命やって下さい、というふうにして庇ってね。そうやって、私はやりましたね。だから、職員の奥さん方も随分私を頼りにしてくれて、こっそり教えてくれたこともあるしね。いろいろとしてくれた。敬老会なんかになると、旦那もリヤカー引っ張ってね、物運んでくれたり、いろいろなこともしてくれたり、一生懸命、私たちに協力もしてくれましたけれどもね。

(テープ交換による中断)

～した階級だなどわかってくるわけです。同じではないのです。この人は言いたくないのだけれども、後ろで言わせている者がいるっていうことが、わかったのです。そうすると、この人が憎いのではないのですよ。この人の後ろに、後ろにいる者に目を向けていかなければならないというのがわかっていくでしょう。これは、毎日のように敵を前にしているからですよ。ははあ、これが思想というものかと、ということがわかってきたわけですよ。思想というと、イデオロギーというような言葉も使われましたでしょう。ああ、それは共産党が使う言葉だと思っていたの。だが、そうではなくて考え方のことをいうわけだけれどもね。そんな風に思っていました。

そして、母親大会から帰って来てから二年間はもう、うちにあまりにいたことがないですね。それと、実家が札幌にありましたので、実家だと宿銭(やどせん)がかからないでしょう。だから、何日か釧路に帰らなくても、別にお父さんは文句を言う人では無いし、それから、結婚した時に思うようにさせてくれないと、何時でも出てくよと言ったものだから、お父さん(夫)もね、こんないい奥さんはいなかったのではないですか。

■会長としての組織論

そのようなことでね。とうとう昭和 26 年に会長になってから、ずっと、ひっきりなしでしょう。それで私はさっき言ったように、炭鉱(やま)の会長は、こうやって代えましたが、なんせ、釧路を代表して出てくのは私しかいないみたいにして、私が出て行って。そして会長をやった者でも、会長をやった者が運営委員に下がるっていう、ばかな話は無いって、会がやりにくいって言ったのを、私はその話を聞いて、「よし、これは、私がお手本を見せなきゃなんない。会長をやった者が運営委員になったら、やり憎いかどうか、私がお手本を見せてやろう」ってね。二回くらい、運営委員に下がったのです。

Q:運営委員は、どのくらいの段階なのですか。

炭鉱(やま)ね、炭鉱(やま)なら、釧路なら釧路で、五山集まるしょう、五山の主婦会ですね。その中から運営委員という代表が一人、道へ出てくんですよ。だから、三役の次の段階ですね。一番、大会から負託された事項を決定する場所です。ですから、そういう場所に行っても、私は今でも、だからね、あれですよ、市民生協ね、何年だっけ、札幌に出て来てからですから、昭和 43 年ですね。43 年でない、41 年ですね。昭和 41 年に出て来ましてからね、市民生協にずっと入っていて、そして全国の炭鉱生協連というのが、あったんですよ。

戦後は炭鉱に随分、職域生協ができて来ましたでしょう。そこの元締めみたいところで、婦人部の仕事をやっていました。だから、こちらに引っ越してきて北光団地にいた時に、婦人部長もやっていて、生協の組合員を募るなど、いろいろなことをしながら、生協の総代会議に出るようになったんですよ。そうしたら、ご存じないと思いますが、生協のエバラクミコさんっていう人が、昭和 42 年当時の新聞代の値上げについてですね。それから、昭和 44 年の新聞代値上げ、46 年の新聞代値上げの時という風に、当時は新聞代が 150 円刻みに値上がりしていったのです。それで、私たちは不払い運動をして、炭婦協なんか一年くらい払わないでね。それは、みんなもう払わないことに協定してね、払って無いのですよ。そんな闘いをしたのです。そういうことで目を付けられて、「物価値上げ反対連絡会議」というのを作りたいから、多嶋さんね、3 か月でいいから議長をやってくれって言われました。まあ、それじゃあ、義理で 3 か月って言ったのが、ずるずるべったり、理事になっちゃったのですけれどもね。そして、そこで、お味噌汁作ったり、コーヒー沸かして売ったりね。なにせ、生協を認知していない組織ですから。生協が作ろうと言って作った組織でないですから、一銭もお金をくれないのですよ。何やったって、歩くにしたって、電車賃だってね。それで今度、きんぴらごぼう、こんな大きな鍋で作って売ったり、団子を作ったりなんかしてそれを売ったりして、運営をしたんですよ。それで、あとになって、そのことが生協にあんまりいい影響を及ぼさなかったような気も私はしてい

たのです。その後も、生協は主婦を随分使いますが、あんまり払わないんですね。

だから、夢中になってやることを作れば、タダで使えると思ったんでないのかなあ、と思ったりしているのですけれどもね。まあ、そんなこともあって、それで市民生協の中の消費者運動委員会の母体を私たちが作って来ましたね。

そして当時はね、なんぼ(いくら)でもやることがあったんですから。本当にもう、昭和 41 年にこっちに来ましたでしょう。ちょうど昭和 41 年のころは、経済高度成長政策²¹が下火になりつつある時ですよ、盛りがもう済んだ時です。だから、灯油は上がるものの、牛乳は上がるものの、新聞は値上がりするものの、ひどかったですよ。そして昭和 47～昭和 48 年にパニックでしょう。そりゃもう、やっても、やっても、やっても、やっても、なんぼ(いくら)でもあったんですね。

■炭労の「おかしな」部分

この辺からですよ、労働組合がおかしくなったのは。そして炭労がおかしくなっていくのは、昭和 37 年から始まって昭和 42 年までかかった、政策転換²²のですよね。あの時に、私たちは去るも地獄、残るも地獄だから、とにかく、総資本総労働で闘おうということを決めて、二万円ずつの闘争資金カンパを積んでやったのですね。ところが、それは、後で聞いてがっかりしました。私もね、途中からわかったのですが、なんせ、私は主婦会の頂点にいましたから、何時でも頼りにするから、慰安会に呼ばれるわけでしょう。見えるわけですよ。そうすると、その 2 万円ずつ、積んだ闘争資金をね、自分たちの闘争に使わないで、北炭(北海道炭礦汽船株式会社、以下北炭)なんか、その金を労働金庫から貸してやって払ってるんだから。だから、私は炭労大会の時に、「あんた方何だ」と、「北炭の副社長みたいな考え方するな」って、怒鳴ったことがあるんですよ。私たちのお金を北炭に貸してやって、ボーナスをそれでやっと払っているんだもん。政策転換の後半になって、そんなことをやり始めたの。うん。だからね、もうあれは、私は、あの時にはもう本当に真剣になってマスコット人形作ってね。お父さん(夫)と一緒にだど、これを私だと思ってと言って、胸に付けさせて、お父さん(夫)を、数寄屋橋へ送りましたけれど。お父さん(夫)もキャップランプをつけてね。本当に壮観だったんだよ、東京なんか。そして、安保の後遺症がありますでしょう。そんなことも一緒になってね、国会取り巻いてね、フランスデモと道幅いっぱい。今は、フランスデモって、皆さんはご存じ無いでしょう。

そうして、あれで、騙されたというのがわかった時にはね。もう炭鉱(やま)が 20 くらい潰された後です。で、その時に共産党の人たちがね、政策転換闘争はアベック闘争だって言ったの。その時に、なんて、もうその時には、私は社会党に見切りをつけて、共産党を支持して票を入れていたんでしょ。社会党は、わかりますからね。もう、私たちに言うことと、国会でやることは、全くもう、違うのだから。そして、炭鉱(やま)に帰って来てはね。だって行く時の飛行機なんか、みんな会社が出すのだから。もう炭鉱(やま)で団体交渉をしなくなったのです。始めのころの団体交渉はね、私たちまで出ていくのです。そしてね、可哀想だけれども、子どものお尻をつねってぎゃあぎゃあ泣かせてね。そして、もうワンワンというところで、相手もうっかり言うから、

²¹ 高度経済成長政策のこと。

²² 石炭政策転換闘争のこと。

失言を引き出せるわけですよ。そういう闘争を私たちが背後から一生懸命、労働組合の方で庇ってやったでしょう。その時にはもう全部、素通しで見えるわけです。自分の目の前で団体交渉しているわけだから、相手がどんなこと言ったって。ところが、段々、段々、高度経済成長政策の闘争を始める頃から、東京に行って団体交渉が行われるようになったんですよ。そうしたらね、敵である相手、要求する相手に汽車賃や飛行機賃出してもらってですよ、洋服を作ってもらってね。行って酒飲んで、何が交渉できるの、あんた。誰か、かれかだってそうでしょう。だから私たちは交渉が終わって、明日もう、ストライキに入るって、必ず朝になったら、「暁の妥結」って言って、「暁の妥結」って言って。そうでしょう。あなたがた、物心つく時ね。

それまではね、本当にもう「暁の妥結」なんかしたことないの。ストライキに入ると言ったらね。入って力を見せるわけだから。ところが、入る、入る、入る、入った。そして、2 時間もしないうちに「暁の妥結」って、こうなるわけだから。わかるでしょう、見なくなつてわかるもの、あんた。そうするとね、もう、幹部が帰ってくる時にね、太平洋なんか、旗に喪章を巻いて無言の行列をやったことがあるんですよ。その時には、武藤委員長は怖がって一週間くらいどこかに隠れて姿を見せなかった。

Q: みんなのお迎えが怖くて。

おっかなく(怖く)て。それ、あとで述懐していますけれどもね。田沢晴子さん²³が会長でした。この方は、とても人のいい、気の弱い人でね。だからまあ、大過なく過ごせたことは、「私がみなさんに大変支援を受けたということだ」と、自分から述懐するくらいに、おとなしい会長でしたけれどもね、その会長があんた、喪章巻いて入り込んでいた。あれからですよ、いっぺんに炭鉱がガタガタと。しかも、やはり今度の国鉄の民営化、分割民営化を見てもね。潰す時には、労働組合の強いところから叩いていきますから。神威(北炭 神威砒)が最初にやられた。神威というのはね、北炭の中でも本当に強い組合。それから人民裁判闘争(1946 年 2 月)をやった三菱美唄炭鉱。それから三井美唄 炭鉱 でしょう。あの、三井美唄の時だって、本当に私なんか、三池に行ってね、3 か月も帰らなかったんですけどね。あの「ホッパーの闘い」²⁴なんか、素晴らしい、官憲との闘いをやったわけでしょう。久保清さんが、あんたねえ、刺殺されるくらいの闘争にね。私たちはスクラム組んでごぼう抜きをされたけれどもね。だけれども、本当にあれ、歴史に残る世界的に有名な闘いですよね。「六・三スト」(六三闘争)もそうだったけれども。

企業連というのがありましたでしょう。炭労はね、産業別に統一したかったんですよ。ところが会社の息のかかった人たちの持つ企業連という組合が、炭労のなかに入り込んできたんです。そして、その企業連が協調主義な中身を炭労のなかにずうっと入れていくわけですよ。だから私たちは日本炭婦協を作りましたときに、最初に企業連というのは我々働く者にとっては、「悪の存在」だと。だからこの企業連、主婦会もあつたのですよ。主婦会も住友協議会、三井協議会、北炭協議会があつたのです。それを私たちは排除しよう、無くしよう。そして、炭労にもその要求をしようといって、炭労も 28 回大会だったかな、その時に決議したの

²³ 田沢晴子さん(太平洋主婦会機関誌「母のうぶごえ 50 年史」21、24 頁)。

²⁴ ホッパーとは石炭を貯蔵する貯炭槽のことで、ホッパーの占領によって労働運動と会社側の激しい衝突が起きた事件(昭和 35 年)。

ですが、とうとう炭労は解消できなかった。炭婦協はあくる年、すぐ解消しちゃった。だから、「六三スト」²⁵や「113日の闘い」をするときに、その企業連が裏切ったの。炭労のなかで裏切ってしまった。

まあ、そういう中で労働者っていうのは、使う言葉があるということやら、労働者の考え方っていうのはこういうところで、資本家はこう考えているということが、闘っている間に、はっきりしてくるわけですよ。だから私なんか、本を見て勉強をしたのではないのですよ。何にもしないで、闘いのなかでわかってくるのですよ。それから、私は(世界母親大会に)、140万ものお金を炭婦協で集めて、梅田さん(梅田幸子)は北海道中で集めたお金で行ったけれど、私は炭婦協だけのお金で行ったのです。そういうカンパはね、必ず中小企業の貧しいところほど、満杯に出すのです。このくらい欲しいと言うと、何としてでも、それだけ作りますね。苦労をしたところは出すのです。大きな炭鉱(やま)は出さないのです。やっぱり、そういう点でね、やっぱり子どもも苦労して育てないだめだということが、私にはわかりますね。苦労を知っているものは喜びも大きい、大きく知っているしね。本当にそうですね。

■太平洋炭鉱労働組合、主婦会の活動とその評価

それから太平洋(炭鉱)なんていう組織は、とっても弱い組織でね。単独で闘ったこと、無いんですよ。全国のカンパ見舞いで闘った。その代り、労働対策はうまいのです。あんな近代的な経営者っていないのですよ。私なんかろくでないでしょう。会社の人間の悪口を、あんなのだめだとか、どこにいてもやるわけだから。そして、私はね、これも私は、とってもいいことを自分で工夫したものだと思うひとつなのですが、私が会長になっているその時は、しゃにむに出されましたね。それからね、会社を相手にしてね。ああ、誰かが推薦して、ただ会長になっても、これは力にならないということがわかりました。会社は、誰かが、好きだからやっているみたいなことを言うでしょう。「あの母ちゃん、好きだからね」とかいう話も聞こえてくるわけ。これは力にならないなど。やっぱり市民投票だということを考えて、そして選挙日に貼るのです。部落から推薦であがってくるでしょう。そうすると、本人が嫌だという人も推薦であがってくるわけだから。そして、そうやって説得して、説得して、出てくれた人にね、さあ、今度は組合の宣伝カーを借りてね。つじ、つじに立って選挙演説しなさいって、私言い出したの。「嫌で出たのに、そんなことをするなら、もう嫌だあ」とか言うでしょ。それを今度は説得して。だけれども、誰が会長に選んだのかわからないようなことではね、会社との力関係で



昭和42年第21回太平洋炭鉱主婦会定期大会
所蔵:「釧路市教育委員会太平洋炭鉱資料室」



昭和42年太平洋炭鉱主婦会創立20周年で記念講演
所蔵:「釧路市教育委員会太平洋炭鉱資料室」

²⁵ 1952年に三池炭鉱労働組合が行った63日間に及ぶストライキのこと。六三闘争。

負けてしまうよと。あれだけの信任票があった会長だとすると違うのだから、嫌だけれどやろうって。これ、ものすごく大きな力になります。

(テープ交換による中断)

炭鉱行くとね。石炭はほら、タダみたいに買うでしょう。1トン 50 円とか、ほんの申しわけ程度にお金を取られるわけですよ。そして、あんまりいい石炭でないけれど、石炭はタダみたいなものでしょう。電気もタダみたいなものでしょう。そして、社宅もタダみたいなものですよ。そうすると、ストーブが困るわけですよ。ストーブは結構高かった。ルンペンストーブを使いましたからね。そうすると、このストーブ代なんて、なかなか出せなかったから、会社に出させたりしてね。随分、そういう闘いをしました。それから、唐紙の張替えなんかも全部会社にさせました。そういう闘いをする厚生部だとか、文化部、それから福祉部、それから教宣部でしょう、それから財政ね。そういう人、全部ですよ。

Q:それは広報、みんなに。

はい。全部にね。その代り原稿を書いてやりました。だって、初めての人などは、原稿を見ないでなんかしゃべられ(話せ)ないです。それからね、今度ね、いっぺんね、なんのときでしたか、労働組合の人たちのなかにね、なんかあんまりいいことをしないような人たちがでてきた時期があったのですね。それから、こんな人がいたらだめだな、労働組合の人たちの信頼がなくなるな、と思ってね。よし、しっかりした人出さなきゃだめだと私は考えてね。労働組合の選挙って市町村の選挙みたいになんかよ、炭鉱(やま)のなかではね。そうすると私たちはね、昼は、あまり叫んで歩く人はいないから、原稿を持たせてね、夜にメガホン持って、「労働組合の今度の選挙では厚生部長にはこの人をお願いします」とかって、主婦会が叫んで歩くわけ。これ、たいした効くのですよね。だめな人のことは叫ばないわけ。「この人がいいと思います」と、いいと思う人だけ叫ぶわけ。だから、傷つかないでしょう。そうしたらね、その年から労働組合の幹部が全部、主婦会の幹部のうちにお願いまわりするようになった。

これもまたね、なんて言うかね、突飛でもないことだけれどもね、こんなところは無いんですよ。こんなことをやったところは無いんですよ。だから、必ず、忘れずに、主婦会の幹部のところには挨拶まわりをするのです。「今度、たちましたので、ひとつよろしく。母ちゃんの力なら、俺は絶対、大丈夫だと思って」とかね、おだてて帰るのだけれどね。そういう監視の目も光らせたのね。

最終的に炭労が政策転換の闘いに負けて、そしてだんだん、だんだんあれして、今度は炭労を信用しなくなってね、炭婦協が部落集会をやると、炭婦協に話を聞きにくるお父さんが増えたのですよ。炭婦協、本当のことをしゃべるから。そうすると労働組合はね、もう鵜の目、鷹の目で私たちに監視するようになるでしょう。だから、相当に喧嘩上手な会長でないとならぬわけ。私は元々、喧嘩上手だから。だから、私にかかってくるのがないの。そして、まあ、恥ずかしい話ですが、さっき言ったように私には相手になめられたら、こっちの負けだというのが根強く、あるわけでしょう。

私をね、あの会長な、頭も「アカ」いけれど、尻も「アカ」くないかって言ったのですって。その時は、社会党の党員ですよ、私は。社会党の党員を4年間やりましたから。山本という市長さん²⁶に勧められてね。武雄さん、山本さんに勧められてね。俺が紹介者になるから、あんなのような、それこそ芝居の台詞ではないけれども、力強い味方がいてくれたらあれだから、社会党も伸びるとおだてられて入党したの。でも、4年間いたけれど、ただの一回も会議に召集を受けたことがないのよ、私。そして、私がなにか言ってくるでしょう。炭婦協の会長が抗議に来たって言うんだもの。あんな、仲間から、もの言ってきたのを、抗議って受け取るって何ごとだって、私、言ったの。そして、向こうからくるときにも、そんな社会党には手伝いたくないって、私は辞めたの。最初の投票は篠田弘作に入れたのですよ。これ、札幌で篠田弘作が泣いてね、奥さん、あの奥さんだとか、娘が出て、うちのお父さんと土下座するの。「うちのお父さん、男にしてください」ってね。そして、いいことに、かわいそうに、娘がこんなにね、私、もう浪花節だから。浪花節には弱い。

ああ、これはかわいそう。そして入れたの。そして炭鉱にいつてみたらね。あれ、自民党なんか、資本家として痛めつけているほうだ。これだめだと。やっぱり今は、数の多い社会党を早く大きくして、政治変革しなきゃならない、改革をしなきゃならないと思ってね。そして、一生懸命に車で回ったし、どれだけの人の選挙運動をしたのかわからないのよ。そしてね、女の人が少ないものだから、乗ったら降ろされないのだよ。昔の選挙は一ヶ月くらいやったのだから、あんな。ずっと、昔の選挙は。だんだん、日にちが縮まって13日だとか、15日だとかになりましたけれどもね。本当にもう、そうだね、全国を走り回ったと言ってもいいのではないですか。だから、今の横路さんのお父さんのせつお(節雄)さんね。知事に立つときなんかでも、横路さんの奥さんと一緒にね、北海道中、ずっと回ったの。ただ、まあ、その時にはね、私は必ずしも自分の思想が社会党にいつているという風には限らなかったですけどね。もう、そのときには社会党の裏切りはわかっていますからね。ただ、その点でも、私の肝(きも)は太いんですけどね。肝(きも)が太いつて言うのか、図々しいと言うのか、(車に)乗って「岡田さんをお願いします」って言っているもね、今日はこっちに来ていてね。こっちに来ていることもあるのですよ。そうしないとね、乗らないと、何て言うの、組織、組織何とか、言葉忘れちゃった。組織でもって、やり玉に挙がってね。そして組織破壊者だという刻印を押されるのですよ。組織破壊者だと刻印押されたらね、炭婦協の会長をやってらんないでしょう。

それから、もうひとつは、裁判でね、勝訴しているのです。これは何回も。三井美唄だったと思いますけれどもね。カンパをしないで一党支持を締めつけですから。社会党の候補を自分たちが決めるわけでしょう。そうすると、それにカンパやなんかして、協力しないで共産党の人やなんかを入れている人なんかはね、今度は統制処分にかかるの。そして、その人たちが訴えて憲法判断が出て、判例が出て、それは労働組合の行き過ぎた行為として、そういう判例がでていっているのです²⁷。でているのだけれども、そういう騒ぎを起こすだけの余裕がないわけですよ、私のほうは。そうするとね、やっぱり乗るだけ乗って、まあ、言っときゃいいやと、そういうことですよ。そういう期間がね、ある程度ありましたから、とつてもいづらかったのです、中にいつてもね。だけれども、その時にはもう会社とともに、労働組合、ユニオンショップですからね、炭鉱の

²⁶ 山本武雄・元釧路市長。在任期間はS32年~S40年。

²⁷ 三井美唄労組事件 S43年12月判決。

場合は、会社がクビを切るといっても、労働組合が承知しなかったら会社はクビを切れないんですよ。これをユニオンショップって言うのですね。それから、王子闘争だとか日鋼室蘭の闘いっていうのは、あれは「オープンショップにするか、ユニオンショップにするか」という闘いでしたから。だから、炭鉱はもうユニオンショップで勝ち取っていましたからね。けれど、結局はね、炭鉱の方が労働者を監視するようになったわけだから。会社よりも労働組合のほうが、そういう人たちを弾き出そう、弾き出そう、としていた時分ですから、私は弾き出されてたまるか、という風に考えて、そういう嫌なことを。終に、労働組合が敵みたいになってしまいましたけどね。

■政治活動について

そして、そのころになると、ちょっと労働組合の幹部をやると、すぐに市議員にでたがったり、なんかしたりするのね。だから、社会党のことをあんた方の組織なんていうのは、もう議員小集団だって、私はよく言ってね。なんだって言ってね。またおばちゃん、そんなこと言って、というから、そうでしょう、議員に仕立ててね。本当にそうなのですよ、ちょっとやったら、村会議員だとか、なにを言っているのって。なかにはね、6年も7年もやっても、また現場に入る人たちもいるのよ。そういう人見ていたら、本当に信頼ができるでしょう。そしてやはりね、そのなかでいろいろと組織活動なんかやるのでしょう。だからね、私もそういう点では、先ほど、ちょっと話が逸れましたが、ひとつは多嶋(夫)をね、多嶋光子の旦那だと言ってさせたくなかったことがひとつありますね。それでなくても、父ちゃんは出て行く者。出て行く者は、出す者も、出す者。太平洋の三ばか夫婦だと。一人は全く二人ともばかね。頭がこうなって。それから一人は人の悪口をほじくりだしてね、夫婦で拾い上げる、渡辺秀子、旦那がね、そういうほじくりまわすような人の奥さんがね、太平洋主婦会脱退のあれを、裁判にかけた。そしてね、裁判にかけたけれども、しまいに和解という措置でもって我々が除名したのですけれどね。論議した挙げ句にね。組織分裂を引き起こすような、これ、やはり、全員が入ることになりましたから。それまでは全員ではないのです。そのかわり、やっぱり車の両輪だから、全員だけれども、一人、一人の判をとってあるのです。部落常会、繰り返しながらね。それが強かった。承諾の判をもらっていますから。



昭和41年10月30日夫義隆在籍32年の太平洋炭鉱を停年の2年前に退職 主婦会の仲間と

それでね、それを組織分断の策動に値するっ

て、除名したのです。それでね、太平洋主婦会もまた助かったのですよ。そんなこともね、あったりしましてね、随分、主婦会っていうところでね、私がいなければだめだって、市議員をだす時に言ったのですね。そこの文章にもありますけれどね。みんな連名でね。多嶋さんしか出す人はいない。多嶋がもし出ないと云うなら今回見送ろうということまで言ってくれたのだけれども、私はその時、昭和40年ですから、もう来年はね、お父さん(夫)が、辞めて。

これは、停年でないですよ。あの60、90何名や60何名、その前の時ですよ、この間の前の60何名死

んだ時にね。息子が、恩のあるお父さんをこれ以上炭鉱において、もしものことが停年間近になって起こったらね、僕はお父さんに顔向けできないから、もう僕も大学が終わって働くようになったから、仕事を辞めて札幌に出てこいって言われて、父さん、うれしくなっちゃったわけよ。私は、父さん(夫)が辞めたら、炭婦協にいられないからね。行かないようにしようと言ったけれど、父さんはもう尻がむずむずしてしまって、それで、こちらに来たのですけれどもね。だから、この際、やっぱり一人、だしておかないと、ということで、石川セイ子をだしたのですよ。

だから、その時もね、私は随分みんなに言われましたけれどもね。私、日本の今の選挙だったら、選挙は本当の選挙ではないと思っています。なぜかと言うと、お金が飛ぶでしょう。実弾が飛ぶしね。それからね、情においてもね。あの人、まあ、議員さんになったらぺこぺこしなくなったとかさ、挨拶が悪いとか、顔つきが悪いとか、ご機嫌悪いとか、そんな選挙あるか、あんた。あの人を信頼したならね、多少のことを言われても、自分が確かめるまでは人の宣伝にのらないで、その人を守ってあげるっていうことでしょう。それが信頼だと、私は思うの。私はそんな選挙に私振り回されたくないもの。ぺこぺこなんか、できないのですから私。お世辞が一番嫌い。社会党に入って、ますますお世辞を言われた時は油断しないようにしました。

私が時々美しくなることがあるのですよ。「いやあ、会長、色白いな」とかね。いや、言われるんですよ。それがまあ、臆面もなく言うんだから。ちょっと待てよ、と思ったら来年は選挙、だものね。本当に極端な言い方をしますけれど。「いやあ、顔つきが柔和になった」だとかさ、「会長の演説聞いたら、男もかなわない」とかさ。「あたり前だ」って言ったの、私。そう言ってやるのさ。あんた方、思ったこと言わないで、腹の中に八分目を持ちながら、ものをしゃべる(話す)からね、みんなにびたっこないのだよ。全部、腹の中から出してごらんって、私は言うのだけれどもね。だから私はね、どこいっても好きなこと言うから市民生協では嫌われたの。

Q:私は今日、どうして議員にならなかったのですか、というのをひとつ聞こうと思ってきたのです。

それとね、もうひとつはね、やっぱり政党政治だけに、どこかに所属しなければならないでしょう。どこかに。そうすると私みたいのはね、どんな政党に入ったって、継子、だものね。言いたいことを言うから。例えば、政党がこう決めたって言っても、私だめだと思ったらだめだって言うもの。それを言わないような人生は嫌なもの。それが母から受け継いだ義侠心だと、私は思っているのですよ。いや、きかない顔していますよ。これは、うちの父が建築屋だから、結局、いい時は盆も正月も一緒にきたような生活をするのです。豪華な生活をするの。ところが、請け負った仕事が入ってこないとなるでしょう。もう私もね、背負わされて、質屋にどのくらい通ったかわからないのですから。けれど、私は質屋なんて恥ずかしいところだなんて思っていなかったから、子どもの時分ですからね。質屋に行けばなんか買ってもらえるから。だから、とつても喜んでいったのね。それで、今でも、私は金を持っていない。あつたら使うまで気になって仕方がない。本当に。ところがね、そういう楽天的なところがあるから、お金が無くてもまわるのだわね。お金がまわるというより、旦那がいい人だったから。私ね、ほとんどね、旦那の働いたものを私と息子で使ってね。

■書道、茶道をはじめた背景

1978年、昭和53年に教室を開設したのですが、その前の、あれが10年の時だったからね。75年、60年、41年の年、いや41年でないな。5年の時か、70年くらいの時ですね²⁸。生協が、それまでに私はこっち来ていましたでしょう。そして、炭婦協を離れたら、組織活動や仲間づくりができないでしょう。どうやったら仲間作りができるだろうと、そうすると随分、まだ炭婦協の顧問でしたから、48年まで顧問でしたからね。だから、随分、炭鉱(やま)に学習に入ってくれたとか、いろいろ歩きました。その時に刺繍を持っていこうか、それからなんかね、舞踊やっていましたでしょう、私、舞踊を長くやっていたから。踊りをちょっと教えようかな、と思ったりしたこともあるのです。だけれども、刺繍なんか時間がかかりますものね。そんなのはだめ。踊りもね、いいこと言ったって踊って、げらげらと笑われて帰られたらね、これだめだなと。

だめなのよ。どんなに私はね、話術っていうのは、これは、炭婦協やそれから国防婦人会で覚えたのですが、まず、最初は笑わすのですね。怒らせて、泣かせて帰らせなきゃだめなのですよ。ああ。笑わせて、泣かせて、怒らせなきゃだめなのですよ。怒ったところで引き揚げないとだめなのですよ。それを逆にげらげらと笑ったら、前に言ったこと、みんな消えちゃう。怒りもなんも消えちゃうでしょう、これは、だめだった。そうしたら踊りはだめだと。じゃあ、なにがいいだろう、と言っているうちに、昭和48年に「砦山(ずりやま)は知っている—道炭婦協の20年—」(昭和48年5月日本炭鉱主婦協議会北海道地方本部発行)というのをだしたでしょう。

そうしたら、あれがまた、反響を呼んで、あの「砦山(ずりやまは知っている)」を帯広のテジマさんという高校の先生がいるのですけれど、その人が実行委員長をやっている。母親連絡会があるのですね。そこに行った時にね。小学校時代の先生も来てくれたりして、みんなで聞いてくださったのだけれど、その時に「砦山(ずりやまは知っている)」を持っていったの。

そして、皆さんにあげたら、この字は誰が書いたのって言うから、私書いたよって。その時はなんにも自己流ですよ。それでね、母親(大会)のいろいろな、墨で書くものは、全部、私が看板を書いていたの。今年はちょっと違いますけれどね。そんな感じで自己流では、やっていたの。そうしたら、あんた、小学校の時の同級生がね、100人くらいのお弟子さんがいる、口川美舟さんっていう先生なのですね。その人がいて「あんた、このくらい書けたら、すぐに上手になるわ、お習字やらない」って。「やらないかいつ言ったら、あんた、どこに先生がいるの」って言ったら、「私が先生になるから、とにかくあんた、お手本をもらったら、それを自分自身で書いて送ってきなさい。私が京都まで送って、そして直してもらってあげるから」と、いうのが始まりなのですよ。それが3年くらいでね、もうお習字の免状をもらった。

それからお茶もね、器用貧乏って、器用なのですよ。何でもやるのですから。私が、紹刺しとか日本刺繍をするなんて思われないでしょう。みんな笑うの。あんたがこんなものを行っているなんて、目に浮かばない



砦山(ずりやま)は知っている
道炭婦協の20年

²⁸ 昭和50年(1975年)に、日本習字教育連盟札幌支部長として書道を教授したことを示していると思われる。

ねというわけ。こうやって、こうやっていたら、別だけれどね。網でも、編んでいるならね。「だけれど、女らしいところもあるんだねえ」とかね。時には、男の人が「多嶋さんも時々、色っぽいところがあるぞ」と、言う人もいるけれど、私は色っぽいなんて初めて言われたよって。やっぱり、艶聞があるのですよ。それから、やっぱり借りたらね、ぴしっと覚えていて返さないといけないしね。私は貸さないのです。うちの母はね、私は、歳をとってからの子どもなのです。再婚同士だから。そうしたら世間並みの女の子の持つようなものは、持たせてやるってね。もう、12~13歳のころから桐の箆笥は買ってもらったしね。そして、常時普段着はメリンスの着物でしょう。銘仙(めいせん)の着物でしょう。そしてね、矢絣(やがすり)の着物でも3枚くらい金紗(きんしゃ)のものを、今は着られなくても、娘の時分に自分たちが生きていけばいいけれど、死んでいけばあとであなたが困るってね。そしてハンドバックもね、全部、中に化粧品を入れて買ってくれたのですよ。そんなことをしたら、つけたいでしょう。それで、雨降りの日、うちの父がね、うちの父も母もね、うちにいるとき、こっそり、かくれて口紅塗ったり眉描いたりしていたの。そうしたら、見つかって、怒られて、これはつけるものだと買ってやったのでないと、お前が娘になった時によその人がみんな持っている物をお前が持つなければ、かわいそうだから買ってやっているのだからって、しこたま怒られたくらいね、そのくらい、女の子だからと気を使ってくれたのですけれどもね。

そんなこともあるものですからね、おしゃれにはものすごい気を使った。そして、私ね、いつもうちの母に言うのだけれど、うちの母もね、あんまり鼻の高い人ではなかったけれど、格好のいい鼻をしているのですよ。妹も綺麗なのですよ。なんで、私だけこうやって生んだってのって、本当に。それで、いつもね、もう島田結ったり、桃割れ結ったり、結綿(ゆいわた)の頭結ったりしてね。だから、着物が多かったのですよ。私は、西川流で、踊りをやっていますからね。踊りはとってお師匠さんに褒められて上手いのですよ。今でも三味線も持っていますが、皮はみんな破れちゃってね、そのまま投げてありますが。それね、誰か、どっかの楽団の人に、あげようと思ったらね、うちの母親がね、ご飯食べたいって言わないから置いておけど、芸は身を助けるってこともあるからって。そして、今でもあるのですが。象牙の猫の皮の三味線ね。今、お茶の道具なんていうのは、まず奥秘伝のところまで全部を持っていました。お茶屋さんがびっくりするくらい、道具は持っているの。だけれども、それは教えるということになると、要るのです。

私がどうしてお茶、やる気持になったかということ、お茶をやろうと思ったのは、それは利休の「南方録」という本を読んでから。日本生命に入った時に、ちょいちょい、学校のサークルみたいにね、会社の茶道で多少の手習いはやっていたのです。だけれども、お茶なんか、あんなもの特別な人がするものだと思っていたでしょう。私は、あんなものはしない、特権階級みたいなね、そんなことはしないと心に決めていたのですけれどね、南方録を読んだらね、利休って人は素晴らしい思想の持ち主なのです。あの利休、こうあみ²⁹という人、それからじょうおう³⁰という堺の商人ね、こういう人たちが、坊さんの眠気さましに座禅の時に飲んだのが、抹茶なのだけれども、それを庶民のなかに、大阪の堺って言ったら栄えましたから。そうすると、堺の商人が大名のご機嫌を取るために茶道なんてものが、徐々に始まっていくわけですよ。そして、ルソンから

²⁹ 幸阿弥(こうあみ)のことだと思われる。

³⁰ 武野紹鷗(たけのじょうおう)のことだと思われる。

送られてきた、その、薬なんか入れたり、調味料を入れたりした壺なんかを利休に鑑定させて、それこそ、なんていうのか、これは大名物みたいにしてね。大変高く、□□したわけでしょう。そういうようななかで利休さんという人は、利休のたくし³¹という言葉があるのですけれどもね。あれ、利休が茶坊主みたいになって、利休に召し抱えられてからね、利休は秀吉に対してね。ものすごい嫌悪感を持ったのです。あのまま自由に生きていたら、私、お茶は消えたと思うのですよ。だって利休さんって人はね、「お茶は湯と炭と釜があればできるものを、多くの道具をもつは愚かな」と言っているのですから。愚かだと言っているのですから。あの人は、「わびさびの茶」に徹した人でしょう。その「わびさびの茶」というのは、これ、お手前を言っているのです。心を言っているのです。わびの心、幽玄の心ってね。それからね、自然をものすごく大事にしていらした。あのね、お茶のなかで一番、季節を表すのは、茶菓と花なのです。お菓子も季節のお菓子が出ます。あと、花なのです。その花を人間が育てた花ではなくて、奥山に自然に咲いている花をわざわざ、お客さまのために、採ってきて供することが何よりのご馳走という考え方なのです。そしてお茶の花には流派、というのがないのです。「花は野にあるごとくにさせ」と教えている。曲げたり、撓めたりするな、ということです。命のあるものなのです、花も。命のない、炭も命のあるものなのです。命のないものは何かと言ったら、お菓子です。命のないものには命をもたせて扱えとこう言っているのです。ものすごい思想でしょう。そして、和敬清寂(わけいせいじゃく)という言葉があるでしょう。あの和敬清寂というのは、和は和ですよ、清は清いってことでしょう。それはなにも綺麗なところという意味ではないのです。無心になって、心を清くして、そして、一期一会の、この出合いを大事にして。

今日、ここにこれだけの人が集まった、また、この地に集まった時に全部が揃うなんてことはあり得ないと思ったほうがいいのです。それくらいめまぐるしい世の中でしょう。その一期一会、この席を大事にして、どんなお茶碗でもいいのではなくて、一番の宝物のお茶碗でお茶を供しなさいと教えているのです。さっき言ったことと反対でしょう。いいですか。茶はたくさんの道具はいらない、水と炭とお湯と釜があればなるものを多くの道具を持つは、愚かなと言っているのです。ありあわせですよ。ところが、その次の言葉に「多くの道具を持つことを隠すも愚かなり」と、書いてあるのです。これ、相反するようすけれども、いろいろなものを長いこと見ているとね。瀬戸物にも善し悪しがあることが、わかってくるのです。結局、世に言う、美術眼がね、育っていくわけだ。そうすると、やっぱりひとつを買うのでも、やはり、いいものを買いたい。高いものという意味でないですよ。いいものを買いたい。ここにね、これが5千円のお茶碗だとします。今、私が持っているもので一番高いお茶碗というのは、1個25万円なのですけれどもね。

(中略)

それでね、お茶の方はね。あれにかかり、あっ、お茶のこと言わなきゃ。利休のこと言わなきゃ、私がお茶やっていること。さっきのお茶碗のこと、言いますから。これが5千円だとしますね。これが30万円のお茶碗だとしますね。ところが、これよりもこっちのほうがどうも、だんだん、だんだん安いだけれども、作りといい、釉薬のかかり具合といい、お茶が染みてきて。お茶の世界って古い物を大事にしますから。その古い

³¹ 托子(たくし)のことだと思われる。托子とは、茶托のこと。

物はね、汚いとみないで歴史としてみるのですよ。歴史が刻まれたものとして、多くの人の手に渡って歴史を刻んでいるでしょう。汚く見るのではなしにこの色は歴史を刻んだ色として、利休は見なさいと言っているのですね。それは、この茶碗から遠くが見えているわけです。

もう300年前のことも見えているような茶碗だとしますね。私は、こちらの高い茶碗より、こちらが好きだとしますね。これが宝物なのです。これが宝物。その宝物で、自分の一番大事な宝物でもてなさいと言っているのです。それがね、相手に対する、相手を敬うという、宗教的な話にちよつとなってしまうのですが、その気持ちで一服のお茶を無心な状態のなかでたてて差し上げる。お茶のお湯の熱さ、これもちょうどよい。あるお寺の坊さんがね、「お茶とはなんぞや」と言ったのです。そしたらね、利休が「お茶は服のよきように点て、夏は涼しく、冬は暖かに。炭は、湯の沸くように置き、花は野にあるごとくにさせ、そして刻限は早めに、雨は降らずとも傘の用意、相客に心せよ」³²って言ったのです。

そしたら、坊さんが、「それはごく当たり前なこと、そんなことは誰で知っているのではないですか」と言ったら、「当たり前のことを、あなたがちゃんとできるのなら、私はあなたの弟子になりますよ」って言ったの。全部、相手のことを、雨が降らずとも傘の用意というのは、5人行っても、5人分の傘の用意している人なんて、滅多にいないわけでしょう。そしたら、相手に迷惑かけるな。だから、お茶席というのは、どんなお茶会でも全部会費制なのです。亭主にだけね、亭主にだけ負担かけるのは、お茶名をもらったとか、教授になったとか、そういう時でなければ、自分で全部は持たないのです。

全部、何々のお茶会をしますよというと、会費は1,500円。今だって、私のところは1,500円ですけどね。今は2,500円とりますけどね。そう言う風にするのです。それからね、私はお茶をずっとやっていて、奥秘伝まで全部覚えているのです。5年で覚えましたから。早いのですよ。お茶を習う時にね、「その場合はこういう風に回して、はい、戻して」これしか教えないの。私はね、「先生、どうして回して戻すの」って聞かされた。そうするとね、先生は「どうして回すのって言ったって、回して飲んで」って。そして、また、禅からきていますから、陰と陽が出てきます。そうすると、陰で回したら、陽に返さないといけない。それがしきたりなのです。だから裏千家はこっちに回し、時計に回して元へ戻すのですよ。表千家はそっちに回してこっちにやるの。だから知らない人がやるのは、どっちに回してもいいのですよ。ただ、回した方から、返すことだけは覚えておかないと。それから、もうひとつね、どうして回しているのか。これね、これだけのお茶碗のところに三つ、模様がついているでしょう。絵付けさんと、絵付けをする人と粘土をねる人は違うのですよ、大体、お茶のお茶碗は。そうするとね、このお茶碗に精魂込めて、この絵を描きますね。まあ、こういう絵では無いですが、お茶のお茶碗は。きれいな絵を描いたりします。その絵を描いた人に敬意を表して、ここに口をつけないというために回すのです。これを覚えれば、回すことに抵抗ないでしょう。私はそういう教え方をしているのです。だから、うちの生徒さんの覚えるのが早いのはね、お習字でも何でも、そういう論法でね、理論で教えるの。その場合こうして、あの場合こうして、その場合って何って、私は聞くの、先生に。だから、私ね、支部を離れる時にね、先生、言ってくれたのは、「あなたが生徒になってから、私、大変な物知りになり

³² 利休七則「一、茶は服のよきように点て。二、炭は湯の沸くように置き。三、花は野にあるように。四、夏は涼しく冬暖かに。五、刻限は早めに。六、降らずとも傘の用意。七、相客に心せよ」

ました」と、言いました。教えないのですよ。それは、体得せ、という主義ですから。身体で覚えるという主義ですから。そうすると、あの場合、この場合と言ったって、あの場合は、どうゆう場合なのかかわからないでしょう。「その時には、み手でこちらの方に、はい、たてつけの方に置いて、はい、み手で持って来て」と、言ったってね。そうすると、「違いますよ、手が、置いた手でもってらっしゃい」と、言うでしょう。置いた手がどっちだかわかんない。そうしたら、こっちでこれを。行ったものは返ってくるって、さっき言ったでしょう。そうすると、こう持って、こう持って、こう持って置いたら、この手で返ってくる。これで置いた時にはこれで返っていかなくちゃだめなのです。こういう決まりがあるわけ。すると、その場合って言ったって、夏と冬がまた違うのですから。夏と冬のお手前は違うんでしょ。そしたら、この場合って言ったって、どの場合って、こうなるのですよ。そんな教え方しかないのですよ。だから10年もかかるのです。

私はものすごくうるさい生徒だった。だから、5年で全部、取っちゃった。そして、すぐ習いたいって人がいたから、だから教えるところまでは、お許し状を取ったのです。でね、私のお茶の先生で、ヤナセ先生って人はね、お茶の先生なんか、生徒がそんなにいませんから、お茶の月謝で食べている人なんて、まずいないのです。呉服ものの幹旋だとか、お茶碗の幹旋だとか、3割で先生買って来て、1割で生徒に売る。私、そういうことはもう絶対嫌いだから、欲しいものがあつたら、生徒さんを連れて行って3割引で買ってやるの。私ね、あそこの三条ビルの中に入っている、駿河屋ってところが、はじめた時からのお客なんです。そして、その時に、「あんたの店は、いくらにしてくれるの。3割引にしてくれるかい」って言ったら、年に2回は3割引の制度があるのです。キョウカドウだとか、トクマルさんでも。しかし、常時、私には3割、その代わりあんたの店以外、いかないから。常時3割にするのなら、取引すると約束していたのですよ。だから、全部、生徒を連れて行って3割引で買わせた。

お茶屋さんが、「先生って、本当に欲ないね」って。「みんな、先生が生徒さん連れてこないで、先生が3割引で買っていった物を、生徒さんに1割引で売っているのだよ」って。「どうして、先生、そうしないの」って。だから、「そんなのは不労所得っていい、いけないことなの」と、言う、「えへへへ」とかって。だからね、本当にものが安く買えた。本当にそうだった。それでね、利休の、その、「人に迷惑をかけない」。そして、「心は」。お手前なんか、多少間違っただっていいのですよ。ただ、気持ちを、相手を、どうやって美味しいお茶を飲んでもらって、猫舌の人には熱いお湯は困るでしょう。そうすると、お湯も、猫舌かどうかかわかんないことだってあるのだから。そうすると、お湯もちょうどいい加減に。松風が美しい音だって言ったって、松風、しゅん、しゅん、しゅんって、煮たっている音ですよ、そんなの熱くて飲めないじゃないですか。そうしたら、やはりね、法に無くても湯加減を見て、水を足せと言っているのですよ。利休はそう言っているの。それなのに先生は、夏の濃茶に限り、水一杯って言うの、そうしたらぬるくたって入れなきゃなんないじゃない。そうでしょう。夏の濃茶に限り水一杯。温くたって、入れたら飲めたものでない。お茶は絶対、新しくて、熱いお湯で点てたら美味しいのですよ。苦くはないのです。それをあんた、いろいろなこと言うから。だから、法にあっても、それを、湯を見て、炭をくべた時もちゃんと法則的にやると、はい、丸ぎっちょ、割りぎっちょとなっているわけ、組む仕方があるの。だけれども、いくら炭を法則通りに置いたとしても、お茶の沸かないような炭は消し炭と利休は言っているのです。そうしたらそれは、大自然との関係、宇宙との関係、すごいのですよ。炭ひとつにしても、だって部屋が湿って、炭が湿って、灰が湿って、空気が湿っていたら、なんぼいい

炭だって置くようにしたって、湯は沸かないのですよ。おこらないって言うの。そしたら、炭を立てたりなんかして、それを見て、炭を乾かしておくとか、いろいろなことしなかったらならないって、とても大変な、なかみでしょう。それこそ、宇宙と炭との関係が出てくるわけでしょう。

ここまで、お茶に対して心をくだいた人は利休以外には、いないのです。今の宗室(千宗室)はなんですか、あんた。集めるにいいだけ、金を集めてね。そして、さっき言いましたが、お茶で食べている先生はいないと言いましたが、全部、謝礼で食べているのですよ。道具の斡旋だとか、そんなもののあれだとか。

それから、お茶だけは習わせて下さいって言って、金出さなきゃ習わせてくれないの。お許し、さつを許すというのをもらわなきゃならないの。そして、次に上がるとき、上がるたびにお金を取られて。それと同じだけの分を、自分の先生にお礼として出さなければならない、これで食っているのですから、先生は、私は、それを、ひとつももらっていませんもの。お許し状なんか、なにももらっていない。始めから奥秘伝までずっと、3年間3,500円。私が、今教えているところは、10,500円ですよ、月謝。だけれど、それでもね、ものすごくお茶の時間ってというのは、全てを忘れてそれだけにかかわって、気持ちがひとつになるから、本当に楽しい世界なの。



昭和50年生活協同組合虹の祭典でお手前

■質疑応答

Q:これまでどんな役をしてきたか？

炭婦協の顧問、それから母親連絡会の実行委員長、それから、生協の理事、それからベトナム母子保健センター設立の代表委員だとか、子どもの文化祭だとか、児童年なんかだとね、子どもの文化祭。それから、今は合同教研³³ってありますでしょう。高教組が中心になって、あの合同教研の代表委員になっています。とにかく、代表委員がすごい、要するに挨拶要員だ。挨拶要員なの。

それから、新婦人の会はね、つい最近入ったのです。1ヶ月くらい前に。と言いますのはね、そうなのです。炭婦協の会長をやっているときに、日本婦人会議と新婦人会が一緒の時点にできたでしょう。そしてね、炭鉦のなかで、獲得合戦ですごかったのですよ。そのときにね、みんなね、炭労の幹部はね、日本婦人会議のほうに入れたかったのですよ。ところが、新婦人に対しても、新婦人がいろいろな活動をしようとするね、あんた方は炭鉦のなか、カンパして歩かないでちょうだいって。ここは炭婦協の領域なのだから、みたいな意地悪が始まったのです。これはまずいなと。それで、私はね、炭婦協の会員であることを、まず忘れるなど。新婦人の会員であろうと、どこの会員であろうと、炭婦協のその人は会員だということを忘れないで、話し合いをしなきゃいけないのだ、ということを行うために、どっちにも三役は入らないということになった。それがね、ずっときて当然みんなは入っていると思って、今までいたみたいなのです。全然入っていない。

³³ 「合同教育研究全道集会」

Q:三役は、入らないというのは、道炭婦協の段階で。

そう、そう。道炭婦協の段階だけで。

Q:そうすると、婦人会議のほうにも入ってないということなのですか。

入ってない。

Q: 当時は大変だったですものね。

大変ですよ。私、そういう差別は一番、人間として卑しいことだと思うから、差別はあまりしなかった。でも、共産党の時は差別したね。あんた、帰りなさいとか言ってね。いや、申し訳ないねって言ったのだけれどさ、本当。

Q:さっきの会社との交渉なのですが、会社は主婦会をどういうふうにみていたかという話をしていただきたいのですが。さっき、あの信任投票でもって役員を選んどとか、他の炭婦協はどうなのですか。

それをやっているところなんて、本当に高くとります。ほとんどないのです。私ね、広めようと思って、芦別でも確か1年くらいで、そういうのを取り入れたところがあったのですけれどね。みんなから反発くってしまったのですね。

Q:どうということなのでしょう。

だってね、嫌々でるわけでしょう。どうしてもと口説かれて。徹底的にね、私、炭婦協のあれに書いてあるのですが、役員に狙いをつけたら、まず、おばあさんがいるかどうかなんです。おばあちゃんや、お年寄りがいるかどうか、その次は、子どもなんです。この2人が協力してくれるということの、条件が合えばね、旦那は「うん」と必ず言うのです。言わざるを得ないのです。だから、くどく方法まで考えている。(中略)その当時の労働組合というのはね、主婦会がそういう風にやろうって言ったら、もう全面的にバックアップをしてあげましたから。

Q:経済状況で(闘争を行う際に)それぞれ(課題が)あると思いますが、その辺、主婦会っていうのはどうなのですか。

いや、あのね、炭婦協の場合はね、これは他の主婦会とは違ってね、他の主婦会、国鉄にしても教組としても、全部、組合費として、上がってきたものの中から補助金をもらっていたわけです。そこが違うところな

のです。炭婦協は独立をしているのです。だから、最終的に、全員一致、全員入ってもらおうと言ったのは、我々の気持ちではなく、私たちは結局、任意団体で押し通そうというふうを考えていたんです。その方がやりやすいですもの。だって、賛成してくれた人だけ入れればいいんだから。ところが、炭労は主婦の力がばかにならないということがわかってから、全員加盟を是非させようということで、骨をおったのです。それで、どんどん、どんどん、他の炭鉱(やま)が全員加盟になってきて、残るのは、もう太平洋と、それから稚内の中炭鉱しか無くなった時点で、どうしても主婦会が口説かれて、それじゃあ、もう、みなさんがそうおっしゃるのなら、全員でもいいですよと、ただやっぱり、あとで私は賛成していなかったと、本当は反対だった、というのでは困りますから、ということで判をとった。

Q:母親大会に参加した土川³⁴さんについて(お聞きしたいのですが)

今はちょっと病気がちで、全然出てきていないようです。まだ亡くなってはいないです。

あのね、土川さんは私を一番頼りにしてくれたのですね。だいぶ歳は離れていましたけれども。代表団のなかに、あの人の言葉をわかる人が少なかったのです。ずうずう弁でしょう、それどね、最初ね、梅田さん³⁵に面倒をみてもらうように河崎先生³⁶がね、梅田さんをお願いしたんです。ところが、土川さんはね、こういうことなんですよ。あれは、梅田さんがまあ、上流階級の人だからだったんでしょう。ソビエトなどに入りましてでしょう。そうするとね、必ず、ホテル行くと煙草が出るんですよ。そうすると、土川さんは、お金をあまり持って行ってない人だし、やはり、お土産に持って帰りたいと思って、それを鞆にしまってしまうのですよ。そうすると、暫くして、なくなったからと、また、ちゃんと置いてあるんです。それが、「卑しい根性」だって、非難したのです。それから、農家の出身なものですから、まあ、お皿からはみ出るくらい肉が出てくるの、食べられないのですよ、むうっとして。ところが土川さんはね、むうっしようと、どうしようと、口から出そうでも食べるわけ。それは勿体ないからね。農家の人ならわかりますでしょう。勿体ないから食べるの。そうするともう、「根性が卑しい」って言われて。「あんた、そんなに根性卑しいと恥ずかしい」と、「日本の代表としてソビエトまで来ているのに」と言うふうに言われてね。また、毎日、泣いてくるわけ、私のところに。

私は梅田さんと、ものすごい喧嘩をスイスでやったのですよ。そして、やはり、あの人は教授夫人ということもあったのでしょから、プライドも高かったのでしょ。なにせ、私は声がたつのでね、大きな声だし、歯切れもいいから。私は歯切れがいいのですよ、父の東京弁が幸いしてね。だから、私が40分の日本の報告をしたわけ。それが梅田さんにとっては気に入らなかつたらしい。それから、ずっとモスクワまで汽車で行くでしょう。そうすると、行くたびに、途中、途中で一息入れる時に歓迎があるわけですよ。そうすると、順番に挨拶をするのだけれども、やはり、たくさんだとマイクはなしですから、そうすると、私の声がいいものだから、河崎先生が、「多嶋ちゃん、お前やれ」となるわけ。そういうのが、気に入らなかつたみたい。

それでね、私にね、「労働者って、もののわからない者は始末に困る」って言ったの。今度は私が、「なに

³⁴ 土川マツエさんのこと。

³⁵ 梅田幸子さんのこと。

³⁶ 河崎なつさんのこと。

っ」って言った。「あんた、なんだと、下宿の娘で大学の□□でね、それで結婚したんでないの。何が労働者ごそごそとって」。私も私、なのです。それと、もうひとつはね、私があの人に決定的に嫌悪感を持ったのはね。実は、本当はあの人ではなく、日鋼室蘭主婦協議会の池野さん³⁷が行くはずだったの。ところが、池野さんが周囲の事情でもって、病気だってことで行けなくなって、日鋼室蘭の代表代理だったのだから、そして日鋼室蘭の人たちは帰りには、いろいろと世界の人と会うのでしょから、子どもたちの図画(絵画)ね、昔でいう図画、絵を持って行ってくださいと言われて、50枚ほど預かっていたの。ところが、梅田さん、それをどうしたと思う。今だから話せるけれどね、私はこれ誰にも口腐っても言うまいと思っていたけれど、こんな幼い、まずい字を外国の人に見せられないって、飛行機の中で投げたの。私は、それで腹たったの。どんなにへたなものでも、真心がこもっているでしょう。そうしたら、向こうに持って行って、このお礼として、こんなものをくれましたよって、持って帰らないとならないでしょう。それ、役割だよ、あんた。しかも、日鋼室蘭の代表なのだから。私、それが腹に据えかねたのね。

Q:意識のずれがありますよね。

はい、はい、はい。だからね、全日自労³⁸からいった菅原さん³⁹なんか、随分と悪口を言われたのよ。だってね、そんなにお金が無くてみんなのカンパで行っているわけでしょう。そうしたらね、一銭のお金だって使うのも惜しいわけですよ。そうするとね、みんなね、私がい買い物上手だから、「さくらんぼ、買って来て多嶋ちゃん」と言うから、「いいよ」って、「はい」って、袋を持ってね。私は上手だったのよ。片言の英語をしゃべっている人より、うんと早かったの。それはジェスチャーでね、袋を持ってね、これをこん中にふっと入れてって。そうすると、もういいいか。ノー、ノー、もっと入れてって。そしてね、お金は多めの金額を出すの、おつりがくると、その次からわかりますからね。

そうやって、あれしても、やっぱり仲間に入ろうとしないのさ。菅原さんなんかは。そりゃ、そうだよ。あみだくじのようにして、仲間でもって買うわけでしょう。だけれども、そうそう付き合っていられないでしょう、ね。

そして、自分のお金なんか持って行けるような立場の人でないのだから。そうしたら、あんたはいいよ、くらのことを言ってやりやあいいのさ。それね、もう、「出し渋っている、みんなのカンパで来ているくせに」とかさ、本当に嫌だ。私、だから上流階級の夫人なんか信用しないよ。本当に人を虐める。それで、河崎さんがね、「多嶋さん、土川さんは、あんたを頼っているようだし、あんたの通訳がないと、あの子の言うことがわからないから、あんた、世話してくれ」って言われて。それで、藤田⁴⁰さんは、「入れれ、入れれ、また無くなったら持って来るのだから、入れれ」って言ってね。もうあれしたのだけれどもね。そういうことをやる人がいるの。必ず代表団のなかにはいますね。

そして、帰って来てからね。小笠原(貞子)さんの悪口、どれだけ言ったかわからないです。押しのけて自

³⁷ 池野五乙女さんのこと

³⁸ 全日自労働婦人部のこと。

³⁹ 菅原絹枝さんのこと。

⁴⁰ 藤田寿さんのこと。

分が代表になって。代表でない、あの、事務局長。あの人の名誉を傷つけるようなことを随分言ったのですよ。だけれども、私は、小笠原さんはえらいなと思った。あんなお嬢さんがね、お嬢さんで育った人なのに、それをじっと我慢をしましたからね。私はえらい人だなと思った。

そしてね、私にね。やはり、私にね、本当の意味で階級的にももの見かたをあれしてくれたのはね、財閥の本を読ませてくれて、税金をくう虫たちだとか、それから、もうとにかく、いろいろな本を読んだ。それで、財界を読んでね、初めて戦争はね、起こすものだということがわかった。自然に起こるものではないということがわかった。そして、同じ人間が差別のなかでね、なぜ、弱者が苦勞をしなきゃならないのだと、そういうようなこともわかったのです。あの人の本です。だから、私ね、どんな困難があっても、炭婦協から顧問も辞めてね、49年の時に地方区で勝ちましたでしょ。全国から地方区まわって。そして最高点で当選しましたね⁴¹。



昭和49年第10回参議院選挙で小笠原貞子トップ当選。

私、この人を当選させられなかったら、本当に北海道の婦人運動を育てた人ですからね。国際的な視野にもたててくれた人ですから。民主運動を本当に起こしてくれた。この人を地方区にまわって当選させられなかったら、婦人運動をばかにされると思ったのです。それで、何としてもこの人を当選させたかった。だから「裏切り者」って呼ばれたけれども。

その時にうれしかったことが、ひとつあるの。「多嶋裏切り者、共産党のオルグになった」って言われたの。そして、「多嶋が来て、お手紙見るな、なにも受け取るな」っていうのが、下部におろされたのですよ。その時に清水沢のワタナベさんが委員長だったのだけれど、清水沢と幌内の委員長が、今まで、あんなにつくした多嶋がね、多嶋の弁明のひとつも聞かないで、〇〇裏切り者呼ばわりはひどいって言ってね。中央委員会で決議してくれたの。「弁明させろ」って。だけれども、それは実現しませんでした。私はあの支援がとってもうれしかったね。

Q: 炭労の中央委員会ですか。

⁴¹ 小笠原貞子さんが、1974年第10回参院選において北海道選挙区でトップ当選したことを指す。

そう、そう、そう、そう。いいや、山元の中央委員会。

Q: でも、その人たちも大変だったでしょう。その後というか。

いいや、そんなの一過性で過ぎてしまっているからね。山元から激励の手紙が来てね。よくやってくれたってね。

Q:先ほど、池野さんのところですが、先ほど病気のためと、おっしゃっていましたね。どなたが病気だったのですか。

やっぱり、「アカ」攻撃にあったのですよ。結局、小笠原さんの話を前に聞いていたでしょう。国際会議に行ってきたことなんかという話を、前に帰って来たときに。だからその、やっぱり向こうに行って、ソビエトやなんか、とにかく、母親云々、戦争反対って言ったら「アカ」って言われるのだから。そういう時代でしたから。だから、やっぱり、帰って来てからの闘争との関係です。あそこも苦労しましたからね。

Q: ちょうど、この30年のあゆみ⁴²と一緒にフィルムができましたね。私、たまたまそれを観たのです。その中にさっき、多嶋さんがおっしゃっていましたが、帰って来たときに、世界母親大会から帰って来たたら、これからの平和運動を続ける人という項目があったから、それを私はずっと守ってきている、守りたいという気持ちだということを、ナレーションが入っていませんか？多嶋さんの声で。あれはこの編集をするために原稿を書いたの？

そう、そう、そう。

Q: 自分で原稿を書いて、お読みになったのですか。

そう、そう、そう。それでね、始めは私ばかりでなく、永久にその何て言うのでしょうか、ちゃんと平和運動をする人が入っていたのですが、長く続くということは誰も思っていないわけです。ただ、世界母親大会開かれると。そして常設委員会は国連の婦人の地位委員会の中にできたんだけど、他のところはどこもできてないんですから。母親の(運動)などやっていないんですからね。

Q: 各国で、ですね。

⁴²「北海道母親運動30年のあゆみ」1986年12月発行。

各国でね。日本だけでしょう。だから、日本だって、北海道が3年遅れたのは、運動が遅れたのではなく、ちゃんと中央にも代表を送っていますし、第1回からやっているのですけれども、やはり、一過性のような感じで受けとめていたんじゃないですか。けれど、集まってね、集まって、ものすごく「泣き親大会」とやったわけでしょう。そうしたら、こんなにたくさんと同じ要求をもった人がいたのかと、ずいぶん励まされました。そして、いやあ、みんなの力合わせれば何とかなるんでないか、ということにすがって帰ったわけでしょう。その報告活動がまた素晴らしかった。だからね、今、私は地方のみなさんに言うのですが、報告活動と代表を送り出すときの準備、学習をしたりいろいろしたりして、要求をまとめていく地域の準備、そういうものがなければ母親運動ではないよ、と言っているのです。ただ、行って来てね。この頃は、お金が集まったけれど、誰か行く人いないのか、と言うの。そう、そう、そう。そうしてね、地域でカンパしなくなったの。

第12回大会に総評が不参加表明(1966年)をしたときにも、なぜ、80何名の代表が行けたか。やはり、あのとき、120名くらいが集まったのですが、そこへ、総評が不参加声明を出したために、私はやめましたっていう人が出て、86名になったのです。86名の人ほとんど総評の、言ってみれば、全道労協の私が主婦会会長をやった主婦協ですね、主婦協も不参加なのですよ。ほとんど、たくましくやっていたのに。ところが、その人たちもみんな、街頭で母親大会を訴えて、街頭のカンパで出てきていますから。私たちはなにも、総評から言われたからって、みんなの、地域の代表なのだから。だから、私は総評が不参加でも関係ありませんって行ったのです。この姿をもたなきゃ、だめなんです。はい、ここ原点なのです。それが今はね、一般化されちゃっているのですよ。一般経費でもって、何名って決められてしまっているの。そして、行く人がいないから、神戸に親戚のいる人が行くってたって。どうするの、あんな。

だからね、代表団には加わりますけれども、私はひとつも宿には泊りませんなんて言う人がいるのだから。それは、認めないのですよ。代表団でね、自分たちが地域からもっていく、学園から、職場からもっていく要求を、北海道全部のものにして、理解してもらおう学習会が必要でしょう。そして、どこへ行ってもそういう問題を自分から提起ができる代表になっているべきだし、全国の問題にしなければならないのです。だから、絶対に単独行動はさせないのです。終わりはね、どうぞ親戚に会いに行ってらっしゃいってという風に、まあ、しますけれどね。でも、もう大会が終わるまでは単独にはね。ところが、このごろ、かなりの知識層でもね、勝手なことを言う人いるの。席は空けてとっておいてください、勝手にいきますからって。

Q: どのような問題をもっていくのですか。

例えばね、乳幼児の問題であるとか、それから保育所の問題で、統合されるとか何とか、それから病院でしょう。今年の場合には、演習の問題があるでしょう。たいきはまの演習場⁴³の売却の問題がありましたでしょう。そんな問題とか、それから国鉄の人活問題ですよね。ああいう問題もみんなもっていきます。そして、それぞれの分科会で、いった代表の責任として発言しなくてはならないと義務付けるんです。

⁴³ 浜大樹の演習場のことだと思われる。

Q: 今年はどのくらい行ったのですか。

今年は108名です。100名を切ることはないです。そして、おかげさまで、母親運動の素晴らしいところは、例え新婦人の人であっても、初めて参加するという人が非常に多いことです。70%もいますから。北海道大会に。それと、地方でやることの意義は、本当に母親大会をやったために、統一と団結の輪が広がるのです。長野など、学校ごとに母親運動ができたと言いますから。

そうしてね、今は「誰でもできる母親運動」と言っているのですが、その先生はいろいろ、原爆のスライドだとか、いろいろなもの、「大きな木」だとかね、そういうものでね、原爆というのはと、一人で廊下に貼りだしたそうです。そうすると、みんなそれを見てね。そこから、平和の問題の学習会が発展したというのですから。だから、一人でもできる運動ということで、提唱しているのですけれどもね。誰でもできる母親運動というこです。

Q: やはり、今日の話のね。やはり、北海道ならではと言うか、そういうものを背負って、来られてというのをね。でもお話を聞いて、山元の、さっきのその、言わば女鉦夫の、啖呵を切ったっていう。やっぱり北海道らしいっていうか、そういう時期というのか、まだまだ、戦争を引きずっていたのだとね。

私ね、労働組合からもらったあだ名が、「じゃがいも」と言うのです。「ごしょいも(五升芋)母さん」。これね、私は北海道弁でとっても好きでね。どうして「ごしょいも」ってつけたのって言うと、「おばちゃんさ、だんだん、しわくちゃんになってきただろう」って。そうしたら、北海道の男爵芋を箱の中に入れてね、春を迎えて、箱の中でぽっと芽を出したような顔をしているって。これはまた、いいのをつけてくれたねって。ところが、私はじゃがいもが一番嫌なの、大嫌いなの。

Q: 鉦山関係の主婦たち(太田愛子さん⁴⁴)が、炭婦協よりも早くに、道内では組織して進んでいますよね。

いや、道ではやはり炭婦協が一番早い。ずっと遅れていますもの、鉦山は。

Q: 同じような生活要求を。

(そう)でしょう。

Q: やはり閉山は向こうの方(鉦山)が、より早いというようなことと、それからもうひとつは例えば、考え方っていうのか、多嶋さんがまあ、こうだと思ったことをずっとやっていくという、やはり、指導者の違いというのか、そういう風なものもありますか。

あそこは、やっぱり女性らしい組織だったんでない。だから、私なんか、随分、全鉦の山に入りましたけ

⁴⁴ 全鉦道婦協初代会長。

れどね。クニタチも入ったし、いろいろなところに全鉱の山がありますよね。大人しい人たちです。炭婦協みたいだね、本当に労働者の荒々しさのない、人たちでしたね。下川(鉱山)のクサマさんなんか、今でもやっていますが。だけれど、ああいうことでは要求なんか、通りっこないです。したたかな経営者相手にしてね。だから、全鉱が一番闘いをとったものでね、今でも残っているのは「労災の問題」です。あそこが始まり。

Q: 三池の主婦会の場合には、いわゆる、会社攻撃があって、(主婦会が)なかなか作れないって、ちょっと書いているように思うのですけれど。道内の炭婦協の場合では、そういうことはわりとなかった？

ありました。一番あったのは、砂川ですよ。砂川や芦別。あれは、ずっと遅くに入ったのですから。

Q: 婦人部とか、そういうものはできていても。

いても(遅かった)。一番(主婦会を作るのが)遅かったの、あそこは。道内で最後に入ったのは、上砂川と芦別です。

Q: そうですか。何年頃？

うーんとね。6・3スト(六三闘争)が済んでからですね。6・3ストで、みんな他山の人たちがやっていることに目覚めて、6・3スト(六三闘争)で相当、やっぱり、となったのでないですか。それからね、評議委員会の会議のときなどは、傍聴には来ていたのです。けれど、長いこと入らなくてね、「なんだ、傍聴に来たって、お金使って、なにしに来ていたのだ」って、悪口を言っていた時代がありましたから。なかなか、入らなかった。

だからね、私たちがどんなにね、道炭婦協の状態のなかでね。私だけはね、主婦会からよくいくと、私、鉱山文化協会というもの潰したのですけれどもね、みんなで。それも書いてあるのでないかと思う⁴⁵。

それはね、労働者を呼んで、ごちそうしたりね、研修会という名目であっちこっち連れて歩いたりして、道楽するのですね。結局、飴と鞭なのです。それに行くなどと言っても、会社がいうことだからと行くわけ。行ってきたら、会社はとってもいいことしてくれた、こうやってくれた、ああやってくれたって、必ず報告するわけ。そしてね、2~3年でだめになっちゃう。だから、これには絶対、排除しようということで、行ったものは除名するという措置をしたの。

それからというもの、太平洋(炭鉱)などでも、主婦会の人と私と一緒に東京に行くでしょう。私だけは絶対に、食事に呼んでくれないの。一人だけのけ者で、あとの人には歌舞伎見せたり、長谷川一夫の料亭に連れていったりして、ごちそうをするの。私はね、「行って食べておいでって、おいしいものは、こういうときでないと食べられないのだから」って。行って食べてきて、食べてきたらね、そういう態度なら行って来いって言うの、私。

そうしてね、私には、絶対、どこの企業連でもごちそうをしてくれたことがないです。「ばーん」と断ってね、

⁴⁵ 『研山(ずりやま)は知っている』176頁。

報告をしてしまうから。公にしてしまうから、私は。だからね、岡田春夫って代議士がいるでしょう。あの人なんか、もうあきらかに差別して、私だけのけ者ですよ。それがまた、私はね、会員にむかって、とても誇りなのです。ひとつの誇り。だって、私はいつでも会員のほうを向いていないとまらない。ねえ。けれど、みんなは東京行ったら、おいしいものも食べたいだろうし、だから、行って食べてはおいでって。食べたからって、むこうに誘惑されたらだめだよって。

Q: 炭鉱離職者の主婦会ってありますよね？

ある。ありましてね。ところが、一番、最初ね、離職者の主婦の会を作る時に、私は約束をさせたのです。選挙には、選挙の動員部隊として使わないでほしいと。そうしたら、そんなことはない、もう離職して、炭鉱の組織から離れたのだから、みなさんは自分の進む道を自分で決められたらいいのではないですかって、いうことで作ったのですよ。

そして、私が会長になってね、まもなく離職者促進雇用事業団ができあがってね。そして、そこでは道からお金なんかもらわないで、自分たちでお金を作ろうということで、建物やなんかは道に建てさせたのだけれども、住宅などはね。だけれども、中身の運営は自分たちの手で作ろうってということで、競馬場の売店の権利を道からもらって、私なんか、こんな大きな一斗鍋でもって、どのくらい甘酒を、味噌汁、おにぎりを作って売ったか、わかりません。毎日です。そうしてね、甘酒にちょっとね、酒をいれるわけ。

そうすると、美味しいから飲むでしょう。喉渇くからラムネが売れるわけ。それでね、毎日、100万円の大台、大入り袋だしてね、その大入り袋300円でした。ところが、そうやってね、一生懸命、それも無料奉仕ですからね、そうやって稼ぐのがどこにいつているかと思ったらね、あっちの山、こっちの山って、閉山してきた古手(ふるて)幹部の給料になって消えていくのがわかってね。私、それで大喧嘩してやめたの。冗談じゃないよ。(炭鉱離職者主婦の会が結成されたのは、昭和)48年ですかね⁴⁶。そのくらいでしょうね。もう、本当にね、それととってもいい役員でね。みんなのこと、考えて。そして、今度、社会党の車に乗って欲しいわけでしょう。

そして、せっかくもうねえ、援護協会の社宅に入れてやったのにとかさ。あの人たちのあれで入れてもらったのでないけれどさ。道に造らせたのは組織なのだから。そうやって、差別をするようになってね。だから、いい田んぼ育てていくためにお金を使うならいいのですよ。山元で悪いことし放題の幹部こそ、長生きするのだから、あんた。本当に、それ癪に触ってね、大喧嘩してやめたの。

私はこの間、25周年の表彰を受けました。みんな、多嶋さんに会いたがっているってよばれてね。主婦会はそんな風に思っていないのだから。ね、だから主婦会は懐かしがっているから、みんな来てってね。それで行ったの。そこで、ひとつ私、腹の立つことでね、もう、むかむかしたのだけれど、横路のおっかさんが来ていたの。ご母堂様が。そうしてね、私の顔見たでしょう。さっき言ったように、横路の節男さんが(選挙に)

⁴⁶ 炭鉱離職者主婦の会が結成されたのは、昭和48年であるが、その前身の「OM(Old Mother)会」ができたのは、昭和43年のことである。

立ったときに、全道ずっと歩いたでしょう。「今日は多嶋さんとしばらくぶりにお会いして、本当にうれしくてね。礼文行ったときはあんなことを」と。何しにこの人、挨拶に来たのかと思うくらい、ちょっと、私のことで涙流すの、それで終わっているのよ。そうしてね、帰りにね、「多嶋さん、土曜日の日ね、うちの知事公館の庭でね、茶話会やるの、あなたも来てよ」っていうから、「私、あんな、今食べられないでね、いるものだから、お習字の教室やっているの。教室あるから行かれないわ」って。「そう、まあ残念だわ」って、帰った。憎らしい。だからね、私ね、あんなにして、あんな、離職者主婦会に来たらさ、いや、□□とかさ。「なんとか、なんとかで知事も世話になっています」くらい、言ったらいいのでしょう。私のことばかり、言ってね。そして、本当に懐かしくて、今日はいいところに呼んでいただいたという風に思いますって、涙こぼすのだよ。私がどうして、腹が立ったかっていうと、涙こぼして言ったら、いくらか私の～(音声中断)。

以下、質疑応答が続くが、録音状態はよくない

Q: 山元で、そんなに一年間のほとんどを空けないといけないってとき、近所でやはり、みんなが助けてくれて、子どもさん、息子さんをみてくれたって時期は、具体的に言うと、どんな風だったのですか。

それが全くなかった。あのね、私、中国に行って感心したことのひとつにね、全部、何て言うの、ボランティアでね。託児所なんかみているのですよ。私はそれに感激したの。中国はね、ちゃんと国が保母さんの手当を払ってね、そして、地方では、ボランティアの形になっているの。日本はそうになってないでしょう。それは、いくら一人の子だからっていったってね。

Q: 先生に(子どもの面倒の)支援してくださいって言ったという話はなかったですか。

あれね、なんていったかな、男の先生でね。「多嶋さん、お母さんが家を空けるから、子どもさんは寂しいのではないですか。この頃、少し成績が落ちました」って言ったのね。「先生、悪いのですけれどね、私、どんな風なことでうちを空けているか、ご存知ですか」って言ったら、「よくわかりません」って言うから、「もう少し、主婦会のことを、先生も考えていただいてね。私がうちを空けておいて、こんなことを言うのは申し訳ないのですけれど、お母さんは、なんのために仕事をしているのか、ということを先生からひとこと言っていただけるとね、息子もある程度、私の言うことよりも、私が言うと、自分勝手なことを言っていると思われるけれど、先生からちょっと助言していただけると、息子も理解して、元気を出してくれるのではないかという風に思うのですよ」って言ったの。「だから先生もね、そのへんのことをちゃんと学んでください」と言ったの、私は。そうしたら、始めはあきれたような顔をしていたの。それで、私は子どもがいろいろ、先生に叱られてきたときでも何でもね、子どももよくしゃべるし、それから、先生がわけもわからず、うちの息子を怒ったときは、私は学校にのりこんでいきました。わけを聞いて、そうやってくれたのかと。

私は、あまり体罰なんていうものに、今の体罰と違いますから、昔の体罰は。そんな、あんな、死ぬほど蹴飛ばしたりするような先生はいなかったのですからね。そうすると、やはり、ある程度の、殴っても構わないし、

先生の言うことを聞かなかつたら、頭を小突いてもいいし、ただ、喧嘩をしたときに、うちの息子はね、芯が優しいところがあって、身体大きかったのですよ。そうすると、相手がかかってくる「ぐうっ」と抱きしめたら、相手が動けないくらい、力が強かったのです。そのうちに、ひっかかれたりしてね、そして、あれするのですけれどね。そして、大体、突き放せない子なのです。

そして、また先生もよく協力をしてくれましたしね。もっとも、私が協力してくれないと学校変わらせるみたいなことをしたのかもわかりませんしね。だから、私はいいい人に、とつても人に恵まれたと思っています。

Q 生協との関わりについて

私はどんなに自分のやったことに自信があってもね、一人の知恵でなんか、できないものですよ。それと、やはり、現役の人をどう立てるか、ですよ。一人のなんぼいい人がいたって、一人ではできない。3人なり、5人なり、6人なりで考えたほうが、うんと優れた答えが出るはずですよ。だからね、生協の幹部の人はね、「多嶋さん、もう少し生協にきてくれや」って言うけれどね、私出ていかない方がいいのです。いくとね、口うるさいだけでなく、古いわけでしょう。

(私は)理事だったの。あの理事なんていうのは、小使いみたいな理事ですからね。別に経営の、店を建てるとか何とかということにはタッチさせないのですから。物を売ることだけの理事ですから。あんな利用はないよ、本当は。だから、私は経営にまで、タッチさせなさいって言うの。そうでしょう、私たちは店の店舗よりも、品物が欲しいのだから。店舗欲しいわけでないからね。だからね、共同購入で始まったのだから、共同購入が生協の生命なのだから、それで、あんまりコストもかけないでね。もっと安く。必ずしも、安くないです、今の生協は。そうでしょう。

それでね、私、専務に要求して。ところが専務がまたね、なかなか大変な専務ですよ、あの人はね。大変な、って言うのは、頭切れるしね、先を見通せる人だしね。それで、私に、こういうことを言ったことがあるの。もう7~8年も前の話でね。「多嶋さん、店舗を建てるな、店舗を建てるなって、あんたは言うけれどさ。生協が生協規制を受けて、だめになったとき、なんで出資金を払わなかった。固定資産もうまくやっていたら□□。そして、いよいよ、生協が立ちいなくなつて株式会社にするから」って、言うのだよ。私はそれからあの人を警戒してんですけども。人間はとつてもいい人なの。うん、ざっくばらんだしね。

それで、私があの人に嫌がられたのはね、最後にわかってくれたけれどね。その、市民生協の理事って奥さま方が多いでしょう。そうするとね、理事会にきて、あの店長が悪いとか、あの店員が悪いとか、そんなことしゃべるのだよ。私、もう、なんであなた方は、そんなところ、って。それは店長が悪かったら、店長にこっそり言いなさいって、直接。なんで、理事だからって偉そうに言うのかって。豊臣が滅んだのは淀君のおかげだ、淀君みたいなこと言うなって私は言うのだけれどね。そうやって言うでしょう。「うん、そうか、あれは本当に困るな、そんなのは店長の資格が無い」とかって、理事会で言うの、その、そういうことに口車合わせて。それで、私がね、「あんた、人のことをあの店長は店長らしくないって、それを育てているのは、あんた。あんたが一番悪い」って、私、言ってやるの。そうやって決めつけられるから、私を嫌がってしょうがない。それで、やめるときにね、「多嶋さん、しかしな、おれは誤解していた」って。「何を誤解していたの」って言った

ら、あんなに口やかましく、だっておれ、よそから見たらね、大変な規模の店長でしょう。よそからはおだてられるのよ。それがね、炭鉱の母ちゃんがさ、そんなのあんたの責任だってね。みんなが、あんた、学識経験者がいる前で、言う方も言う方なのだけれどさ。だけれど、あんたが口うるさいこと言ってね、いろいろなことが外に流れたときに、あんたが言いふらしたとぼくは思った。だけで、あんたは自分が出て来ないときの決めたものについては、文句言ったことがないよな。俺ね、本当に 2~3 年前から、あんたって者を芯からわかったよって。そうしてね、今度、60 歳停年を私提案したの、そうでないと、創立当時の理事が辞めないわけ。今は多少、6 万円の給料をもらっているのですけれどね。そんなのが辞めないのさ。そして婆さんになるとね、あの大きな所帯の店を構えるのだから、億のお金なんてものは、我々の 100 円か 500 円くらいしか、ないわけでしょう、経営者してみれば。それ主婦だからね。もう会場をあれするなんて、言ったって、3 億なんて、私は買いなさいって言ったの。文化教室が始まったでしょう。いろいろなサークルが始まったでしょう。その時によそを借りれば借り～

(録音終了)

2.2 多嶋光子氏・講演(1999年7月11日・北海道母親大会第14分科会)

西城戸誠・久保ともえ(編集)

[編者注]本節は、1999年7月11日に開催された「第42回北海道母親大会第14分科会」において、多嶋光子氏が「世界母親大会に参加して45年、母親運動とともに生きて」というタイトルで講演された内容を記録にしたものである。録音テープは、岸伸子氏が採録、同氏個人の所蔵であり、札幌市女性史研究会の林恒子氏を通して複製テープの提供を受けた。岸氏に記して感謝申し上げます。

()内は編者が補った言葉、注は編者がその後補足した内容、□は、聞き取りが不明瞭だった点である。確認できない人名についてはカタカナ表記を行った。表現の一部は、現在の感覚では表記してはいけないもの、独特の言い回しがあるが、本人の人柄や当時の状況を残すことを優先させ、そのまま表記してある。多嶋氏の語り口には独特の表現があり、例えば、「するのですよ」ではなく「するんですよ」などがある。本リサーチ・ペーパーでは、多嶋氏の独特の言い回しをなるべく正確に記録しようとも考えたが、講演の内容の理解のしやすさという観点をあえて重視し、表現方法は変えてある部分がある。講演は1時間半に及ぶもので、途中でテープの切り替えがあり、音声を確認できない箇所があるが、その点は省略してある。また、個人のプライバシーに関わる内容については、編者の責任でカットしてある。また、いくつかのセッションに区切ったが、それは編者による編集である。

本文中の写真は出典が書かれていないものは『光子のアルバム』からの転載であり、札幌女性史研究会・林恒子氏からの提供を受けた。また、林氏や岸氏には、本記録の原稿に目を通していただき、コメントを頂いたが、記載内容の責任は編者にある。なお、掲載にあたっては、多嶋光子氏の親族の許可を得ている。

■私の性格と炭鉱

私は煉瓦職人の娘です。それはもう、母親の正義感を引き継いで、親父さん(父親)も部屋(飯場)を持って、あちこち、長野のトンネルをあれする(造る)などね。うちの父などは、平岸の電気釜⁴⁷を煉瓦で築いたのですが、自分が亡くなって、最初に自分がそこに入ったのですが。

まあ、そういう労働者のなかに生まれてきていますから、「生き(いき)」がいいわけですよ。そして、最初の思想というのは、何て言いますか、「女を抑圧しているのは男だ」と思っていたわけですから。そういう考え方をもち炭鉱にいったわけです。だから、炭鉱では労働組合からお金をもらったり、補助をもらったりして活動するなんて冗談ではないと。男なんか構わなくても、私ひとりでやってみせるわって。ものすごく「生き」が良くて、男を怒鳴りつけてね。「青二才、これ、なに言ってんだ」って、言うくらい。だから、今でもいろいろな人が「あねご、あねご」って言うんですけどね。まったくの「あねご」ですよ。この、「やーさん」(ヤクザ)

⁴⁷ 平岸火葬場のこと。

の「あねご」ではないけどもね。本当にやっぱり、「あねご」だったんだね。でも、それがまた、炭鉱では幸いしたわけですよ。気性の荒いところだね。しかも、以前は女性も炭鉱の中に入っていたわけですから。腰巻ひとつになってね。

そういう荒っぽいところに入っていったものだから、水を得た魚みたいに、もう、私の腹の中が、「があっ」と沸いてでてくるわけ。しかも、私は欠席裁判で会長になったんですね。「ありやあね、だいぶ舌が回るから、あれやれ」ってなもんでね。そういうことで会長になったわけですよ。だから、夫婦げんかの仲裁から、まあ、いろいろとやりました。夫婦喧嘩をやっている時にはね、私は、「やれ、やれ」って言うんです。止めないんですよ。止めれば、余計勝るもんだから、「やれ、やれ」「やれ、やれ」って。「おお、やれ、やれえ」ってなもんですね。包丁を畳に刺してね、そして、あんた、焼酎を飲んで喧嘩するんですから、そんなもの、側に寄っていったら殺される。だから逆にそういう風に「やれ、やれ」って言うのと静まるんですよ。喧嘩というのはおもしろいもんでね。まあ、そんな荒っぽいところで、多嶋光子っていうのはすごいぞと、ちょっと名を成した、ということがあるわけです。

■生協を作る

それから、私が母親(運動)をやるようになってから、生協も作ったんです。生協の創立にもかかわったんです。その生協にかかわって理事をやってね。中堅幹部のところでは、私、すごく好かれたんです。頼りになったの。えらい人にむかって「お前さんね、店長が帆前掛け締めて、歌ばかり歌って仕事しないって、言うけれども、あんたね、理事長でしょう。理事長が教育者としてのわけでしょう」と。そして、私は「そのあんたが教育した店長が帆前掛け掛けて、鼻歌まじりで仕事をしないというのは、あんたの責任ではないの?」と、「誰の責任って、あんたの責任でないか」と言いました。



昭和49年5月5日生協理事に就任

まあ、そういうやり方をしたもんだから、炭鉱(主婦会)の時からよく知っている人たちが、コープさっぽろに随分入っているわけですから、そういう人たちは「おい、多嶋光子、理事になって来るのだと、本当に来たらしいなあ」と言ってくれて、またそこでも頼りにされたんです。でも、考えてみると、私は喧嘩ばかりやっていたね。だってね、組織のなかでは責任を転嫁するということが、ものすごくあるんです。店長なんて誰がやったって、帆前掛けを締めているけれども、大学の卒業生ですよ。けれど、そういう人が市民のために、一生懸命に働いているわけでしょう。それをね、ちよつとなにかあると、「誰の責任だ」って、すぐに責任問題が始まるわけさ。

■母親運動にかかわり続ける理由

そういうことでもって、喧嘩などをするもんだから、ある時に、ある政治家の人から、(選挙に)出ないか、と言われました。「多嶋さん、もう出てもいい頃だから出ないか」と、まあ、どこに出るということではないけれど、

そう言われたときに、「私がどうして、あんた、選挙になんか出るのさ、私なんか出たらね、その党にはあまり人がいないんだなと思われるでしょう。もっと、えらい人がたくさんいるんだから、そういう人にあたりなさい。私なんか、(議員に)なる気なんか、さらさらない」と言いました。そして、それを言ったときにね、「私を出そうとしたあなたは、私のどういうところを見込んで出そうとするのか」と聞くと、理由を言われたなかにね、「喧嘩」がありました。「あんた、自民党とも喧嘩出来る人だから」と。私、ぎょつとしたものね。そんな判断で私を出そうとするなら、私は絶対に(選挙には)出ないと。私は(選挙に)出した人を何て言うか、監視する役割に徹するつもりで、今まで来たんだから。私の信頼というものは、私の能力というものは、私の能力ではなくて、私は、母親運動をしているのは何故かと言うと、世界大会に行つて来たからしているんでないですよ。

実は、最初は3年くらい、(母親運動で)働いたら、勘弁してもらえんと思っていたの。ところが、やっている間に愛情が出るものね。どんどん、どんどん、みんなにもう、砂に水が染み込むような早さで、日本中に広がった運動でしょう。しかも、「えらい人」の運動ではなくて、本当に「おっかさん」の運動なんだわ。お金ももらえない、子どもの世話してもらえないなかで、(運動を)やんなきゃなんないわけでしょう。そうすると、「これは大変なことだと、これを引き継ぐためには、将来は大変だな」というふうに思ったわけです。だから、3年くらい勤めたら、まあ、許してくれるんでないか、と思ったんですが、当時の代表を出すあれ(条件)は決まっているんですよ。「将来にわたって、平和運動をする人」と、いうことです。それなのに、私は知らん顔して、3年でやめればいいやというくらいの凶々しさをもっているわけですから。そうは思っていたのですが、やはりやっている間に、どういう立場で、どういうことをしなければならないのか、ということを見ると、母親運動のなかでは、まさに炭鉱そのものも私の範ちゅうのなかに入るわけですね。平和の問題もそうでなければ、炭鉱だってやっていけないし、それから、自分たちの毎日の食糧だってね、やはり、コープの人たちに任せておくだけではなく、私たちも手伝ってやんなきゃなんないということで、要求はものすごく多面的だからね。そのなかに揉まれていっている間にね、これはね、もう、やはり私の仕事としてやらなければ、将来、息子を立派に結婚させることも出来ないし、お父さんを見送って私が死ぬような世の中にしなければならぬってことが、だんだん、だんだん、私のなかで生まれて来たのよ。それは、私自身からではなくて、周囲から、そういう、何て言うのか、要求が私を蘇らせたと言っているのかな。私はそう思っているの。

私は高等小学校出身ですが、女学校の先生なの?とか、女学校出てるんでしょ?とか、言われるのです。まわりは、当然、女学校を出ていると思っただね。それで、「そんなところ出ていない、私、あんた



昭和31年日本炭鉱主婦協議会機関誌「たんぶきょう」

ね、なんも義務教育しか受けていないよ」って言うと、「あらあ」って、たまげるの。それは、私が、度胸がすわっているからですよ。この度胸はね、やるぞ、と言ったら、度胸がすわるんだから、これだけは、私の天性のものです。労働者魂なんですよ、うん。そこらへんのね、インテリゲンチァの精神ではないんですよ。労働者魂がね、腹のなかにすわっているから、その根本がずっと運動のなかで生きてきているんですね。

■母親運動の組織を巡って

私は、心臓が悪くなってしまい、弁膜症なのです。左の弁が一枚、死んでしまったの。それで、発作が起きるもんだから、やはり、早く跡継ぎを作らなければ、これだけ発展をした母親運動をね、途中で会長がいないなんてことにしたくないと、そう思っていました。そして、4年かかってね、こんな優秀な(跡継ぎの人)のが出来たんですよ。

母親(運動)っていうところはね、一銭も給料を出さないところですからね。私は、炭婦協でも一銭ももらっていません。私は金時計と指輪だけは親が買ってくれて、14歳のころから指輪をしているのです。ところが、しないと寂しくてしょうがないということもあったのですが、私が指輪なんかしているでしょう、そうすると、母親(運動)でも、だいぶ給料をもらっている人の方が多いからいい。そうでなかったら、どこからもお金が出ないもの、そう思われたのかもしれない。まあ、うちの義隆(夫)が働いてくれるからね。それも、15年前に亡くなりましたけれどもね。

まあ、そういうことで、いい人(跡継ぎ)を4年がかりで見つけたんですよ。この人は大切な人です。そして、今の事務局もしっかりしている。二人ともまた、だからね、ああ、よかったなど、私の跡継ぎがこんなに立派に育っていたんだということが、私にとってはうれしいことさ。

それで、私は今日、みなさんから話を聞いていて、いやあ、私にはね、また、大きな役割があるんだなと思いました。私は、(役を)やめたときに、母親(運動)を捨てるなんて、思ったことはないんです。母親(運動)から退くなんてことを考えたことはないんです。しょっちゅういっていると、顧問にしたいとか何とかって、中央でも、いろいろ言ったけれども、「顧問なんて邪魔くさいものはやめなさい」と言いました。「顧問なんていうとね、役をひいた人間は、だんだん声がかかると寂しくなるから、顧問になったのに呼んでくれないとか、顧問の意見を聞いてくれないとか、そんな僻み(ひがみ)が出てくるから、そんなものはおこな」って言ったのです。やはり、現役の6人なり、7人なりの意見の方が勝つから自信を持ってやりなさいって言ってね。私はあまり余計なことを言ったことはないんですけれどね。

まあ、そういうことでね、やめてからもすごく精神的に安定したんです。今までは、能力が無いから、責任、責任、責任、責任と。私は会長というのは、人をどう動かすのか、それから、みんなの責任は会長の責任なんだ、ということ、やっぱりね、しっかりと組織はもたなきゃだめだと。さっき言ったように、誰の責任なの？誰の責任でもない、会長の責任なんです。だから、会長はそれを処理していくぐらいの能力を持つように務めなければいけないというのが、私が考えている、組織に対して考えていることです。それから、組織というのは団結しなければ、何も仕事が出来ないわけですから、その団結を作るのは、自分でなければ作れないなんてことはないです。どんな人でも、誰でも作れるんです。それは、その人の能力だけではない、あと、6人なり、8人なり、20人なりの、ね、ブレーンっていうの、ブレーンの集まりでしょう。そうしたら、なにも一

人でね、これがもう責任だなんて(考える必要はない)。ただ、いよいよ、組織的な責任が必要になった時には、がんとして、会長が責任を処理しなきゃだめですよ。これがあれば、みんなはついてきてくれる。

それから、もうひとつね、あの人はだめだ、この人はだめだ、なんて言うのは大きなまちがいですよ。どんな人でも、組織のなかで育っていくと、「本当に、みんなとどうやったら仲良く出来るのか」ということを、やらずにはいられない要素を組織としてはもっているんです。組織をどう動かすのかということでしょうね。今日も24人しか、ここに来ていませんね。あのね、これは年々、減っていくんでないか、と私は思ってるんです。この分科会は、前にはね、40人くらい来たんですから。しかし、どうして、今のよう少ない人数になっていったのかというと、自分が必死に考えて、今後どうしたらいいか、という問題をね、どうやって母親(大会)で勉強していくのかという、分科会がいっぱいあるわけでしょう。すると、ここはね、それをどうやって地域のなかで広げていくのかという、組織の発展のための分科会でしょう。そうするとね、やはり来た人たちは自分にとって必死の問題のほうにいきますよ。あとはえらい人がここへ出てくれて、そして、まあ、いろいろと話して勉強してくれればいいと思っていますよ。私なんか、今でもそうですよ。今、新聞を見るでしょう。『赤旗』でも、難しい言葉を使って、いろいろと書いていますよね。なにも、こんなもの私が考えたって、頭が痛いし、目がだいたいだめになってきていますからね。そうしたらね、こんなものはみんな、えらい人に任せておけてなもんでしょ。それと同じですよ、ここは。

だから、ここが、どう母親(運動)をね、これからどうしていくのか、ということを実際に話し合う場所であって、あと、みんな連れて来た人たちは自分の要求のところにいくのは当たり前のことですよ。だから、ここが少ないからといって、嘆くことはないんです。うん。10人であろうと、15人であろうと、その責任を感じればいいんです。それをね、数でね、あれは成功したとかなんとかと言うのは、愚の骨頂ね。数ではないんですよ。3人でも、5人でも、10人でも、いいんです。しっかりと将来をどうしていくか、ということですよ。

■炭婦協での活動

あのね、炭婦協が言いました。うちの会長は、「あそこに出ろ、ここに出ろ」とさかんに議員になることを勧めるわけですよ。でも、私は「ならない、ならない」と言っていて。ただ、自分はならないけれど、人を出すことはしましたよ。炭婦協の、何て言いますか、何人か候補者を出しておりますからね。そうしましたけれども、私がならなかったのは、本当にね、何て言うのか、炭鉱の運動もそうですし、えらい人がやる運動ではないでしょう？炭鉱のおっかちゃんね、もう、あなた、GHQ(総司令部:General Headquarters)から、なんかが出ちゃって、女性は坑内に入らなくていいようになったわけ。だけれども、今度は、そういう人たちが働く



昭和44年7月21日第12回北海道母親大会資料とフィナーレ
(札幌市市民会館)

場所というのが無いわけでしょう。そうすると、そういうことも考えるのが主婦会の役割ではないか、という風に思うわけ。そういうことをやっていくためには、何かの組織を作らなければならないということから、作ってきたわけですから。昭和 29 年の 9 月に全国の炭婦協(日本炭鉱主婦協議会)も出来ましたしね⁴⁸。

それで、北海道の炭婦協の会長と全国の会長の両方をやっていたんですから。その当時、北海道炭婦協は 45,000 名の会員⁴⁹ですよ。それから、全国では、13 万かな、どうでしたっけ？私、忘れちゃったよ⁵⁰。

そのくらいの会員の規模だったので、私は、しょっちゅう家にいないわけですよ。お父さん(夫)がかわいそうだったですけどもね。まあ、夫ほど、立派な労働者はいないと私は今でも感謝をしているのです。そのおかげで年金をもらって、私は食べているわけですからね。

でね、三池闘争には 3 か月も家に帰らなかったこともあるのです。あそこはね、やーさん軍(やくざ)が、さらしを巻いて、あいくち(七首)のんでね。それを阻止する闘争ですから。ものすごくて、久保清さん(三池労組員)という人が殺されましたけれどもね。それをね、そのやーさんから、労働組合の幹部を守る役が主婦会だから。守るっていっても、かくまうわけ。だから、目を離されな



昭和 32 年王子闘争オルグ (光子のアルバムの添え書きから)
注)札幌女性史研究会・王子製紙争議を語り継ぐ会の岸伸子氏からは昭和 33 年ではないかとの指摘もある。



昭和 35 年道炭婦協第 2 回指導者講習会で助言者



昭和 35 年安条条約反対の全国集会東京日比谷公園

いわけ。そんななかで、やってきているからね、北海道の昭和 29 年の日鋼室蘭の闘いだとかね、王子闘争なんていうのはね、みんな炭婦協が指導した、と言っていいくらいです。

■母親運動を広げるために

今日までは非常に後ろ向きの会長が、私たちと一緒に組んで、そして、山坂を登ったり、上がったりにしている間に、声が出るようになるもんです。組織ってそういうもんです。団結ってそういうもんなのです。だからね、あまり、何て言うかな、書いたものなんかではだめですね。書いたものもいいですよ、書いたものも当然、

⁴⁸ 正確には昭和 27 年 9 月 11 日である。初代会長は野仲ツマ、副会長は多嶋光子。

⁴⁹ 結成時 43,000 人。

⁵⁰ 全国炭婦協は昭和 27 年結成時 116 支部、84,300 人。

いいのだけれども、そうではなく、一緒に手を組んで活動するということが大事ですね。だから、母親(運動)なんかの場合には、そういう面で、私は初心に帰るべきだと今は思っているの。と、いうのはね、今、岡さんがね、二人を連れて来たと言いますね。この人は新婦人の会員ではないのだと思うのです。ないですね？

(出席者から「会員にしたのです」という声)

あ、会員にしたの？これが必要なんです、ここが。最近、私は会長にもあまり聞いていませんので、よくわかりませんが、今の状況を見ますとね、会費からお金を出して会の人を連れていくということが、とても多いような気がするんですよ。そうではなくて、昔はね、自分達が街頭に出て、「母親大会が始まりますよ、みなさん、行きたい人いませんか、あるいは行っていただきたいと思う人はいませんか」と、そういう状態のなかで、自分達がお金を作って、周囲をみて、あの人ならば行ってくれるのでないか、という人を連れて来たんです。これが広がりということです。今、話を聞いていると、まあ、そんなに多くはないけれど、お金はあるのだけれど、行ってくれるという人がいない、ということが多いんだよね。これはだめだよ。後ろ向きだと。やはり、自分と、この会員になっている人は、ある程度の意識的発展というものはあるわけですから。だから、新婦人が新婦人のお金で出すということよりも、新婦人が集めた金で、その周辺に、まだわからない人達がうんとこさ(たくさん)いるわけだから、そういう人たちをどうやってお連れするのかっていうのも、大きな発展の維持になるという風に思うんですね。

■共産党への支持について

それと、もうひとつ、私は、今は、正直に言って共産党支持です。共産党をずっと支持してきております。社会党をやめてから共産党支持になっていますが、しかし、共産党以外の人たちが、まだ、うんとこさ(たくさん)いるわけでしょう。今度の躍進は、素晴らしい躍進はしているけれども、まだ、そういった人たち(共産党支持ではない人たち)がいるわけです。私は、そういう人にたいしても、あの人にはだめだと考えないことにしているんです。だめなことではないのです。ただ、それを発掘出来ない私たちの方がどうするべきか、ということを考えなければならないと思うんですね。だから、私はあまり、どこの政党に所属しているから、いや、あの人には、とは思いません。いや、嫌いな人はいますよ。もう、どこの人だって嫌いな人はいると思う。それは、いますが、何政党だからって(気にしない)。ただ、今、私の中にガイドラインの問題がでてきて、『赤旗』に少し載るようになってから、ああ、これは全土、日本国全土をアメリカの基地にすることだという風に感じたの。だから、陸も海も空もね、あるいは、空港だとか、船舶やなんかでもそうだしね。今、迷彩服で、どんどんときているわけでしょう。あれ、迷彩服にならすためですよ。だから、ものすごい、やっぱり戦争へのね、戦争に引きずり込む政策が今、やられているわけでしょう。

そして、経済的に見れば、人殺し政策ですもん、あんた、人殺し政策。私は、昨日の朝のテレビを見たのですが、その時にね、50歳以上の豊饒(かくしゃく)たる会社員だとかが多いのですけれど、31,040何人ですって、死んだのが。死んだのではない、自殺者ね。殺されているのですよ、みんな。我々だって、どんど

ん年をとって、わからなくなってしまうたりしたらね。だって、4 千円も 5 千円も年金から天引きされるわけでしょう。(月収が)7 万円や 10 万円の人、どうするの。死ななきゃなんないでしょう。すべて、人殺し政策ね。それを考えると、今や本当にね、土壇場なんですよ。母親(運動)の、がんばりどきなんですよ。

我々は「徴兵は命をもってはばむべし、母祖母おみな牢に満つとも」⁵¹って、かつて言ったのだから 51。ね。それが、今なのです。どういう風に、日本の国土を守るのか。日本の生命、人民の生命だとか、財産だとかを守るのか。今が正念場なんですよ。だから、本当にうかうかしてはいられない。見過ごしに出来ない問題が山積しているんですね。そうすると、闘いというのがね、やっぱり脳裏に浮かばないではいけないわけでしょう。私たちは自分を守らなければならないんですから。

母親運動というのは、他人(ひと)のためにやっているわけでないでしょう。今、運動をやっているのは、民主的な運動をやっているのは、全て、自分の幸せを作るためにやってんですから。よく、「他人(ひと)のために、よくやるね、多嶋さんも」⁵²って言うけれども、他人(ひと)のためじゃないんですよ。自分のためだからやっているのですよね。そして、自分が受けた、そういう安心感だとか、それから、おおらかな、なんちゅうか、心を持つとか、人におおらかな心でもって接するとか、そういうことは母親のなかで培われていくものが多いわけでしょう。そういうことがあるからこそ、母親運動をやっているわけですよ。金も貰わないでなんでやってんですか、あんた。ねえ。みんな、ばかだと思ってんでないか、と思うんだけど。いやあ、お金貰わなくて、何千万倍のお金が身体の中に入っているから、あんた。よその人はあそこまでいかないと思うよ、まだ。だから、それを誇りにしないとだめですよ。

■「わかりやすい」言葉で

私はね、言い方が荒っぽいからね、函館の人なんか、びっくりすんでないかと思うんだけどね。これが、私の本性なんですよ。あのね、私は、3 通りのものの言い方を知っています。お茶をやっていたからね、裏千家のお茶を長いこと、やっていたから。そういう人たちには、「あら、ごめんなさいね」⁵³って言ったりするけれどもね、そうでない人の前では、「何、やってんだい」とか、そういうことですから。そして、またね、普通の婦人会に行った時にね、こんな言葉を使ったら、そっぽを向かれるんですよ。そうすると、少し、お上品に声を改めましてね。3 通りね。これ、炭婦協でつちかわれたもんです。3 通りの言葉の使い分け。

それから、原稿を書いてくれてよく言われるんですがね。この間も言われたんですが、私の書く原稿は、難しい言葉を使っていないんです。辞書で調べないといけないような言葉は、カタカナで書くんですよ。(でも、)わかる言葉で書かなきゃだめだよ、難しい言葉、そりゃあ、えらい人はえらい言葉を知っていますよ。私だって、ある程度ね、何十年も母親(運動)をやっていたら(知っている)。今は、私は、書道の先生ですから、そういう意味では、漢字だって知っていますよ。だけれども、みんなにわかる言葉を使わなきゃだめ。それと、中堅くらいの人たちはみんな女学校を出ている人たちですよ。それ以下の人たちにもわからせていくためには、「搾取」を「ピンはね」⁵⁴言った方が早いのですよ。昔から使ってたもん、そうでしょう。私は、そういう気持ちだから、「あんたんとこに原稿は出さない」⁵⁵って、言ってんの。「直されるような原稿しか書けな

⁵¹ 「徴兵は命かけてもはばむべし、母祖母おみな牢に満つとも」(石井百代作 1978 年)

いのために、(カタカナを難しい言葉に直す)あんたんところには、原稿はおかない」と断わるの。今も、それはがんとして守っています。私は、なにもえらくなる必要は無いんだもん。けれど、えらい人のなかに入ったら、私が勉強できるわけ。それは、そうなのだよ。自分の「肥やし」にするためにね。悪いね、「肥やし」にするなんて言ったら。

■母親運動の今後に対して－原点回帰と後継者問題

だからね、さっき言ったようにね、今とっても、ここのご相談として大切なことは、やはり、もっと母親運動が市民の目に見える運動にならないのかな、ということ。初心に戻って、街頭に出てね、母親大会をうたえ、そして、自分たちが集めたお金で、周囲の、この人ならば、と思う人をお連れしたっていう、昔の、あれ(やりかた)ですよ。

今はまあ、お金があって、「行ってちょうだい」って言うと、行くのには楽ですよ。昔は汽車に乗ってね。上野に着いたら、後ろも前もわからないくらい真っ黒になっていたんですから。蒸気機関車の連結のところに乗ってね。上野に着いたら、真っ黒。みんな真っ黒な顔をしてたんだから。今は飛行機で、さあっと行くわけでしょう。だから、そういう意味でも、たくさんの人にまた、集まってもらったらいいんじゃないかと思うんです。

それからね、私は、やはりこれからは、子どもを大学生にね。大学にいかせるなんていうことは、やはり大変だと思うんだけど、私は、一時期、炭鉱でも子弟はみんな、大学にやれって、指導したことがあるんです。それが何故かというね、労働者っていうのは、本当に労働組合がいい組合で、正直に労働者に伝えていけばいいけれども、そういう労働組合ばかりではない時にはね、ものすごく悲惨な状況が起きるわけですよ。爆発事故だとか、崩落事故だとか、それからガス事故なんかが起きるわけでしょう。そして、何十人、何百人、450人も死んでいるのですからね、三池では。

そして、未だにね、子どもと同じようになってしまった状態の人がいるんですからね。母親に世話になって、子どもと一緒になくなってしまっただけでね。ガス中毒で(後遺症が残って)ね。そういう人がいるんですから。そうすると、やはり、私たちが子どもを大学にやるというのは、ただ大学にやって、いい会社に入って、いい会社でえらくするというのではなくて、誤魔化されない、騙されない人間をつくるためにやらなきゃだめだよって、私言っただけ。それで随分、炭鉱からでも大学に行く人がでたの。今では、(進学は)普通になっていますけれどもね。

それから、もうひとつ、役員の成り手がいないという問題がありますね。これをどうしたのか、ということです。これね、母親(運動)なんかでもそうだと思うのですが、あの人を役員にしたいという場合にはね、最初から直接、その人に言っただめですよ。「そんなこと、できないわ」と言いますから。できる自信があっても、「できないわ」なんて、言う人もいますからね。だから、そうではなくて、おじいちゃん、おばあちゃんがいる人、あるいは子どもがいる人に(言うのです)。そうするとね、先に子どもに「お母さんに会長さんになって欲しいと思ってんだけどね、あんた、どう思う？」と言うの。すると「まだ、僕、そんなの考えたことないもな」なんて言いますよね。そうしたら、今度は、おばあちゃん、おじいちゃんに言うわけ、「あんたんところのお嫁さん、優秀だからね、みんな推薦したいって言うんだけど。子どもさんも承知してくれているよ」って。そこでは、ちょっとね、子どもさんも承知したいみたいに言ってしまっただけ。そうするとね、おばあちゃんも「そうですか、そ

うしたら、私が家のことをすればいいんですか」って、こうなってくるわけでしょう。そうやってね、子どもとおじいちゃん、おばあちゃんを説得すれば、旦那はいいと言うんですよ。嫌だとは言わないです。それから、本人を攻めればいいんだから。もう、これはね、私の特徴だったんですよ。

■炭鉱でのユニークな発想

まあね、そういう面白いことがいっぱいあるんですよ。炭鉱の人たちはみんな純朴な人たちだからね。旦那を送り出すのにも「行って来いよ、怪我すんなよ(するなよ)」って言うことが多いんですよ。だから、私ね、「あんたね、旦那になんぼね、まあ、好きで一緒になったからって言ったってね、行って来いよ、怪我すんなよ、だけじゃかわいそうだよ」と。「弁当持って横に座って、行って来るぞって旦那が言ったら、いってらっしゃい、元気で帰っておいでって言いなさい」と言ったの。そうしたら、ちゃんと言ったのがいるのだよ。豊里の樺沢っていう(参加者から／知っている、知っている、の声)、知っているでしょう。あの人ね、「そうだなあ、会長がそう言ったからと、やってみたらね、かえって損こいた」と、言うのです。どうしたのと聞いたら、言った通りに、弁当箱を持ってね、旦那が地下足袋を履こうとしていたの。そうしてね、ここに弁当をこう持って、後ろに座ってね、私が「手をついてね、行ってらっしゃいくらい言いなさい」と、言ったものだから、旦那が行って来るぞって言ったあと、「行ってらっしゃい、どうぞ、早くお帰り下さい」って言ったのです。ああ、会長の言った通りに言えて良かったなと思っていたら、30分くらいしたら、旦那が戻って来たんだと、だから、「どしたっ」って聞いたらね、「俺、何十年連れ添って、お前に行ってらっしゃい、早く帰ってねって、言われたことないのにね、今朝言われたからね、ひよっとすると事故でも起こすんでないかと思って帰って来た」って。「もう、一日分、損した」とね。そういうことなども、まあ、話せばいろいろあるんだけれどもね。

私は、炭鉱では、まだまだ、ものすごく面白いことをどんどんやったの。うん。例えば、今日は、自分が出かけにくかったけれども、明日は出かけやすく、旦那に素直に出してもらうためにはどうするのか、とかね。これ、教えますから。あのね、旦那はね、3時くらいまでかかるよっていう風に言うと、3時を目標にして火を焚かないで待っている親父さんがいるようになるの。帰って来たらやらせよう、帰って来たらやらせようね。そういう時に、5時までかかりますよと言っておいて、3時に帰ってくんですよ。これがコツなのよ。そうしてね「いやあ、もうね、お父ちゃんや子どもの顔がちらついて、早めに帰って来たんだ」と言うのです。これは嬉しいですよ、旦那にとって。俺達のことをいつも忘れていないとね。あなた方の旦那で浮気する旦那がいるのは、そういうところをちゃんとしなきゃ、だめですよ。やはり、あなたのことや子どものことを忘れないでいる、いつもそういう妻でいなければ、だめですよ。それが妻の優しさ、というもんじゃないですか。どこかへ行ったら、手紙でも出す。ね、これがまたね、炭鉱の中では効いたのさ。旦那もうれしいし、ねえ。

だからね、ユニークな発想をうんと炭鉱でしたの。そこらへんが私の持ち味でないかな。だから、今だってね、好きな男の人がいますよ。そりゃあ、あんた、なに、義隆(夫)だけがよかったわけではないしね。ああ、あの人、もっと早く生まれていたら結婚したかったな、なんて、惚れている男の人なんているよ。私、率直に言っちゃうの。「あんたに私、惚れてんだ」って。それなのに、相手が本気にしないんだよね。「なに、また、多嶋のばばあ」って。みんなに言うから、「あんた、好きだわ、あんたに惚れているわ」なんて言うからね。本気にしないのだから、私だけはね、男性の影はついてまわらなかったのです。これはね、絶対にそ

ういう評判のなかった人間です。私は、私には魅力がないのかと、若者に聞いたの。そうしたらね「いや、いや、あんな女にちょっとちょっかい、かけてみるかなと思って考えた人がいたとしても、ものすごい肘鉄くうのがおっかない(怖い)から、よう言わんわ」と、言った人がいる。だから、男の影は一切ないです。

これもまたね、会の結束にはものすごく、何て言うんですか、感情のなかに左右する問題ですよ。だから、今ね、旦那が浮気したなら、私もする、なんて女の人がいるけれど、もってのほかですよ。子どものことを考えないといけないですよ。親父なんか、いくのならいっちゃってもいいのだから。子どもをどうするのか、でしょう。だからね、やはり、男女の関係というのを、しっかりともっていきなきゃだめですね。でね、(女性が浮気をするという話は)あまり聞かないものね、私たちの周囲のなかでは。だから、そういう点ではしっかりしているのだろうという風に思うんだけど。

■炭鉱主婦会

私が選ばれたのは、とにかく、昭和 24 年にはもう、炭鉱の主婦会は出来ていましたからね。空知だったんですけども、そこで、お父さんのストライキを支えて、そして、どんどん、どんどん、組合の要求を主婦会の要求にしてね。畳を取り替えてとか、石炭を安くしろとか、ストーブを、あれ、ルンペンストーブを使っていましたから、ルンペンストーブ。これは、厚生問題の闘いだったんですね。そして、また、炭鉱の鉱夫の人たちに温かいものを食べさせたいと言って、真っ黒い顔で坑内から電車で上がって来る人たちに、抗口で温かいどんのサービスをしたり、いろいろなことをやったりしました。それから、炭鉱では、友子制度があり、旦那が死んでも奥さんを助けたりする集まりがあったのです。

それで、その友子制度からだんだん、だんだん、子ども産んだ時にいくらやらないといけないだとか、死んだ時にどうするとかっていうのを、生活改善運動として、やったわけです。だから、産まれたとき(出産時)には 300 円とか、死んだとき(死亡時)には 300 円とかって、とにかく 300 円均一みたいにしてね。それから(小学)1年生に上がる時にはお祝いをわたす。でも、もう、中学校や大学に行く時にはわたさなくていいと。そういうような制度など、みんなでやったりしてね。それがまた、うけたということもひとつありますね。だから、労働組合が生まれたと同時に、急速に主婦会が出来てきたのです。お父さんの家庭を守る一番の権利は、ストでしょう？ストライキがうてるということでしょう？そのストライキをうつためにはね、お母さんのほうには、お金は入らないわけですから。そうすると、お母さんもストライキに協力しなければ、私たちは食べていけないわけでしょう。だから、お母さんは、「お母さん」でやるというわけでなくて、夫の闘いを支持する、「車の両輪」という言葉が、当時うまれたのです。私はその「車の両輪」というのは、少し抵抗があったのですが、まあ、それはそれなりでやったのですけれどもね。

「車の両輪」でいる間は、炭鉱が無くなれば、主婦会も無くなるわけですよ。私は、それに反発したの。組合がなくなっただけで、主婦の団結があれば主婦会だけ残してもいいんじゃない。なんで、「旗」を焼くんだって。私、ものすごく抵抗をしたのです。「旗」っていうのは、炭鉱労働者の「しるし」だからね。それを、みんな、焼いちゃうの。主婦会も真似して、みんな焼いちゃって、まあ、あれには随分、抵抗をしたんだけどね。

■世界母親大会への参加

そういうこともあったりして、そこで目覚ましく、私のほら、「あねごぶり」が目覚ましかったんでしょ。女で、そんなに目覚ましい「あなごぶり」発揮するところが、あまりいなかったからね。それで、婦団連(日本婦人団体連合会)が...ほら、婦団連じゃないのですよ。あとから聞いたら、ぎよっとなったけれどもね。これは言ってもいいかな? 言わないほうがいいかな?(参加者から「言っいいよ」の声)言っいいかい? あのね、私は小笠原(貞子)さんが推薦したと思っていたの。私は、小笠原さんとずっと、炭鉱(やま)を歩いたんですよ。それこそ、一反風呂敷を背負って、物を売りながら、小笠原さんが随分、私と仲良く歩いたのです。そうしたらね、結局、やはりね、そこにはね、党の影があったのだね。党が指導したのではないの。うん。それで指導されたんだよ、私。あとから、それを聞いたの。私は、「小笠原さん」を支持したのです。そうしたら、あれは、なかなか喧嘩もやるし、きかないし、意地っ張りだし、強情張り、だからね(参加者から「正義感もある」の声)、攻略しようってことだったのではないですか。だけど、私、ありがたいな、と思ったの。そんな時にね、私の資質の目を留めてくれたというのは、共産党、えらいなって思ったのだから。いや、本当に。共産党の名前を出して、悪いけどさ。だけどね、私は、どこに所属したって人を差別しないのだから。自民党の人とも仲良くして、こちらに引き入れるのが運動ではないですか。運動って、私たちがやっている運動って、そういう運動ではないですか。自分だけがそうならばいいのいではなくて、みんなも自分たちの仲間に入って、団結が深くなれば、いいんでないですか。

そういうこともあってね、それで行くようになったのです。さあ、炭鉱の労働者が海外に、あなた、あれでしょう。34 歳だもの。34 歳で、あなた、洋行でしょう。当時はね、えらい人しか洋行をしなかったんです。外国へ行くなんて言ったらね、とんでもないえらい人の奥さんが行くわけだから。えらい人の奥さんでない、えらい人が行くわけですから。だから、平塚らいてうさんとかね、ああいうえらい人が行くのでね。炭鉱の「おっかちゃん」と言われている人間がね、もう、『朝日』の、「時の人」ですよ。



昭和 30 年世界母親大会
人生最大の意義をもたらしてくれた

(中略 テープ音声なし)

毎日のように、「炭鉱の母ちゃん洋行、炭鉱の母ちゃん洋行」って(書かれて)。そして、向こうに渡ってからも、「着物、モスクワに行く」なんてね。そして、私は、そこに行くまで、まだ社会党なのですから。それで、「嫌だ、嫌だ、嫌だ、嫌だ」と言っていたの。昔ね、海外に行くというと、すごく遠いところに行くと思っているわけ。だから、ちゃんと帰って来て、親の死に目に会えるのかなって、本当に正直に心配したのですよ。それで、親戚が集まってね、いや、そういうことになったのだから、しょうがないから行けど、あとは、俺たちがみてやるからって、そういう約束を貰ったりしてね。

実は、私が行きたくない理由が三つくらいあったのです。まず、帰って来たら「アカ」と言われるということ

ですよね。あれ、「アカ」くなって洗脳されて来たって。小笠原さんがソビエトを周って、中国へ回ってね、ヘルシンキから帰ってきたら、あれ、洗脳されたって言ったんだから。

それで、小笠原さんが言うことを、労働組合から聞いて、私のなかでは、「ああ、なるほどな、お腹に赤ちゃんが入ったら、牛乳を赤ちゃんの分ももらえる、そんな国があるわけないよ」ということだよ。労働組合の言うのは本当だな。これが本当なのかどうなのか、私の目で確かめて来る、ということになったの。行く役割のなかのひとつに、自分の目で確かめて来る、ということが入ったの。

それからね、もうひとつはね、労働者が、もう中国ではね、建設が盛んで、若い婦人なんかも、工場長と言われて出てくるのが、みんな姉ちゃんなのだよ。それには私もびっくりしました。でね、そういうことが段々、わかってきて、小笠原さんの言っていることが本当だったのだと、わかってきた。あそこで変わってしまっちゃったんですよ、私。正直に言って。

あのね、手をつないで、そして、私が日本の文章を読みあげ、報告をしましたね。その時には、まだね。あ、私の報告したのは、みんなが作文を作ったわけだから、それを私が読みました。河崎さん⁵²が、「お前ね、多嶋はね、声が大きいいし、度胸がいいから、お前やれ」ってなもんだったんだから。それで、一番若いのですが、私がやることになりました。そのあとに、また大変だったですけれどもね。なんで、多嶋にやらせなきゃならないのだ、という人がいたりしてね。けれども、河崎さんも、ものすごく私のことをかってくれて、行くところ、行くところで、挨拶をするのはいつも、私なのですね。そのようなこともあって、かわいがられて、ありがたかったのですけれども。

そうやって、中国へ行ったでしょう。姉ちゃんが、何だかの工場長ですって出て来るわけでしょう。紡績の工場長だとか、小学校の校長ですとかね。まあ、若いのがものすごく、何て言うの、こういう言葉も忘れちゃうのだよね...建設のなかで働いているわけ。こんな若いのが工場長で、これ、みんなはこの人の言うことを聞くのだからと思ったりしてね、ばかだからね。

「赤い血が流れる、赤の広場」というのが、ロシアにあるのです。ゲーペーウー⁵³というのが、ああいう秘密警察があって、こちらにいた時には、いつも人が処刑されて、血の海になっているなんて話を聞いているんだから、よし、赤い血がどういう風に流れているのか、見なきゃならない。そういうバカみたいな認識でいったわけでしょう。実際に行って、みんなの話を聞いたら、本当に楽園でしたものね。大学生なんかね、恋愛して、結婚してね、大学のなかで結婚生活するんだからね。お金はひとつも要らないのだから。そこで、子どもも産むわけだから。もう、あれを見た時に、ああ、小笠原さんが言ったのは、やはり嘘ではなかった。これは、「アカ」だとか、あそこに行って来たなら、「アカ」だとか。

それから、私がね、「アカ」だと言われるから、招待を受けた時には断ったのです。私は行かないと。帰ったら「アカ」だと言われるから、行かないと。そう言ったら、「そんなこと言ったって、あんた、しゃべれるの？ 帰るのに。」と言われて、ああ、私は英語がわからないのだから。そうしたら、行く以外に方法がない、と思っただけだから、あんた。こんなばかが行ったのだから。

⁵² 河崎なつさん。世界母親大会への日本代表の団長。

⁵³ GPU (Gosudarstvennoye politicheskoye upravlenie)

それでね、そこで見せつけられて、なるほど、問題は一見にしかず⁵⁴だということがわかって。あの当時の毛沢東のやり方が、またよかったものね。毛沢東みたいな人が日本の共産党の親玉だったら、今でも入りたくなっただけ、私。そこでね、初めて、共産党に目が向いたの。だからね、あそこで「原爆許すまじ」の歌を歌った時にはね、みんなの団結のなかで、自分の果たした役割の安堵感でもって、涙が流れたけども、思想は変わっていないのさ。思想は元のまま。しかし、あその、ああいう共産党だという国の政策を見て、あそこで変わったんだよ、私は。もうね、毎日、泣いていた。自分のやってきたことが、みんなに申し訳なくてね。炭鉱の人たちにあんな強いことを言ってね。「この、クソバカ」だとか、いろいろな言葉を使って言っただけでもね、いやあ、悪かったなと。その悔悟の涙が毎日。河崎さんも心配して「お前、なんで、そうやって、朝になったら目をはらして泣くんだ」と言ったくらいだから。いや、本当にそういうのが行ったんだから、新鮮に受けとめられたことも事実なんだわ。もののわからないのが行って、それが見せつけられて、初めてね。もう、新鮮に受けとめたわけさ。ということで、行ったことで、私が変わったさ、そこで。

それで、続いた、と言えね、(母親運動を)3年くらいやったらいいのだろうと思ったのが、だんだん、だんだん、やはり、これをやらなきゃ、私も幸せにならないんだと。1人の幸せを望んで、みんなの幸せの犠牲の上に私の幸せがあってはならないのだと。みんなが幸せにならないければ、私も幸せにならないんだということがわかって、それからですよ、愛情がわいてきちゃってね。母親(運動)の悪口いうもんなら、「何言っただ」ちゅうもんだよね。いや、それで、喧嘩はしなくなったんだよ。喧嘩はそこではしなくなった。だから、精神的には非常にいい精神状態で、そのあとの母親運動は出来たんですけどもね。そういうことです。

だからね、あまりその、なんちゅうの、私にもっと教養があったら、今みたいな私にはならなかったね。素朴でね、素直に問題をなんちゅうか、見つめられたというところが、私の良さじゃないかしらね。それだけです。あとはまた、みんなに教わったなかで今の私が出来たと。ただ、今でも私は申し訳ないな、と思うのは、会うとみんなね「ああ、うれしい、多嶋さんの大きな声を聞いたらね、元気が出るから」なんて言ってくれたり、地域のなかでもね「あんたの声を聞けば元気が出るから、話を聞かせてくれ」って言ってくれたりするのだけれどもね、私はやはり、若い人に伸びてもらいたいという気持ちがものすごくあるのです。だから、開会の挨拶なんか私を使わないで若い人にさせなさいと思っています。いくらでも大きい声が出る人はいるんだから。ただね、大きな会場になると、始めに挨拶した人のトーンで流れるんですよ。ね。だから、低い声でやっちゃうと、低い流れになっちゃうのです。それでね、多嶋の声でないとだめだってことになる。

私は、歌が上手いからね、まだ。今、帰りにね、もう毎度、毎度、運転手に歌を歌って聞かせるの。だってね、「おばあちゃん、なにをやっている人だい？いい声だ」って。そうしてね「言うことが説得力あるね、口調がはっきりしていて、すごいね」って、言うんだわ。「あんた、おばあちゃんってのは、差別語だよ」って私は言うの。私を「おばあちゃん」って呼べるのは孫しかいないのだよ。何で、「お客さん」とか、「お母さん」とか言わんの？って。そうしたら、「いや、いや、ごめん、ごめん」とかって。また、乗る車の運転手が、よく話を聞いてくれたりなんかして、「いやあ、今日は勉強させてもらった」と言ってくれたり。私は子どもの性教育までしゃべるからね。運転してもらってね。そうしたら、「いい声だね」「そりゃ、いい声だよ、あんた、78歳に

⁵⁴ 百聞は一見にしかずの意味。

なったって、これくらいの声出るのだよ」「えっ、78歳かい」と、私のほうを振り返ってね。そして、「歌を歌ってやるか、いいってかい、いや、あんた、うっとりするぞ」って、歌ってやるんだよね。そうしたら、運賃の1,540円は要らないときたものね。だから、その時、私は言うの、「あんたね、私は乗せてくれて、ありがとうだから、あんたにサービスのつもりで、歌ってあげた。あんたは乗ってくれて、ありがとうでしょう。この感謝の気持ちがあれば、誰でも仲良くなれるのにな」って言って、「私は労働者の家庭に生まれているから、労働者のあんたも、働く人が一番えらいんだよ。労働者っていうのは一番えらいんだよ、労働者、農民、本当にえらいんだよ。国で一番えらいのだから」と言ってね。そして、「そのあんたが労働賃金である1,540円をね、いい声だったからって私にくれるっていうけれど、あんた、それはね、自分の労働力を安売りすることになるんだよ」と、「なんで、もうちょっと欲しいくらい顔しない」と言いました。(参加者から/変わったお客さんだって言われた)うん。だからね、変わったお客さんなんだよ。だからね「そんなものね、1,540円といえども、あんたのうちの夕食の何分の一かには、なるはずだから、そんなもの、簡単にやるなんて言うな」と言って、1,600円払ってやるの。いや、いや、気分いいからさ。そういう毎日を今過ごしているということなのです。はい。

■多嶋さんによる歌

♪「わんあつたえる かっぺのよに、うまれるまえのおまえをはらに たえてつたつ、おっかあのせなにきょうもあさひにてる まきやぐら/おとうおもちびでおっかあもちびだ、うまれるおまえもちびでもよいが すみにまみれりゃ このやまいちのやまのおとこのいのちをつげよ/じいいはきりはに いのちをうめた おとうはろうやでたたかっている おまえもげんきで おっかあのはらをけりけりそだって やまのあとつぎ」♪拍手

いい歌でしょう。これ、歌うと鬨が彷彿になって、もう自分も泣きながら歌ったりすんですけどね。今度は粋なの。三池行ってね、そして、料亭に連れてかれてね、私がソーラン節、芸者に教えてね。そしてね、芸者から習ってきたの。粋な歌なんだから。ね。ちょっと一服飲みながら。鬨いに目くじらかけて、癩癩持ちみたいに鬨いたらだめですよ。余裕、たっぷりに。その代り、鬨いをする前には情勢をちゃんと学習して、何て言うの、あと、あと(後手、後手)になるような、鬨いはだめですね。先、先(先手、先手)で。

♪「はかたなまりの おなごのそばで きったたんかもきがいらぬ どうせこんやでおさらばさらば あすはもくずか このからだ/ふねを だすなら ひなたにおだし(合いの手:いいぞ)とかくよふけは いのちがけ こばんまくらに ながさきさつま けぞりきゅうまの こえがする(たたたん)」♪拍手

録音終了

(参考)

●炭鉱(やま)の子 【作詞】花田 克巳 【作曲】玉置 としお⁵⁵

1. 盤圧耐えるカッペのように あばれる前のお前を腹に
耐えて突っ立つおっ母の背中 今日も朝陽に輝(て)る捲やぐら
2. じじいは切羽に生命を埋めた お父うは牢屋で闘っている
お前は元気でおっ母の腹を 蹴りけり育て炭鉱(やま)のあとつぎ
3. お父うもチビでおっ母もチビだ 生まれるお前もチビでもよいが
石炭(すみ)にまみれりゃこの炭鉱(やま)一の 炭鉱(やま)の男の生命をつげよ

⁵⁵ 俊夫、利雄など漢字表記がいくつかあり

2.3 多嶋光子氏の講演についての論点

西城戸誠

多嶋光子氏の2つの講演とは、1987年の講演が札幌市女性史研究会における講演、1999年が北海道母親大会における講演であるため、聞き手の性格が若干異なっており、後者は母親大会の話が中心となっている。筆者自身は多嶋光子氏と直接、面会したこともないため、すべて2次資料からの判断となるが、以下、2つの講演内容に関して、ポイントになる論点を指摘しながら、適宜、補足の説明をしていきたい。

第一に、1987年の講演では、多嶋光子氏の生い立ちから講演当時における現状の生活に関して、さまざまなエピソードが語られ、多嶋氏の人柄もうかがい知ることができる。炭鉱主婦会や炭婦協の文献、聞き取り調査からは見いだすことが難しい、多嶋氏が炭婦協を離れた後の、書道や茶道の活動なども語られている。

筆者らによる、北海道内の炭鉱主婦会メンバーへの聞き取り調査の中でも、多嶋氏に対する評価は「すごい人」「スターであった」「話に説得力がある」「歌がうまい」といったものであり、また、太平洋炭鉱主婦会の機関誌である『母のうぶごえ』の中にも、数多くの主婦会の会員から、多嶋氏への賞賛の書かれている。

戦後の北海道と釧路市の婦人会に関する記録をまとめた鈴木(1994)は、太平洋炭鉱主婦会の会長であった荒木博子の述懐から、多嶋氏について次のようにまとめている。

「多嶋⁵⁶光子は、強力なリーダーシップを発揮した女性で、その後の炭婦協の力そのものであった。「何処に出かけても臆せず、多嶋さんは堂々と自説を吐いた」と荒木博子の述懐にも現れているが、これは、いままで無かった主婦の姿であり、まだ、その緒についたばかりの組合運動や、婦人会活動の歴史のなかで、群を抜く存在であったことを物語っている。「力強い味方と思った。あのような理論家は、まだ炭鉱(やま)にはいなかった」と荒木博子の多嶋評だ。

多嶋の話には説得力があり、相手はしばしば沈黙させられたという。主婦の集いだけに何といっても生活が優先するが、多嶋は生活より組織を優先させた、と思われるほど、主婦会の活動には熱心であったし、組織とは何か、どのように運営していくのかなどを教えた。」(鈴木,1994:12-13)。

多嶋氏の組織論については後述するとして、多嶋氏のこうした性格(講演では「姉御」と述べている)は、スイスで開かれた世界母親大会の時にも遺憾なく発揮され、先輩格の参加者に対して論陣を張ったとされる(鈴木, 1994: 13)。さらに講演の中では、会社と対峙したいくつかのエピソードが語られている。そして、この「姉御」的な性格の出自は、本人の性格や、労働者生活の中で培われてきたと2つの講演で多嶋氏本人が述べているが、まさにそこに尽きるといえるだろう。

「この度胸はね、やるぞ、と言ったら、度胸が据わるのだから、これだけは、私の天性のものです。労働者魂な

⁵⁶ 本文ママ、以下同様。

のです。うん。そこらへんのね、インテリゲンチァの精神ではないんですよ。労働者魂がね、腹のなかにすわっているから、その根本がずっと運動のなかで生きてきているんですね。(1999年講演)。

第二に、多嶋光子氏は、炭鉱主婦会、炭婦協、母親運動など、さまざまな運動、組織において、会長や実行委員長を経験しているが、そこから培われた多嶋氏の組織論が理解できる。

太平洋炭鉱主婦会は、1945(昭和20)年11月に結成された太平洋炭鉱労働組合において、青年婦人の組織が必要だという動きの中で始まった。具体的には、青年婦人の「勉強しよう」という動きと、労働組合結成以来の「米よこせ」運動を通じて、1946(昭和21)年3月に労働組合青年部が誕生した。その後、働く婦人と主婦との要求が異なる中、主婦は主婦だけで会を作るべきだという機運が高まった⁵⁷。初代会長(婦人部長)・畑佐スギ氏の証言⁵⁸にあるように、当時は、主婦会の役員も会社の労務の人が選び、婦人部の活動はわからなかったという。だが、1947(昭和22)年から、「太平洋炭鉱主婦会ははっきり主婦だけの活動」となったという記述⁵⁹があるが、婦人部と主婦会が分離し、太平洋炭鉱主婦会は47年10月に結成された。嶋津(1964:705)によれば、労組の学習指導が結成動機となって、全員参加し、約2500名で組織された。

多嶋氏は、太平洋炭鉱主婦会の会長になった1951(昭和26)年には、主婦会の会計を明瞭にし、その後の主婦会の組織体制の基礎を築いた⁶⁰ことも、講演の中で指摘されている。また、上述したように、多嶋氏はかねてからリーダーシップを持っていたが、炭鉱主婦会や炭婦協の会長の経験を通じて、独特の組織論を築いていった。1987年講演では、会長といった人の上に就く役職者にとって重要なことは、「金銭に汚くない、艶聞がないこと、さらに皆を仲良くさせて自分で孤独を守る」といったことだと語っている。また、1999年講演では、「会長」としての責任を持つべきである、「あの人はだめだ、この人はだめだ」と批判はしてはいけない、組織の人数にこだわるのではなく、本当に運動をどうしていくべきか話し合える場を作ることが重要であるとも指摘している。さらに「わかりやすい言葉」で相手に伝える、役員のなり手がいない場合は本人に頼まずに、周囲の人(おじいちゃん、おばあちゃんや子ども)から伝えるなど、現場感覚と経験に基づいた組織運営のノウハウを持っていることも理解できるだろう。そして、これらの組織論は、炭鉱主婦会、日本炭鉱主婦協議会、母親大会など、その後、多嶋氏がリーダーを務める組織で一貫して発揮されたのである。

第三に、多嶋氏が戦中に国防婦人会に入り、知事表彰も受けた経験があり、人前での挨拶や、主婦会の運営の方法などは、これらの国防婦人会時代の経験も影響していることが理解できる。この点は国防婦人会と炭鉱主婦会、炭婦協の政治的性格の違いを考えると、一見奇妙に思われるかもしれない。だが、嶋津(1964:694)は、戦後直後の炭鉱主婦の動きを組織の面から見ると、戦時中、国家主導で作られた国防婦

⁵⁷ 『母のうぶごえ』26号、1968年、6-8頁。

⁵⁸ 「創立から10年間 歴史を語る」における証言(『母のうぶごえ』26号、1968年、24頁)。

⁵⁹ 『母のうぶごえ』26号、1968年、6-8頁。

⁶⁰ 『母のうぶごえ』26号、1968年、25-26頁による、多嶋光子氏の証言。なお、太平洋炭鉱主婦会の規約は、1950(昭和25)年に作られている。1951年から多嶋光子氏は太平洋炭鉱主婦会の会長となるが、それは規約に基づいた運営のスタートといえる。

人会や愛国婦人会を解散、発展させて、婦人会や主婦会を作った場合と、主婦独自の主婦会を自発的に作った場合、労働組合婦人部に労働婦人と家庭婦人が加盟している場合や、両者 2 つの組織がある場合など、それぞれの炭鉱によって異なると指摘する。太平洋炭鉱主婦会は、労働組合の青年婦人部からスタートしたが、主婦会のメンバーを個別に見ていくと、戦前、戦中の「上から」の組織に関連した人々が、関わっていることが示唆される。また、千野(1984:123)は「戦後結成された(特に農村の)地域婦人会は、「民主的団体」と呼ばれたものの、その内実は、戦前ほどの強制力こそもたなかったにしても、市町村行政区域を基盤に既婚婦人一戸一戸加入を原則とする、地縁的網羅組織にならざるを得なかった」と指摘する。地域組織と労働組合は性格が異なるものの、組織の成員レベルで見ると、多嶋氏が典型のように、戦前の「上から」の組織のリーダーが、戦後の主婦会や地域組織のリーダーを務めることは、希なことではない。

しかしながら、強調しなければならない点は、多嶋氏は、戦前の旧態依然とした保守的な価値観はもっていなかったということである。2 つの講演の中でも随所で、母親運動や平和運動の重要性を語っている。また、太平洋炭鉱主婦会 10 周年記念に寄せた手記には、敗戦後の日本の民主化によって、不平等が平等となり、労働組合の結成、婦人参政権を認め、思想の自由と民主教育の機会均等を精神とした日本国憲法の制定を重視し、主婦会を通して生活を守り、子どもたちを幸せにし、婦人の地位向上を目指した活動を行ってきたと記されている。そして、戦後 10 年が経ち、上記の憲法の理念とはほど遠い政治の状況について、さまざまな問題点を指摘した上で、炭鉱主婦会の活動理念を述べている⁶¹。したがって、多嶋氏の戦前、戦中の組織での活動は、組織運営のノウハウを掴んだということに尽きるかもしれない。

第四に、多嶋氏と労働組合・炭労との関連についてである。「組合と主婦会は車の両輪」というフレーズは、炭鉱主婦会や炭婦協の中でよく聞かれるものであり⁶²、実際に多くの炭鉱主婦会は、労働組合の指示に従い、全国規模の闘争や、国政、地方議会の選挙運動(「平和闘争」と表現される)に動員されていた。それは、長期化するストライキを生活面から支えることや、選挙の際の家族票の確保という観点から、炭労(日本炭鉱労働組合)は、主婦会に対して家族ぐるみの結束を求める「ぐるみ闘争」を行ったためである。また、1953(昭和28)年における太平洋炭鉱の企業整備(人員削減)反対闘争において、太平洋炭鉱主婦会の力が広く認知されるようになった。具体的には、この企業整備に反対すると首が切られるという空気が根強くあり、主婦会の支部長が地区の闘争委員になった場合、その夫は「お前がそんな事をやると、俺の首が危ないから斗争(原文ママ)委員をやめてしまえ」と言われたりしたという。その中で、率先して抗議デモに参加したのが太平洋炭鉱主婦会の組合員であった。こうした主婦会の努力は、企業整備闘争を全山のものにすると評価され、「主婦の力を抜きにしてすべての闘いをくむことはできない」と、その後の労働運動に影響を与えたとされている⁶³。

だが、講演録を見ると、多嶋氏は上述した組織論にも関連するが、「車の両輪」というフレーズに対して、

⁶¹ 「十週年(本文ママ)記念に想う」『母のうぶごえ』9号(1957年12月)、4-6頁。

⁶² ただし、札幌女性史研究会・王子製紙争議を語りつぐ会の岸伸子氏から「車の両輪」にたとえる労組と主婦会は、王子主婦連、王子争議では見られない表現」という指摘を受けた(2015年4月15日)。

⁶³ 『母のうぶごえ』26号(1968年3月)、11-13頁。『労働組合史：創立十周年記念』(太平洋炭鉱労働組合(編)、1955年、247-248頁)

あまり良い印象を持っていないようである。「労働組合がなくなっても、主婦会は会費を集めているし、主婦の団結があれば主婦会は残してもいいのではないか」という、やや方便じみた表現がなされている。確かに、太平洋炭鉱主婦会に限らず、炭鉱主婦会は労働組合とは別に独自の活動を実施し、会社や労働組合に対して独自の要求をしたりすることもあり、必ずしも労働組合に従属しているわけではない。

だがその一方で、多嶋氏は徐々に労働組合の運動のやり方に対して不信感を持つようになっていく。例えば、1987年の講演では、労使交渉が東京で行われるようになったことで、組合は会社側から交通費や飲食費をもらって交渉を行い、そして形式的な交渉をし、「暁の妥結」といった朝方には労使交渉がまとまることに対する怒りも指摘されている。このエピソードが具体的にどの闘争を指しているのかは明確に語られていないが、多嶋氏が太平洋炭鉱主婦会の会長であった1961(昭和36)年には、大規模な合理化反対闘争があった。会社は希望退職者を募集、坑外職場(病院、売店、営繕、自動車車庫、映画館、浴場、和洋裁学院)の分離による、サービス部門の切り捨て、職場規律の確立や時差入坑の合理化などを提案し、労働組合、主婦会は激しく反対し、主婦会 1300人は組合前で集会を開き、鉱業所へデモ、抗議文を渡した。だが、山元で激しい抗議活動が展開されている中、東京において労使のトップによってこの闘争は妥結されることとなった。この結果、労働組合幹部に対する不信感が急速に高まった⁶⁴。後述するように、多嶋氏は、共産党を支持するようになったことも関連していると思われるが、労働組合の運動の手法に対して批判的であり、それゆえ、「車の両輪」という表現自体にも一確かに炭鉱主婦会と労働組合は共に活動をしてきたのであるが一、やや抵抗があったのだと考えられるだろう。

第五に、多嶋氏や炭鉱主婦会と「政治」との関係についてであるが、炭鉱主婦会から地方議会に議員を送り出す活動があった。女性の社会進出という意味もあり、さまざまな炭鉱主婦会で地方議員が誕生した。昭和47年3月現在で、11名の議員のリストが残っている⁶⁵。多嶋氏自身にも、立候補を促す声はあったが、本人は議員になるつもりはなかったことがわかる。それは1987年講演の中で語られているように、政党の縛りに対する違和感と、言いたいことを言いたいという多嶋氏の性格に由来するものであろう。

また、2つの講演録の中で、多嶋氏が炭鉱主婦会のメンバーでありながら、社会党や労働組合への批判、そして共産党への支持(1999年講演)を明確にしている。先述したように、多嶋氏は、1951(昭和26)年に太平洋炭鉱主婦会の会長になった翌年に、できたばかりの日本炭鉱主婦協議会(炭婦協)の副会長となり、1955(昭和30)年にスイスで行われた世界母親大会に参加した。この前後で北海道の婦人運動のリーダーであり、日本共産党の小笠原貞子氏との交流があり、両者は親交を深めていったと思われる⁶⁶。また、多嶋氏は世界母親大会への参加によって、中国やソ連の共産主義に対する理解が深まり、それと並行して社会党や労働組合の運動、政治のやり方への批判が募っていったと思われる。

多嶋氏は、1974(昭和49)年の参議院選挙において、炭労から推薦された候補がいたにもかかわらず、小笠原貞子氏の支持を表明したことによって、労働組合、炭婦協、主婦会等から厳しい批判(「裏切り者」と

⁶⁴ 昭和36年「合理化」反対闘争とその帰結については、五十年史編纂委員会編(1996:70-76)を参照のこと。

⁶⁵ 日本炭鉱主婦協議会北海道支部(1973:111)より。ただし、その後も炭鉱主婦会からの女性議員は誕生しているが、全体像はつかめていない。

⁶⁶ 1999年講演で、多嶋氏は小笠原氏と一緒に炭鉱を仲良く歩いたという話をしている。

言われた)を受けた。社会党と共産党の対立もあいまって、母親大会には炭婦協、炭鉱主婦会は徐々に参加しなくなり、また、多嶋氏も炭婦協の顧問を辞任、札幌で炭鉱離職者の婦人の組織(炭鉱離職者主婦の会)からも距離をおくことになる。なお、当時の多嶋氏から小笠原氏への支持に関して、「組織には代わりの人がいるけれども、友達は、代わりはいない」と言われたことがあると、福井よしえ氏(元炭婦協会長)は語っていた⁶⁷。この決断の背景には、これまで述べてきた多嶋氏の性格や信念が関係しているといえる。

もっとも、多嶋氏と個人的な親交がある炭婦協関係者は、多嶋氏に対する尊敬の念は変わらず、それゆえ、1987年講演にも指摘されているように、その後、炭鉱主婦会関係者との会合に多嶋氏は参加していたようである。つまり、多嶋氏を含めた炭婦協、炭鉱主婦会の関係者は、社会党・労働組合といった組織、党派の論理ではなく、一個人として、多嶋氏を考えていたと言えるだろう。

最後に、「母」としての運動という点に関して述べておきたい。周知の通り、炭鉱主婦会・炭婦協の運動は「夫と息子の命と暮らしを守る」という点が運動の原点であった。母親大会、母親運動についても同様であり、母親として子どものために、戦争のない世の中を目指し平和運動を展開、さらに子どものために暮らしをよくするための運動として、物価値上げ反対運動などの消費者運動、保育所の設置や小児マヒ生ワクチンの輸入運動、高校増設運動などを展開した。

長谷川(1989:68-75)は、山村賢明の議論⁶⁸を援用し、献身と自己犠牲とゆるしという日本の母のイメージや、子どもにとって、母は心のよりどころになる価値であることを踏まえ、こうした「母の観念」が、「日本における多くの女性中心の運動を支えてきたフレームワーク」であると指摘する。女性たちの「危機感を醸成し、運動参加を動機づけ、参加の抵抗感を克服させてきたのは、母としての使命感」であり、「女性たちは「生命を守る」母親の立場から運動の主役」(同: 72)であり、それは母親運動や原水爆禁止運動、1960年代以降の公害反対運動、消費者運動、1980年代後半の反・脱原発運動にも通じるといえる。現在ならば、福島第一原発事故による放射線に関わる問題に対するさまざまな女性による運動も、母の立場からの運動といえるだろう。

しかし、こうした炭鉱主婦会の立場性に対して、「主婦の組織など、後退だ」「集団まるごと男たちの組織に従属するなんてごめんだ」という婦人運動家の批判(河野信子, 1985)、女性解放運動からは「男たちの妻であり、母であり、娘であることから出発することは後退を意味する」(島村俊恵, 1985: 264-5)という批判、1970年代のウーマンリブの時代においては、「男公認の女たちの戦い」「主婦という肩書きをつけての社会参加」という批判があり、「ぐるみ闘争は、主婦という資格で男と「共に戦う」場を与えたが、主婦を返上する道を指し示すことはできなかった(天野, 2005:35)という指摘がなされたことも事実である。つまり、母観念を基軸とした運動からは、性別役割分業からの転換は望めない。

だが、その一方で「この時期の女性たちの運動を、女と男の関係性の変革こそが第一義的に重要なものだという、単一の尺度によって切り捨てることはできない。男の争議の後方支援であったとしても、その過程で、彼女らは独自の活動の幅を広げていった」(天野, ibid: 36)という指摘があるように、炭鉱主婦会の活動

⁶⁷ 筆者らによるインタビュー調査(2011年7月10日)。

⁶⁸ 『日本人と母』(1978年、東洋館出版社)。

によって、女性たちは社会と接点を持ち、よりよい社会を見据えようとさまざまな学習と実践を行っていたと評価することもできる。さらに、「普遍的な倫理観が形成されがたい日本の文化的風土のもとで、母の観念は貴重な規範的原理」であり、「職業的な地位も権力ももたないノン・エリートの女性たちが運動主体として主体形成を行う際の主要な契機が、母の観念であること」(長谷川, 1989: 74)を、女性の社会参加を重視するジェンダー論も見過ごすことはできないはずである。

多嶋氏が2つの講演の中で、なぜ母親運動に関わり続けたのか、また、母親運動の現状とその後の課題を克服するために重視したことは、「母の観念」を中心とした、母親として運動に関わるということの意味を問い続けるという点であったといえる。それゆえ、多嶋氏は、母親大会の参加／不参加を巡って、社会党と共産党の党派の争いが巻き込まれたことを批判し、母として何ができ、何をすべきなのかという点を根源的に考えて、行動することこそが、母親運動に参加する意味であると語っていると思われる。上述した、多嶋氏の組織論の根源には、こうした母の観念が通底しているのではないだろうか。

【参考文献】

- 天野正子, 2005, 「動けぬつきあいと「ぐるみ」闘争—炭住の主婦会」『「つきあい」の戦後史—サークル・ネットワークの拓く地平』吉川弘文館。
- 千野陽一, 1984, 「地域婦人会」朝日ジャーナル編, 『女の戦後史 I 昭和 20 年代』朝日選書 249。
- 五十年史編纂委員会編, 1996, 『太平洋炭鉱労働組合五十年史』太平洋炭鉱労働組合。
- 長谷川公一, 1989, 「政治社会とジェンダー」江原由美子・長谷川公一・山田昌弘・天木志保美・安川一・伊藤るり『ジェンダーの社会学』新曜社。
- 河野伸子, 1985, 「炭婦協」朝日ジャーナル編, 『女の戦後史 II 昭和 30 年代』朝日選書 272。
- 日本炭鉱主婦協議会北海道地方本部, 1973, 『研山は知っている』北海道機関誌共同印刷所。
- 島村俊恵, 1985, 「炭鉱労働運動を支えた女たち—貝島主婦会を中心に—」女たちの現在を問う会『銃後史ノート』復刊 7 号(通巻 10 号)。
- 嶋津千利世, 1964, 「炭婦協のあゆみ」日本炭鉱労働組合編『炭労十年史』日本炭鉱労働組合。
- 鈴木悦子, 1994, 「北海道婦人会・婦人同盟の発足」『釧路市史研究』第 1 輯: 5-30。

3 太平洋炭鉱主婦会・北海道炭鉱主婦協議会会長の記録(2)佐藤邦子氏

3.1 佐藤邦子氏・講演(2013年11月30日・北海道岩見沢市「シンポジウム・空知の炭鉱(ヤマ)の女性たちが語る集いー炭鉱主婦会・炭婦協の歴史に学ぶー」)

西城戸誠・久保ともえ(編集)

[編者注] 以下は、2013年11月30日に、北海道岩見沢市で開催されたシンポジウム「空知の炭鉱(ヤマ)の女性たちが語る集いー炭鉱主婦会・炭婦協の歴史に学ぶー」で、佐藤邦子氏が話された内容に、編者(西城戸)が、佐藤邦子氏が別の書籍で書かれた自身の文章を、注釈で加筆した。佐藤邦子氏は、1999年9月に刊行された『証言集ヤマの残響』(佐藤進編、緑鯨社)の中で、「いつも新しいはじまり」と題された文章を寄せている。2013年のシンポジウムは20分程度の講演であったため、この証言集の原稿を引用することで、より具体的な内容にしたいと考えた。証言集の原稿はそのまま引用しているが、講演会の内容の関連づけについては、編者の責任である。また、以下の内容はいくつかのセッションに区切ったが、それは編者による編集である。

■炭鉱とのかかわりと炭鉱での生活

皆さん、こんにちは、長い時間座っているのはとても大変だと思います。これから話す私も話が上手くないので、きつとなおさら大変なのではないかと思い、申し訳ないと思いますが、私がんばってお話をしたいと思いますので、最後までどうぞよろしく願いいたします。最後というのはとても嫌ですね。でもやると決めたことですから、やはり最後までやり遂げるようがんばろうと思います。

私は先ほどご紹介に預かりました、釧路から来ました佐藤邦子です。どうぞよろしくお願いいたします。最初に、私が主婦会の仕事をするようになった経緯を少しお話したいと思います。私は1945(昭和20)年の春に、函館から母と4人の兄弟とともに釧路にきました。父が亡くなったためでした⁶⁹。釧路に来て間もなく、お世話をしてくれた方がいて、母は私たちを連れて、炭鉱で働いている方と再婚をしました⁷⁰。その家は六軒長屋、ハーモニカ長屋でした。水道もお手洗いも外にあり、お手洗いは階段10段以上も登ったところにありました。初めはびっくりしましたが、すぐに慣れました。10歳になってからの私の仕事は、水汲みです。

⁶⁹「父は函館で船長をしていた。1947(昭和22)年、樺太敷香(しきか)沖でロシア船の襲撃を受け、帰らぬ人となった。母は幼い私たちを抱えて途方にくれていた。姉を頼って私たちを連れ、釧路市へ行くことになった。昭和22年秋のことです。

当時、日本中が敗戦の混乱と就職難、食糧不足の中にあった。釧路市は炭鉱があるから景気がよいということでした。が、実際はそれほどでなく、炭鉱で働いている人たちも食うや食わずの生活であった。私たち親子5人は、とりあえず太平洋炭鉱で働く母の姉の家に同居することになった。食事のたびに、肩身の狭い思いをしたことが脳裏に焼きついています。」(『証言集ヤマの残響』24頁)

⁷⁰「そんな時、母に炭鉱で働く人と再婚の話があった。まもなく松田巳之松さんと結婚した。私たちは当然のように姓が角田から松田に変わった。義父は私たちを手放して可愛がってくれた。一緒に食事をするときは数少ないおかずを自分では食わずに私たちに食べさせた。当時、炭住は水道もトイレも屋外にあった。いま思えば本当に粗末なものでした。」(『証言集ヤマの残響』24頁)

天秤棒の両側のバケツに水を入れて運ぶのですが、家に着く頃には半分以下になっていました。

新しい父親は子どものいない人だったので、私を大変かわいがってくれ、どこに行くのにも私を連れて行ってくれました。その父親の職場は坑内の軌道屋でしたので、賃金はさほどよくはなかったように思います。私は、学校を卒業したら、とにかく父に恩返しをしようと、働くことだけを考えていました。1957(昭和 32)年に桜ヶ岡の杜宅に引っ越し、その後、父は 1960(昭和 35)年に停年退職になり、現在の土地に家を建て移りました。私は学校を卒業して生協で働き始めましたが、将来、仕事の役に立つのではないかと算盤教室に行き、小学校 1 年生の子どもたちと一緒に算盤を習っていました。このことが後に主婦会の役員になるきっかけになりました⁷¹。

1964(昭和 39)年に炭鉱で採炭員をしていた夫と結婚しました。結婚前に「炭鉱は、朝、仕事に出たら、夜、帰って来るまで何が起きるかわからない」と父によく聞かされていまして、私は夫が帰宅するまで常に家にいるようにしていました。でも、夫が朝の 5 時半に仕事に出ると午後 4 時ころまで帰って来ません。その間はいくら家の掃除をしても時間が余るので、「炭鉱の奥さんたちはいつもこんなに暇なのかな」と思いました。私は父の「炭鉱は出かけたら帰宅するまで何が起きるかわからない」という言葉をしっかりと受け止めて、夫が無事に帰って来られるように毎日心がけていました。

それは、まず仕事に行く時には、十分に時間の余裕を持って準備すること、必ず手作りの弁当を持って行ってもらうこと。これは自分だけがやっていることですが、雨が降っても雪が降っても必ず外に出て「いってらっしゃい」といつも見送ることにしていますし、出勤前には絶対に暗い顔をしないこと、このことは今でも夫が働いていますから続けています。

■炭鉱主婦会の活動について

次に、炭鉱主婦会の活動状況についてお話をします。初めに私のことですが、1968(昭和 43)年、私が 27 歳の時に主婦会の事務所に行きましたら、役員になって欲しいと言われて、主婦会の本部で、あなたは算盤ができるのだから財政をお願いしたいということでした⁷²。1972(昭和 47)年には機構改革があり、主婦

⁷¹ 「祖父は朝早く仕事にでかけ、帰りは暗くなってから帰宅しました。その頃、炭鉱では集会やストライキが頻繁に行われるようになりました。とくにメーデーには家族ぐるみで大勢の人が参加していた。義父は集会やメーデーには必ず私を連れて参加し、帰りには必ず飴を買ってくれました。

その頃はまだ、臨港鉄道の客車が走っていました。ある年のメーデーに参加する炭鉱の人たちは、客車ではなく屋根のない貨車に乗ることになりました。子供の私は空の見える客車に乗って大喜びでした。終点の入舟駅に着いた時には、みんなの顔が真っ黒になっていました。

それから何年か経って、私が主婦会運動に携わるようになったのは、義父に集会やメーデーに連れていってもらったり、政治問題や釧路の問題を聞かされていたことが、大きく影響していると思います。

私には座右の銘にしている言葉があります。それは、ことある毎に義父に言い聞かされていた「人に騙されても、人を騙すようなことはするな」という言葉です。15 歳になった私は中学を卒業して、社会人の仲間入りをしました。はじめて就職したのは太平洋生協でした。その後、義父が定年退職をしたときに、炭鉱の売店で働くことになりました。このときの経験が字引となり、私の人生にとって大きなプラスになっています。」(『証言集ヤマの残響』24-25 頁)

⁷² 「1964 年(昭和 39)年 10 月に結婚、2 年後に長女が生まれました。可愛いさかりの物心ついた頃に、私は主婦会の役員に推薦されました。私は子供の頃から義父の人生を垣間見てきました。真面目一方の義父は、朝から晩まで一生懸命に働きつづめてました。粗末な炭住と貧乏生活との縁が切れることはありませんでした。

義父のような人たちが労働組合の活動を通じて、声をあげて政治を動かしたことによって、乳幼児を抱えている市民

会は午前9時から午後3時までの常駐体制になりました。そのため活動も活発になり、その時の常駐費は4万円でした。

それから、文化部、情宣部、そして事務局長を経て、1976(昭和51)年に会長になり、1994(平成6)年まで続けました。私が会長になった時の主婦会の執行体制は会長、副会長、事務局長、財政部長の4名が常駐で、その下に支部長と副支部長がおりました。支部長と副支部長で執行委員会が開かれ、その後、月に一度の代表者会議で一ヶ月の行事を決め、活動を続けて来ました。また、日常の活動については班長で、班長は回り番になっていました。どんなに都合が悪くても「やらない」ということは聞き入れてもらえませんでした。

班長の役目は「主婦会だより」を配布したり、いろいろな署名を集めたり、物品集めでも積極的に会員宅を回りました。太平洋炭鉱の場合、組合員は炭鉱地域だけでなく、広い釧路市内に散らばっていたので、そうした組合員は通勤支部となっていました。その通勤支部の主婦会の会員も他の班の会員と同じように活動をしていました。

太平洋主婦会も「組合と主婦会は車の両輪」と考えておりましたので、実際に家族は家族なりに意見を持っていました。こうした家族の意見を夫たちの労働条件に反映させるために、主婦会の代表者会議で決めたことは解決を図りました。例えば、組合員のケガが多くなってきた時には、家族として黙ってはいられませんでした。組合から出ている保安委員を通じて会社と話し合いをもち、「ケガを減らすためにはどうするとよいのか。会社として、働く人間の立場になって対策を考えて欲しい」と話をしました。また、ある時は保安靴のことを取り上げました。保安靴は非常に高額だったので、個人で買うのは大変でした。会社で考えてくれるよう交渉して、値下げを実現しましたし、その後は一足だけ支給をされることになりました。

主婦会には交渉権はありませんでしたが、会社が快く話し合いに応じてくれました。その代わりにというわけではありませんが、会社側が主婦会の代表者会議に出席し、主婦会の協力を求めることもありました。たとえば、有給休暇の取り方についてです。「有給休暇をすぐに一度に使う人がいる。その後にかあつた時には欠勤となって賃金が減ってしまうので、有給休暇は上手に使うようにして欲しい」とか、「坑口に食堂も売店もあるけれども、できればお母さんたちのお弁当を持たせて欲しい」とか、そのようなことでした。

主婦会独自の活動としては職場慰問があります。職場慰問は坑口だけではなく、坑外職場や組合員が入院している病院にも行き、「お仕事、いつもご苦労様です」と言って、長い手ぬぐいとさいころ飴を差し上げました。職場慰問に参加した会員の感想文がありますので紹介します。

～二番方の入坑の時間が近くなると、だんだん坑口に人が増えてきました。家ではあまり言ったことないのですが、いつの間にか「気を付けて行ってらっしゃい」と声を掛けていました。お父さんたちは「ハアどうもありがとう」という人や、はにかんでもらっていき人や、にっこりと笑ってもらっていき人など、さまざまでした。

の願いが一つ実現したのです。私も世の中を住み良くするために、言いたいことを言えない人たちのために、少しでもお役に立つべきと考えました。それが主婦会の役員になった基本的な考えです。夫の定年退職までの30年間にわたって私は役員を続けました。」(『証言集ヤマの残響』25-26頁)

今度は一番方の人たちが上がって来ました。「おかえりなさい。ご苦労様」と声を掛けると、抗口から上がってきた人たちは私たちを見てうれしそうに笑っていきました。どの人の手もとても冷たくて、本当にご苦労様という気持ちでいっぱいになりました～

この感想文は、太平洋主婦会が毎年一回刊行している機関誌『母のうぶごえ』に寄せられたものです。『母のうぶごえ』は1955(昭和30)年から、炭鉱(ヤマ)が閉山し主婦会が解散するまで続けて刊行されていました。日常生活に根ざした母の声、女性の声の発言の場でもあったのです。『母のうぶごえ』には夕方の集會に参加した会員からは、「三人の幼い子どもたちがしっかり留守番をしてくれて、茶碗洗いや布団も敷いてくれて、よく手伝えてくれました」とか、「早めに夕食の支度を済ませて、小さい子ども二人によく言い聞かせてでかけて来ました」などという声も寄せられていました。

坑内見学も夫たちの職場を理解する上で重要な活動でした。当時の坑口の状況や参加した会員の気持ちをお伝えしたいと思ってもう一度、『母のうぶごえ』に寄せられた会員の声を紹介します。

～受付を済ませた後、保安帽とベルトを借りて安全灯を付けてもらいました。今回の見学者は40名で10名に2人の保安員の案内が付きましました。入坑前の検査を受けて入坑すると、目の前に人車があり、斜坑なので後ろ向きに座りました。後ろ向きに座るのは万が一の事故に備えるためだということです。ドアはなく、厚手のカーテンのような物が付いているだけでした。10分ほどで次の人車に乗り換えました。「もう海の底ですか」と尋ねると、「もうとっくに海の底です」と言われてびっくりしました。人車の中からカーテンをそっと



坑内見学 太平洋炭鉱主婦会(1969年10月5日)



職場慰問(坑口)(11月23日 勤労感謝の日)



太平洋炭鉱機関誌『母のうぶごえ』1955年1号と解散記念誌

開けてみると、すでに掘り終わったところには立ち入り禁止の札がぶら下がっていました。濡れている所やコンクリートで固められている所もありました。30分ほどしてまた人車を乗り換えると、今度は5分くらいしてまた人車を乗り換え、今度も5分くらいしてまた人車を乗り換え、5分くらいで人車を降りました。いよいよ採炭現場に向かうのですが、ごろごろとした石の上や枕木の上を歩くのはちょっと辛かったです。安全灯というのは意外と

暗くて、上を見ているとつまずき、下ばかり注意をしていると頭がゴツンです。探炭現場に行くまで何枚ものドアを通るのですが、これは空気の流れを一定にするためだそうです。通路は狭いうえに採炭現場には石炭を流すベルトコンベアがあり、随分と狭く思えました。

採炭の機械を動かしてくれました。私たちは隅の方で小さくなって恐る恐る見ていたのですが、今にも頭の上の石炭がどさっと落ちて来るように思いました。2時間ほどの坑内見学でしたが、すっかり疲れて、みんな口数が少なくなっていました。坑内見学は映画や石炭資料館の模擬坑道を見るのとは違って、本当に厳しいものでした。お父さんたちの苦勞が身に染みしました。～

こうした活動の他、野菜の共同購入もしました。農家から直接、野菜を買って来て、それを小分けにして会員に提供するのですが、会員からは大変喜ばれました。ある時には、遠く幕別まで出かけて行って 160 万円くらいも買い入れたこともありました。この時には主婦会にもよい利益が入りました。

この他、救急指定病院に内科と小児科も設置をするようにと、市と医師会に要請をして、3 年越しで夜間救急病院の実現にこぎつけたことや、プロパンガスの値上げの時には値上げ額 200 円を 140 円に、基本料金 550 円を 500 円にしてもらったこともありました。また、近くの小学校に、会員の協力で雑巾を寄付したこともありました。この時は先生から、「教室の雑巾もトイレの雑巾もすぐにボロボロになります。毎年秋口は雑巾縫いのシーズンですが、今年は 150 枚も雑巾をいただき大助かりです。いつも感謝をしています。一枚一枚、心の籠もった手ぬぐいや雑巾を使うのがもったいないような気がしますが、大切にに使わせていただきます」という礼状が届いておりました。

■閉山闘争を巡って

私たちが一番願うことは、何といたっても炭鉱の存続であります。炭鉱を守り地域を守るためには、政治の場に自分たちの代表を送らなければならないと、市長・市議選挙、知事・道議選挙、国政選挙の代表を送るために、昼も夜も一生懸命に取り組んで来ました⁷³。このことは全国・全道、どこの炭鉱主婦会も皆同じだったと思います。



中央陳述行動

しかし、自民党政権による石炭政策は年々厳しくなり、北海道でも閉山反対闘争が、「閉山やむなし」「あらかじめ対策」に変わる状況になりました。私が会長になった 1976(昭和 51)年には、すでに石炭産業の前途は不安な状況になっていました。

1981(昭和 56)年の第 7 次答申の前は危機感に包まれていました。釧路市では第 7 次石炭政策確立釧

⁷³ 「主婦会活動の中で、いまも鮮明に思い出されるのは選挙活動です。現道議会議員の西田昭紘さんが 2 回目の市長選のさなか、東京まで行きました。当時の日本社会党委員長土井たか子さんに、西田候補の応援に釧路市まで来ていただく約束をしてきたことです。」(『証言集ヤマの残響』26 頁)

路集会の開催、幣舞橋のたもとでの座り込み、坑底座り込み、署名集めなどによって、産炭地の声を強力にアピールもしました。私が座り込みをしている前を通る市民からは、熱い缶コーヒーやふかふかの肉マンや餡マンなどの差し入れがあり、励ましの言葉など、その時は心から感謝の気持ちでいっぱいでした。

1982(昭和 57)年 10 月 16 日、北炭夕張新鉱のガス爆発で 93 名もの犠牲者が出る重大災害が発生しました。この大災害は夕張だけの問題ではありませんでした。すべての炭鉱で働く

人々と家族の生命と暮らしに関わる重大問題であり、夕張新鉱は絶対に再建をさせなければなりません。夕張の駅前での座り込みには商店街の方々も参加しており、町全体で新鉱を守ろうと頑張っていた



石炭産業産炭地危機突破全道
(高嶋炭鉱の皆さんとともに) 1986 年



北炭夕張新鉱激励集会
のです。

しかし、道内の炭鉱閉山は相次ぎ 1990(平成 2)年に私が炭婦協の会長になった時には、主な炭鉱はわずか 6 山、働く人は 4,651 人になっていました。炭婦協の会長を引き受けることができるのは、残っている太平洋炭鉱主婦会しかないということで、やむを得ず、私が会長を引き受けることにしました。先ほど申し上げましたように、この頃の閉山闘争は「あらかじめ対策」に重点が置かれるようになっていました。このような状況の中で閉山闘争の応援に行くのは非常に辛いことでした。

皆さんの前で話をしているうちに涙が出て来ることもありました。それでも行かなければならないので、辛い気持ちをぐっと抑えて応援に行き話し合いました。しかし、その時は皆さんの方が私よりも、もっともっと辛く悲しく、不安に包まれていたことと思います。

私たちは炭婦協として、女性だけで家族の願いを通産局、そして横路知事に要請しました。岩崎



横路知事に要請行動 (1990 年 7 月)

道議はじめ、各炭鉱（ヤマ）の道議の皆さんにも一緒に行動に参加していただきました。

■炭婦協の解散

1995(平成7)年に入ると道炭労から、「どこの山も閉山して、残っているのは太平洋しかない」と言われて、いよいよ炭婦協も解散をしないと決まらぬと決心しました⁷⁴。1945年、敗戦後の日本は平和国家、文化国家を目指して立ち上がりました。その新しい日本の伝統に位置づけられたのは石炭産業でした。そして石炭産業で働く夫や息子をしっかりと支えて、ともがなばって来たのが炭婦協であり、各炭鉱(ヤマ)の主婦会でした。

炭婦協を解散するのは言葉にできないほど悲しいことでした。できれば逃げ出したい気持ちになりました。しかし、私が自分で選んで来た道であり、自分が背負わなければと自分に強く言い聞かせて、炭婦協の幕を閉じることにしたのです。道炭労に相談をして解散式の日程を決めていただきましたが、私は釧路におりましたし、札幌には炭婦協の役員も書記も一人もおられません。道炭労も人手不足でしたが、何とかお願いをして準備をしていただきました。

解散式では、できるだけ多くの役員、会員、そして一生懸命に闘ってきた主婦会の仲間の皆さんと一緒に炭婦協の旗とお別れをしましょうと、思い出を尽くし、声を掛けました。しかし、組織が活動を停止するということは悲しいことで、なかなか連絡が上手く行きません。このため、解散式が終わった後に「どうして連絡をくれなかったか」とお叱りもいただき、大変申し訳ないと思っておりました。



日本炭鉱主婦協議会解散惜別レセプション（1995年7月29日）

私の炭婦協会長としての最後の仕事は、解散記念誌『炎消ゆるとも』を刊行することでした。『炎消ゆるとも』の意味には、石炭産業で働く夫たちとともに職場を守り地域を守るために、炎が燃えるように活動を続けてきた、炭婦協の皆さんのたくましいエネルギーが、炭鉱(ヤマ)が閉山した後も未来に向かってあらためて

⁷⁴ 「(主婦会活動の中で、いまも鮮明に思い出されることの)いま一つは1995(平成7)年7月29日の炭婦協の解散式でした。私が炭婦協の会長になった1984(昭和59)年からの11年間は、閉山が相次ぎました。仲間を失い、また災害の発生で悲しみが重なり辛い日々でした。政府に対する不信と怒りの連続でした。1995年、炭婦協は三井三池炭鉱主婦会と太平洋炭硯主婦会の二組織だけとなりました。かつての炭婦協の栄光はいまいずこです。解散式が終わったあとホテルの自室に戻った私は、声をあげて泣き続けました。涙が留めどなく溢れでてくるのです。そのとき発刊した日本炭鉱主婦協議会の解散記念誌「炎消ゆるとも」は、私の大切な宝となっています。

1999(平成11)年5月、太平洋炭硯の長期存続決定の方針が報道されています。これまで全国で大勢の仲間たちが職を失って炭鉱を後にしています。その仲間たちのためにも、国内炭鉱の存続を確実にしなければいけないのです。現在、労働組合や家族会がなにか行動を起こしても、参加者が少ないと聞きます。これまでも参加者の動員には苦労してきました。役員の人たちには随分と苦労が多いと思います。一つのことが実るには、十年、二十年、あるいは物事によっては五十年、百年という時間が必要なのです。

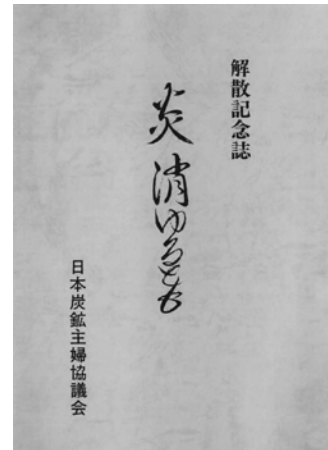
子供たちが温かい愛につつまれ健康に育つ第一の条件は、平和と民主主義です。いつも庶民の立場から政治のあり様を見つめ、戦争を遠ざけて暮らしを守ることです。主婦会活動はこの一点に集約されるのではないかと考えています。

いつも新しい始まりが待っている。」(『証言集ヤマの残響』26-27頁)

暮らしを豊かにし、地域を再建するエネルギーになって欲しいという願いを込めたつもりです。

皆さん、ここに「炭婦協の歌」があります。「炭婦協の歌」によって炭婦協の活動方針や会の意気込みをよく理解していただけるのではないかと思います。最後にその歌詞を読ませていただき、終わりにさせていただきます。

皆さんのお手元に「炭婦協の歌」の歌詞があると思います。何かある時には、よく、この「炭婦協の歌」を歌いました。ちょっと読ませていただきます。



『解散記念誌 炎消ゆるとも』
日本炭鉄主婦協議会（1995年）

- 一. 貧しさからの解放を 叫んで山の炭労と
北の果てから南から 結んだ固い団結は
山の力の炭婦協
- 二. 今進みゆくこの道は 再び戦火許さずに
独立のため眉あげて 平和の誓い果たすまで
闘い進む炭婦協
- 三. 我が民族の危機に立ち 世界の果てまで呼びかけて
心をつなぐ花の輪を 婦人の力で結ぶとき
輝く勝利の炭婦協

以上で私のお話を終わらせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

■太平洋炭鉄主婦会の特徴について

司会: 今回のシンポジウムでは、空知の炭鉄(ヤマ)の主婦会の話がありましたが、釧路の太平洋炭鉄との違い、相違点があれば、お話いただけますでしょうか？

私がお話することは皆さんが言い尽くしてくださったので、いうことがないのですが、ただ違うのは全部の炭鉄(ヤマ)と比べると、釧路の場合は都市炭鉄なので、たとえば会員の家を回って歩く時は、自家用車を出して会員宅を回って歩くというのは非常に時間がかかるのです。時には移転してしまっていなかったりすることもある、そのような部分では他の炭鉄(ヤマ)とはまったく違うのではということが一つ。

それから、皆さんの炭鉄(ヤマ)は全部閉山になりました。たしかに太平洋炭鉄も閉山にはなりましたが、良い悪いは別にして「コールマイン」という会社が残っています。そのような部分で言いますと、条件も違いますしもちろん賃金も違います。組合も主婦会もありません。ですから、私たちが主婦会、組合員という言い方をしていた時とは、今の人たちの炭鉄での生活はまったく違うのではないかと思います。

今日、私がここに来たのも、本当は釧路から一人で来る予定でした。ここに一人で来るのが、本当に不安でいっぱいでした。でも、来る日が近づくのにつれて、私も行きますかと声をかけられて、じゃあ仕方ない



炭婦協の旗

から行きますかと今日は5人で来ました。朝6時に家を出て、この会場に着いたのは12時近かったと思います。私は心から感謝をしています。私一人のためにわざわざ4人も応援団がついて来てくれました。ですから、私も何ともしゃべって帰らねばと思いました。そんなことでお話をさせていただいていますが、とても幸せです。ここにこうやって来られたのも、やはり夫が支えてくれたからだろうし、それから炭婦協でいろいろなことを教わって、今は釧路市で「健康を守る会」に加盟をして責任者として、まず家族の健康、自分の健康もちろんですが、そのような運動をがんばっています。



ここに来る一か月前ですが、「成年後見人」という勉強会がありました。私はどのようなことかよくわからずに参加して、最後までやり切って修了証書をいただきました。そのようなことができるようになったのは、皆さんにいろいろなことを教えていただいたからだと自分では思っています。私もこれで話は終わりますが、佐藤富喜雄(ふきお)さん、今のコールマインの話をちょっとしていただけると大変よろしいのではないかと思います。

■佐藤富喜雄氏の話(太平洋炭鉱管理職釧路倶楽部)

突然のご指名で、びっくりして戸惑っております。今、お話があったように、今朝は6時に釧路を出発し、こちらに来ました。私自身も炭鉱で働いていました。お話をいろいろと聞いていましたが、主婦会の力は大変なものでした。あらためて主婦会の皆さまに感謝を申し上げます。

太平洋炭鉱は2002(平成14)年に閉山をしてしまいましたが、その後「市民炭鉱」ということで釧路コールマインが設立されました。従業員は太平洋炭鉱の皆さんがそのまま従事しております。釧路コールマインは太平洋炭鉱の高い技術を継承していますから、現在はベトナムや中国、インドネシアなど各国の方々が技術の研修のために派遣をされて来ています。非常に発達した機械を現地で操作し、保安上の問題も含めて研修ができます。できればしばらく、そして長く継続をしてくれるとありがたいと思っています。

3.2 佐藤邦子氏の講演における論点

西城戸 誠

佐藤邦子氏の講演内容は、多嶋氏の講演と比べて時間が少ないため、多嶋氏の講演のように詳細なエピソードが紹介されているわけではないが、自身の生い立ち、炭鉱での生活、炭婦協の活動、閉山闘争、炭婦協の解散に関する見解が簡潔に述べられている。また、佐藤邦子氏は、1999年9月に刊行された『証言集ヤマの残響』（佐藤進編、緑鯨社）の中で、「いつも新しいはじまり」と題された文章を寄せているが、その内容は、講演の内容に関連する箇所に注で補足している。さらに、2011年11月20日に釧路市立博物館において開催されたシンポジウム「ヤマを支えた女たち－太平洋炭鉱主婦会」⁷⁵でも、自身の生い立ちから炭鉱主婦会、炭婦協のエピソードが語られている。以下、これらの記録も含めて、本リサーチ・ペーパーで掲載された講演内容に関わる論点を整理し、指摘されていない内容についての若干の補足を行いたい。

第一に、太平洋炭鉱主婦会の組織体制、運営に関する議論が挙げられる。太平洋炭鉱主婦会では、夫が太平洋炭鉱労働組合の組合員であれば、20歳以上の妻は自動的に会員となり、また、結婚していなくても、組合員の家族に20歳以上の女性がいた場合は会員となるという規則がある⁷⁶。また、主婦会の組織体制は、執行委員会－支部長、副支部長－支部の班長－会員という構図になっており、班長は輪番制となっている。

講演の中で、1972(昭和47)年からの組織改革に関する指摘があったが、これは10名の役員から5名の専従を置くことで人数を半減させ、支部長も執行委員と変更したことを指す。組織改革によって、事務所を開設、有給の専従を置き、月1回の常会を開いた。また支部行事が活発になり、中には支部長が執行部に入ったため、彼女らが町内会や民生委員をやるようになったという、活動家の発掘につながったという評価があった。だがその一方で、専従役員や支部長に手当を出すことによって、主婦会の活動が任せきりになり、また「お金で活動する」という風潮が増えたという意見も挙がっている⁷⁷。佐藤氏も、太平洋炭鉱主婦会創立30周年のための座談会において「いままでは組織が生活を守るということになっていたけれど、今は自分で生活を守るという風に変わってきています。それをなんとか組織が生活を守るんだ、という方向にもっていきたいのですが、すぐ現実を目の前にやられるものだからやりずらいんです。そういう悩みがあるのですが」と語っている。

第1章の佐藤邦子氏のプロフィール紹介のところでも述べたが、太平洋炭鉱では、1962年から持ち家制度が導入され、社宅を離れる組合員が増加したことや、炭鉱主婦会発足当初の衣食住を要求する運動を知る会員の減少、働く女性の増加などによって、炭鉱主婦会の組織のあり方や運営方法が困難になっていった。上記の組織改編は、「組織」に対する組合員の考え方が変わっている中で、炭鉱主婦会の活動家

⁷⁵ 釧路市立博物館, 2012, 『「ヤマの話聞く会」記録集(2)』所収。なお、このシンポジウムの内容は、本リサーチ・ペーパーの記録の内容と同じ主旨であるが、家族に関する情報は個人名が記されている。

⁷⁶ 『「ヤマの話聞く会」記録集(2)』42頁。

⁷⁷ 『母のうぶごえ』36号(1978年5月)45-46頁。

を増やすための模索がある。ここでは主婦会の組織運営の課題を常に抱えていた点に留意しておきたい⁷⁸。

第二に、太平洋炭鉱主婦会の活動は多岐に及んでいることが挙げられる。炭鉱主婦会は、組合の「両輪」として活動を行ってきた。そして、太平洋炭鉱主婦会に限ったことではないが、その時代や炭鉱(ヤマ)ごとに独自の活動が展開された。まず、「人間らしく生きる最低の権利を要求する」ための活動が挙げられる。戦後の食糧難、衣料不足の時期では、「食糧よこせ」の運動や越冬資金闘争を行い、その後は、保育所の開設要求、プロパンガス代金の値上げ幅の減少要求、高校増設運動など、生活や子どものための活動が実施された。次に炭鉱で働く夫や息子のための活動が挙げられる。雇用を守るために、会社の合理化に対する反対闘争や、夫や息子の命と安全のために、保安活動への監視や、坑内見学、抗口慰問、保安靴の一足無償配布の要求などにも精力的であった。また、労働組合とともに行った平和闘争(選挙活動)がある。釧路市議会選挙や市長選挙、北海道議会選挙、北海道知事選挙、衆議院、参議院選挙などで革新勢力を広げる運動を実施した。炭鉱主婦会からも、議員を出す動きがあり、主婦会の会長であった石川セイ子氏も議員として活動した。

最後に、太平洋炭鉱主婦会の活動の中でも特徴的といえるのが、機関誌「母のうぶごえ」の刊行である。「母のうぶごえ」は、1955(昭和 30)年 5 月 1 日のメーデー行事の一つとして、日常生活の綴り方、うた(詩や短歌など)が募集され、それを編集した論集としてスタートした。普段、鉛筆を握らないお母さんたちが、子どもの成長や日々の仕事など、日常の喜び悲しみを綴った作品は、男女同権と言われながら発言の範囲が狭かった女性の声であり、古い妻の座、母の座への抵抗として捉えられ、母のうぶごえが母の声となることを企図されていた⁷⁹。また、太平洋炭鉱では、演劇サークルやうたごえサークルがあり、文化活動が盛んであった。1952(昭和 27)年には、山田五十鈴主演の「女一人大地を行く」という炭鉱映画のロケが行われ、太平洋炭鉱主婦会もエキストラや、映画関係者の宿泊等の引き受けを行っている。

以上のような、多様な主婦会の活動がある中で、佐藤邦子氏が講演の中で特に重視しているのが、3 歳未満児の医療費無料化運動である。この運動は 1972(昭和 47)年に、太平洋炭鉱主婦会が他の女性団体と行ったものである。釧路市に陳情したことによって、翌年から実現された。1978(昭和 53)年発行の『母のうぶごえ』36 号では、「帯広市の実態調査を行い、町内会婦人部長、市内婦人団体とも話し合い、みぞれの降る中を水産加工場へ署名に行き、他団体との連携に力を入れながら二度、三度と、市長に陳情を行ない翌年市議会で可決され、老人医療費に次ぐ福祉拡充の運動でした」⁸⁰と記されている。そして佐藤氏も、「幼児医療無料化と、老人医療費無料化実現が、今迄私の運動続けさせる意志となったのです」と、主婦会役員 7 年間の活動を振り返って記述している⁸¹。この主婦会運動の成功体験が、佐藤氏が主婦会活動を継続することになった要因の一つであり、かつ他者に対しても、炭鉱主婦会の活動の意義を自信を

⁷⁸ なお、佐藤氏はシンポジウム「ヤマの話聞く会」のなかで、「他のヤマでは、「主婦会の役員はお父さんの出勤が良い人がしている」、とも聞かされました。太平洋の場合はそのようなことはありません。地域で選ばれて仕方なくやっていたのですが」(『「ヤマの話聞く会」記録集(2)』52 頁)と語っている。

⁷⁹ 『母のうぶごえ』第 1 号(1955 年)、「"母のうぶごえ"発刊に当たっての挨拶」「編集後記」より。

⁸⁰ 太平洋炭鉱主婦会『母のうぶごえ』36 号、1978 年、27 頁。

⁸¹ 太平洋炭鉱主婦会『母のうぶごえ』34 号、1976 年、4 頁。

もって働きかけることができるようになったと考えることができる。

しかしながら、第一の論点でも指摘したように、衣食住が不足していた時代ではなく、豊穡の時代になり、また、主婦会の会員が生活上の都合で仕事を持つようになり、炭鉱主婦会の活動意義が見いだせないという組合員が増えたため、佐藤氏はじめ炭鉱主婦会のリーダーは組織運営に苦勞していたことも確かである。例えば、閉山阻止闘争のために不可欠な平和闘争(選挙運動)に対しても、平成3年度の活動記録の中には、「現在参議院選挙は終盤を向えている(原文ママ)と言われていますが、五月から行なっている街宣やカード書きにはOBの方々に快く参加していただきましたが、会員の参加が少なかったのは非常に残念です」と記されている⁸²。また、1993(平成5)年以降、主婦会の会員数の減少や活動参加者の減少を懸念する記述が、機関誌『母のうぶごえ』に目立つようになってきた。だが、このような状況でも、太平洋炭鉱主婦会は、食品や化粧品のあっせん、着物の着付け教室、会員の親睦旅行、ボーリング大会などを会員向けの行事を開催し、組合員自らの健康のためのイベントや学習会、病院のボランティアなど、地域のための活動も行うようになった。

一般に炭鉱主婦会、炭婦協の活動は、さまざまな問題を「組織」の力で克服する志向性を持ち、そして、その活動の原点には、共に「学習」をするということが重視されているといえるだろう。つまり、個人の力では対処できない問題に対して、相対的に社会的な力が無かった炭鉱の女性たちは「連帯」し、組織的な要求を行ってきた。炭鉱主婦会や、炭婦協の運動スタイルは、こうした学習と連帯による組織の力に特徴付けられる。だが、時代を経て、組合員数の絶対数の減少、仕事につく組合員の増加、「個」が重視されるライフスタイルの浸透、高学歴化に伴う「学習」の社会的位置づけの変化、かつてのような運動による成功体験の共有の困難さなどが、炭鉱主婦会活動の継続の困難さをもたらしたといえる。

第三の論点として、佐藤邦子氏は、北海道の炭鉱が「閉山」を前提とした中で、炭鉱主婦会や炭婦協の会長に就任したが、それは会長として、閉山という「敗北の歴史」を連続的に経験することになったことが挙げられる。講演でも語られているように、閉山闘争に応援に行くことはとても辛い経験であり⁸³、1995(平成7)年に炭婦協を解散することになったが、筆舌に尽くしがたい経験であったことがわかる。

炭婦協の解散について、佐藤氏は「(炭婦協解散の)決断と言われても、道炭労から「(太平洋以外の)どのヤマも閉山し、もう続けていけないのだから閉じるしか無いよね」と言われて、解散式をしたということです。それに自分が加わってやらなければならないのは、非常に嫌でした。悲しくもなりました。本当に嫌な経験でした。でもそれも自分が来た道なのだから、「あなたが背負わなければならないのだ」と自分に言い聞かせながら閉じてきたということです」と語っている⁸⁴。そして、「各炭鉱の閉山によって、炭婦協が無くなり、道炭婦協も無くなるという時には、あちこちのヤマの大先輩から大変叱られてきた経験はあります」という

⁸² 『母のうぶごえ』46号(1998年11月)、75-76頁。

⁸³ 「閉山闘争の応援に行くというのは、非常に嫌ですよ。しゃべっているうちに涙がでてきちゃってね。それに行く前に感じるから、行くのが怖いだけでも、でも行かざるを得なくて、グッと我慢をしながらお互いに話し合いをしたり、あくまでも応援に行くだけなのですが」(『「ヤマの話」を聞く会」記録集(2)』(2012年)、53頁。)

⁸⁴ 『「ヤマの話」を聞く会」記録集(2)』(2012年)、54頁。

佐藤氏の語り⁸⁵もあるように、佐藤氏にとっての炭婦協の解散は、これまで炭婦協や炭鉱主婦会を支えてきた先輩に対する申し訳なさ、最後にたまたま残った炭鉱(ヤマ)の会長であったことから炭婦協の会長にならざるを得なかった自分が、かつての炭婦協幹部や主婦会役員だった人々からの厳しいまなざしを受けるという自らの宿命の厳しさ、そして自分自身が炭婦協の解散に携わらなければならないという現状と、さまざまな思いが交錯していることがうかがえるだろう。さらに佐藤氏は釧路在住であったため、炭婦協の解散のための準備等でも困難が多くあったことが、講演の中の語りからも示唆される。このように日本社会の中で炭鉱という存在が重視された時代と、衰退の一途をたどった時代では、炭婦協会長の重圧はそれぞれ異なる。つまり、佐藤氏の炭鉱主婦会、および炭婦協の会長における経験は、戦後直後や高度経済成長期までの困難であったものの運動の成功体験を多く共有できた時代のものと、大きく違っている点を確認しておく必要があるだろう。

第四に、太平洋炭鉱主婦会の特殊性である。本リサーチ・ペーパーで収録されている講演において、佐藤氏が、太平洋炭鉱が「都市炭鉱」であることを特徴として指摘している。他の炭鉱は炭鉱を中心に町が形成されていたが、釧路市は太平洋炭鉱以外の産業もある「都市」であったため、従業員の居住地は市内に広がっている。したがって、主婦会にも「通勤区会」が存在し、主婦会の会報は郵送で行ったり、自家用車を出して会員宅を回って歩くことに時間がかかったりしたというエピソードである。

佐藤氏は、シンポジウム「ヤマの話を聞く会」および、筆者とのインタビューの中で、他の炭鉱主婦会の組合員から太平洋炭鉱に対する違いは「基本的にない」⁸⁶としながらも、太平洋炭鉱には持ち家制度⁸⁷があり、賃金が月給制であったことから、他の炭鉱の主婦会役員から「賃金が安定していることや持ち家があることはいいね」と言われたことがあると語っている⁸⁸。ただし、持ち家制度によって、他の炭鉱のように炭住などで集住することがなくなったため、炭鉱主婦会の組合員同士のつながりが希薄になった可能性は否めない。この点は、太平洋炭鉱が都市炭鉱であったことも関係しているといえる。

最後に、炭鉱主婦会、炭婦協の活動に対して理解を示してくれた夫への感謝と、家庭の仕事はきちんとするという点が語られている点が挙げられる。これは、佐藤氏に限らず、さまざまな炭鉱の主婦会幹部が共通に話をしてきた点である。炭鉱で働く夫や息子がいて始めて自分たちの生活があり、炭鉱主婦会の活動

⁸⁵ 『「ヤマの話を聞く会」記録集(2)』(2012年)、54頁。

⁸⁶ 佐藤邦子氏へのインタビュー(2011年11月19日)。なお、太平洋炭鉱と他の炭鉱との違いに関して、佐藤氏は「他の炭鉱(ヤマ)の人は本社の人のこと本社の人をよく知っているけど、太平洋の場合、本社の人を全く知らない」と話している(2011年11月19日のインタビュー)。また「他のヤマでは会社と主婦会が話をしている、馴れ馴れしく感じました」(『「ヤマの話を聞く会」記録集(2)』(2012年)、53頁)という話もしている。

⁸⁷ 持ち家制度は、1962(昭和37年)に太平洋炭鉱株式会社が労働組合に対して「社有地を従業員に分譲して、自分の家を持たせるなかで、炭鉱社会を新しいまちにつくりかえたい」という提案がなされたことから始まる。労働組合側の評価は、「きびしくなった労働と生活のなかで“労働者に夢をあたえよう”ということではあったが、これによって福利厚生費を削減し、不動産事業を中心とする関連企業を育成し、積みたてられた住宅建築資金を経営資金に活用するなどの考えがいりまじっていた」というものである(81頁)。また、持ち家化が進むことにより、地区闘組織の弱体化も想定されている。しかし、持ち家制度を利用する組合員は増えて、1966(昭和41)年までに565戸に達した(五十年史編纂委員会編,1996:81-82)。

⁸⁸ 『「ヤマの話を聞く会」記録集(2)』52頁。

に、きちんと家事をこなして、主婦会の活動を続けていたことがわかる。女性が社会との接点を持つためには、家族の理解と家事をこなすという「家庭の壁」を越えることももちろん、こうした性別役割分業を肯定することの是非は問われたいけないがーが必要であったということが示唆されるであろう。

以上、議論してきたように、太平洋炭鉱主婦会、炭婦協による運動や組織運営のあり方を、今後、どのように活かせば良いのか。つまり、「個」が重視され、人々が「連帯」をする経験を持たない現在の女性たちが、個人のみでは対処しきれない問題が地域社会の中で山積している今、炭鉱主婦会の経験をどう引き継ぐかという課題を、今後、私たちは考えていく必要があるだろう。

【参考文献】

- 五十年史編纂委員会編, 1996, 『太平洋炭鉱労働組合五十年史』太平洋炭鉱労働組合.
釧路市立博物館, 2012, 『「ヤマの話聞く会」記録集(2)』釧路市立図書館
佐藤邦子, 1999, 「いつも新しいはじまり」佐藤進編『証言集ヤマの残響』緑鯨社

4. 「釧路資料」について

4.1 釧路資料の内容に関する概説

大國充彦・西城戸誠

(1) 釧路資料整理の経緯

1 章で述べたように、本研究プロジェクトでは、北海道地域の炭鉱における炭鉱主婦会、道炭婦協がどのように展開されたのか、そして、これらの活動が地域社会、特に女性の活動にどのような影響を与え、現在の地域社会の中にどのように引き継がれているのかという関心から、閉山をした炭鉱の主婦会の関係者や、炭婦協の関係者に聞き取り調査を実施し、さまざまな資料を収集し整理をしてきた。

その中で、元太平洋炭鉱主婦会会長、元炭婦協会長の佐藤邦子氏の自宅に保管されていた太平洋炭鉱主婦会、日本炭鉱主婦協議会の資料を発見し、釧路市立博物館や釧路市教育委員会の協力を得て、札幌学院大学 SORD プロジェクトの一環として整理することになった。以下、まず始めに、「資料の発見」という言葉の背景に、釧路の多くの方々のご協力とそれぞれの方々の長い活動の成果があることを確認し、それ自体が一つの市民活動として捉えることができる多様な動きの軌跡を提示する。その次に、資料リストの最新版を掲載するがにあたり、その前に簡単に釧路資料の内容について概説したい。

釧路市立博物館は、2010 年度より「ヤマの話聞く会」を開催し、2010 年度に 3 回、2011 年度に 4 回の講演会を開催している。石川孝織学芸員はこの時期以前より、釧路市内の炭鉱関係者とのネットワーク構築を始めていた。その中には炭鉱主婦会関係者も含まれている。このような交流は、さまざまなきっかけから可能になるとうかがっている。当時、釧路市立博物館友の会（以下、「博物館友の会」）の会長であった中塚美恵子氏は、同じく市民生協理事であった片桐美代子氏とのつながりがあった。片桐氏は太平洋炭鉱主婦会の事務局長をなさっていて、主婦会元会長の佐藤邦子氏とは懇意である。また、中塚氏は灯油問題を通して、主婦会の佐藤氏と同じイシューで活動した経験もあった。中塚氏が仲介の労をおとりになることで、博物館と炭鉱主婦会の佐藤氏・片桐氏との間に交流が生まれることになるとうかがっている。

この経緯とは別に、私どもは南空知の炭鉱主婦会元幹部の方々の調査を通して佐藤邦子氏の存在を知り、また住友赤平炭鉱主婦会元会長の米森康子氏より佐藤邦子氏をご紹介いただくこととなった。こういった時期に、産炭地研究会の嶋崎尚子は学芸員の石川氏と出会い、産炭地釧路の研究について意見交換を始めることとなった。その中で、産炭地研究会の炭鉱主婦会グループが、太平洋炭鉱主婦会との面談を希望していることが石川氏の了解することとなり、これ以降、石川氏は両者の間を積極的につないでくださる労をおとりいただくことになる。

関わりの結び目がこのように作られていく中で、2011 年 11 月 20 日、第 7 回ヤマの話聞く会「ヤマを支えた女たち～太平洋炭鉱主婦会～」が開催された。当日は、太平洋炭鉱主婦会元会長・日本炭鉱主婦協議会元会長の佐藤邦子氏と、太平洋炭鉱主婦会元事務局長の片桐美代子氏の講演の他に、フロアからも市民生協元理事であり「博物館友の会」会長の中塚美恵子氏によるご発言（「暮らしを守る」という観点で連帯していった活動のお話）、また元太平洋炭鉱総務課長の佐藤富喜雄氏からもご発言をいただいた。第 7 回の講演会は、釧路市立博物館のご厚意で、私ども産炭地研究会も共催という形で地域に貢献する機会を与えていただいた。

この講演の前日に、博物館の一室を拝借して、佐藤邦子氏と浅野康子氏（太平洋主婦会元幹部）のお二人に私どもはお話をうかがっている。佐藤氏にお目にかかったのはその時が初めてである。その際、

佐藤氏のご自宅の倉庫に炭婦協関連の資料を保存してきたことをうかがった。私どもは、炭婦協の資料がまとまった形では残っていると聞いたのは初めてのことだった。私どもは、佐藤氏が保管している炭婦協関連の資料について、できれば閲覧したいし、預からせていただければ、資料の整理を行うことができる旨をお伝えした。

学芸員の石川氏によれば、第7回の講演会に際して佐藤邦子氏は「これっきりでもう話さない（最初で最後）」とおっしゃっていたそうだ。けれども、講演後、博物館が釧路の石炭産業についてさまざまな取り組みを行っていること、「ヤマの話を書く会」記録集を刊行なされたこと、私ども産炭地研究会の研究活動などを改めて評価してくださり、石川氏の言葉によれば「その後の関係性」を築き上げることに前向きになってくださった。その関係性の中で、資料をどのようにするのが良いのかについて慎重に判断する必要が出てきた。

釧路で炭鉱関係の活動とかかわっている方々が、それぞれの課題意識をお持ちになって活動をなさっている中で、私どもは「資料の発見」という言葉だけで理解しがちになる事態を、もう一度、簡略な形ではあるがここに示すことで、多くの方々の長年にわたる活動の成果の一つとして、この資料の活用に関する判断がなされたことを理解することになった。この点で、佐藤邦子氏・中塚美恵子氏・片桐美代子氏をはじめとする釧路の市民活動の担い手の方々、佐藤富喜雄氏をはじめとする太平洋炭鉱の関係者の方々、石川孝織学芸員をはじめとする釧路市立博物館の方々、釧路市教育委員会の方々、釧路市立図書館の方々、これらの方々の大きなお力のおかげで一つのまとまりのある「資料」を閲覧することができ、整理することができるにいたった。簡略にしか示せないが、この経緯自体、前述の通り、釧路の市民活動の成果の一つとして捉えることができる。

その後、佐藤邦子氏、片桐美代子氏、中塚美恵子氏とは2013年にもお話をうかがう機会を設けていただいた。さらに、2013年11月30日に岩見沢市コミュニティプラザで開催した「空知の炭鉱（ヤマ）の女性たちが語る集い」にご登壇いただいた5名の炭婦協元幹部のお一人として佐藤邦子氏にご講演をお願いした。このシンポジウムには、遠路またご多忙にもかかわらず、石川孝織氏、片桐氏、中塚氏もご参加下さった。

(2) 資料の内容の概要

資料は、(1)釧路関連、(2)全国炭婦協、(3)北海道炭婦協、(4)炭労、(5)道主婦協、(6)総評主婦の会、(7)家計簿、(8)選挙関連、(9)社会党関係、(10)その他の10カテゴリーに整理されている。

(1) 釧路関連の資料には、釧路市の女性団体に関するものがある。その中には、佐藤邦子氏が現在会長を務める「健康を守る会」に関する資料も含まれている。太平洋炭鉱主婦会だけでなくそれぞれの炭鉱主婦会は、当該地域の女性団体を包括する協議会に参加していることが多い。釧路の場合は釧路市女性団体連絡協議会が該当する。また、さまざまな女性団体に参加を呼びかけるプロジェクト、イベントもあるが、太平洋炭鉱主婦会も女性団体の一つとして、それらに加わっていることがわかる。

日本炭鉱主婦協議会の組織構造は、本部が日本炭鉱主婦協議会、地方支部として北海道と九州があり、各炭鉱（ヤマ）に炭鉱主婦会が存在する。(2) 全国炭婦協の資料には、1955-57年、1960年代後半の全国炭婦協の幹事会、評議委員会の資料、炭婦協たより（機関誌）の原稿などがある。だが、残念ながら時系列データにはなっていない。また、1950年代後半から1960年代の九州地方の炭鉱主婦会資料など、北海道以外の炭鉱主婦会の資料も数多く存在している。日本炭鉱主婦協議会の本部には、2つの地方支部（北海道と九州）の資料が送付されたからであろう。

なお、日本炭鉱主婦協議会の資料で興味深いものは、「炭婦協五年史編纂のための基礎調査票」である。現時点では筆者らは「炭婦協五年史」を入手していないが、全国の炭鉱主婦会の基礎調査として72の炭鉱主婦会の情報（主婦会結成の経緯、炭婦協への加入、主婦会が結成されてからの闘争、主婦会の組織状況、現在の活動の具体例など）が調査票として残っている。このデータの分析については、別稿で行いたいと考えている。

(3) 北海道炭婦協の資料は、釧路資料全体の中でも数が多い。道炭婦協の定期大会の資料は第25回から43回（昭和50年から平成5年）までが揃っている。また出納帳も昭和53年以降揃っており、道炭婦協たよりの原稿や規約集、写真なども存在している。

(4) 炭労の資料については、定期大会資料、報告書（機関誌号外）、記念誌などがあるが、それほど多くはない。炭労から炭婦協宛てに送られた資料が残されていたと思われる。

(5) 道主婦協の資料は、北海道主婦会連絡協議会の資料を指す。北海道主婦連絡協議会の結成は1958年であり、道炭婦協、日鋼主婦協、全鉱婦協、国鉄家族会、動力車家族会、全日通家族会など、10単産、10万人の婦人団体から構成された。初代会長は、道炭婦協の多嶋光子氏であった。1977年から93年の定期大会の資料が断片的に残されている他、記念誌、報告書が存在している。

(6) 総評主婦の会は、主婦会連絡協議会の全国組織であるが、総評主婦の会の定期大会資料が部分的に残されている。また、1976年以降、いくつかの欠番があるが、総評主婦の会の機関誌が存在している。

(7) の家計簿は、北海道主婦協議会が発行した家計簿白書のことを指す。断続的ではあるが、1970年代、80年代、90年代の家計簿白書と、調査のための家計簿等があり、これらのデータは専業主婦の意識に関する研究に寄与する可能性がある。

(8) 選挙関連と、(9) 社会党関係の資料が存在する理由は、炭鉱主婦会が「平和闘争」(選挙活動)に関与していたためである。北海道知事選挙、衆議院選挙、参議院選挙の候補者に関連する資料や選挙対策に関する書類の一部が残されている。

謝辞

本文に記したように、本資料を私どもが研究対象として閲覧し整理するまでに、釧路の関係者の方々の多大なご尽力があった。ここにお名前を記し感謝の意を表す。佐藤邦子氏、中塚美恵子氏、片桐美代子氏、佐藤富喜雄氏、石川孝織氏、浅野康子氏、以上の方々への謝意を表します。

付記

釧路資料リストは、「SORD 釧路資料リスト」（大國充彦・久保ともえ、『社会情報』札幌学院大学総合研究所紀要、Vol.23.No.1、2013）から許可を得て転載している。

4.2 釧路資料リスト

大國充彦・久保ともえ

(1) 釧路関連

釧路関係01_04		カテゴリ内の 通し番号	箱番	pdfの有無	資料名	年/月/日	備考
釧路関係 女性協・主婦協総り 01	01	1	009	あり※	平成4年度資料つづり・主婦協議会	1992/ /	
	02	1	011		女性協平成5年度つづり	1993/ /	
	03	1	010		平成6年度主婦会資料つづり	1994/ /	
	04	1	012		平成7年度 女性協 資料つづり 佐藤邦子	1995/ /	
	05	1	004		関係団体資料つづり	/ /	
	06	1	060		大会資料、参加要請、執行委員会、懇話会資料他	/ /	
	07	1	067		釧路市女性団体協議会設立の新聞記事切り抜き、などのプリント、コピー 女性協よりNo.1平成4年度	/ /	
	08	1	061		生活必需品の需給及び価格動向※1、道女性の自立プラン推進協議会大会プログラム、えがいて など	/ /	
釧路関係 各総会 定期大会資料 02	01	1	004		平成2年度釧路市交通安全母の会総会議案 1990年	1990/ /	
	02	1	004		平成2年度釧路市婦人団体連絡協議会総会 1990年	1990/ /	
	03	1	017		平成4年度釧路市女性団体協議会定期総会 1992年	1992/ /	
	04	1	014		朝鮮の自主的平和統一を支持する 日朝連帯朝鮮委員会 第4回総会1990年h2	1990/ /	
	05	1	015		1990年度 釧路市政調査会 定期総会 h2	1990/ /	
	06	1	016		釧路市嘱託職員不当解雇撤回闘争(柴田裁判)激励集会 1990年	1990/ /	
釧路関係 健康を守る会資料 03	01	1	004		平成2年度釧路市暮らしを守る婦人団体連絡協議会総会議案	1990/ /	
	02	1	006		平成3年度 健康を守る会資料つづり(総会議案) h3釧路市健康を守る婦人団体連絡協議会 総会議案	1991/ /	
	03	1	007		健康を守る会資料つづり平成4年度 h4釧路市健康を守る婦人団体連絡協議会 総会議案	1992/ /	
釧路関係 北海道女性の 自立プラン 04	01	1	018		女性フェア・イン・釧路'92 1992年h5年	1992/ /	
	02	1	003		女性フェアイン釧路'92開催資料(佐藤邦子用)1992年H4	1992/ /	
	03	1	064		平成3年度 女性リーダー研修プログラム 北海道女性の自立プラン釧路地域推進協議会	1991/ /	
	04	1	021		平成6年度 北海道女性の自立プラン 女性リーダー研修プログラム	1994/ /	
	05	1	022		フェスティバル94 ハートtoハートつしやる プログラム	1994/ /	
	06	1	065 066		平成7年度 代議者会議(案) 設立15周年企画書(案)北海道女性の自立プラン釧路地域推進協議会	1995/ /	
	07	1	069		女性の自立プラン、国際婦人デー資料	/ /	

釧路関係05_07		カテゴリー内の 通し番号	箱番	pdfの有無	資料名	年/月/日	備考
釧路関係 くしろを洗おう 05	01	1 008 063			くしろを洗おう合成洗剤温放運絡帳資料	1992/ /	
	02	1 005			物価調査資料主婦会用	1991/ /	
	01	1 063			働く婦人の労働実態調査昭和63年度 1988年	1988/ /	
釧路関係 報告書・記念誌 06	02	1 013			くしろ生活環境研究 報告書1990年h02	1990/ /	
	03	1 019			釧路市消費生活行政の概要平成6年6月発行 1994年	1994/ /	
	04	8 057			太平洋炭鉱労働組合 創立40周年記念式典ご案内 昭和60 1985年	1985/ /	
	05	1 020			平和・民主の旗をかかげて48年 (解散記念誌) 釧路市労働組合協議会 平成5年 1993年	1993/ /	
	06	1 023			夢街くしろ kushiro バンフレット	/ /	
	07	8 023			平成元年記録帳(佐藤) ノート無記入 役員名簿が貼ってある	/ /	
	01	1 067			女性協だよりNo.1平成4年版	1992/ /	07_02 主婦だより 6_022 1964年31号、1988年定期大会特集号 1_010 1992年01号 1_004 1994年01号
釧路関係 切り抜き・機関誌 07	02	別特			主婦だより 太平洋炭鉱主婦会	/ /	
	03	6 019			にじの友 第203号 釧路市生活協同組合1990年h02年	1990/ /	
					以下空白	/ /	
						/ /	
						/ /	
						/ /	
						/ /	
						/ /	
						/ /	
						/ /	
						/ /	

(2) 全国炭婦協

全国 日本炭婦主婦協議会①01_05		資料名	年/月/日	備考
カテゴリ内の通し番号	箱番	pdfの背番号		
全国炭婦協(中央) 各委員会資料 01	01	2	003	05_04 ①炭婦協第17回代表者委員会議事録1956年、第17回代表者委員会議事録1957年 ②炭婦協第2、4回運営委員会議事録1956年、第1、5、7回運営委員会議事録1957年 ③九州地方代表者報告書、北海道1956~1957年 ④高1(札幌)、道労協、道労協、道労協1956~1957年
	02	2	002	05_04 ①炭婦協第17回代表者委員会議事録1956年、第17回代表者委員会議事録1957年 ②炭婦協第2、4回運営委員会議事録1956年、第1、5、7回運営委員会議事録1957年 ③九州地方代表者報告書、北海道1956~1957年 ④高1(札幌)、道労協、道労協、道労協1956~1957年
	03	2	010	05_04 ①炭婦協第15回評議員会議事録 ②炭婦協第15回評議員会議事録(北海道)報告書、常任地区報告書 ③炭婦協第15回評議員会議事録(北海道)報告書、常任地区報告書
	04	2	007	05_04 ①炭婦協第15回評議員会議事録 ②炭婦協第15回評議員会議事録(北海道)報告書、常任地区報告書 ③炭婦協第15回評議員会議事録(北海道)報告書、常任地区報告書
	05	3	004	05_04 ①炭婦協第15回評議員会議事録 ②炭婦協第15回評議員会議事録(北海道)報告書、常任地区報告書 ③炭婦協第15回評議員会議事録(北海道)報告書、常任地区報告書
	06	4	010	05_04 ①炭婦協第15回評議員会議事録 ②炭婦協第15回評議員会議事録(北海道)報告書、常任地区報告書 ③炭婦協第15回評議員会議事録(北海道)報告書、常任地区報告書
	07	2	013	05_04 ①炭婦協第15回評議員会議事録 ②炭婦協第15回評議員会議事録(北海道)報告書、常任地区報告書 ③炭婦協第15回評議員会議事録(北海道)報告書、常任地区報告書
全国炭婦協(中央) 発刊書・米輪書・事務綴り 02	01	2	005	05_06 ①九州炭婦協第5回評議員大会資料1968年 ②九州炭婦協第18回評議員大会資料1968年 ③たんこぶおぼよこ ④九州炭婦協第5回評議員大会資料1968年
	02	2	004	05_06 ①九州炭婦協第5回評議員大会資料1968年 ②九州炭婦協第18回評議員大会資料1968年 ③たんこぶおぼよこ ④九州炭婦協第5回評議員大会資料1968年
	03	2	015	05_07 ①九州炭婦協第5回評議員大会資料1968年 ②九州炭婦協第18回評議員大会資料1968年 ③たんこぶおぼよこ ④九州炭婦協第5回評議員大会資料1968年
	04	2	013	05_07 ①九州炭婦協第5回評議員大会資料1968年 ②九州炭婦協第18回評議員大会資料1968年 ③たんこぶおぼよこ ④九州炭婦協第5回評議員大会資料1968年
	05	2	033	05_07 ①九州炭婦協第5回評議員大会資料1968年 ②九州炭婦協第18回評議員大会資料1968年 ③たんこぶおぼよこ ④九州炭婦協第5回評議員大会資料1968年
	06	2	006	05_07 ①九州炭婦協第5回評議員大会資料1968年 ②九州炭婦協第18回評議員大会資料1968年 ③たんこぶおぼよこ ④九州炭婦協第5回評議員大会資料1968年
	07	2	001	05_07 ①九州炭婦協第5回評議員大会資料1968年 ②九州炭婦協第18回評議員大会資料1968年 ③たんこぶおぼよこ ④九州炭婦協第5回評議員大会資料1968年
全国炭婦協(中央) 手紙、葉書、電報他 04	01	2	043	05_08 ①九州炭婦協第5回評議員大会資料1968年 ②九州炭婦協第18回評議員大会資料1968年 ③たんこぶおぼよこ ④九州炭婦協第5回評議員大会資料1968年
	02	2	046	05_08 ①九州炭婦協第5回評議員大会資料1968年 ②九州炭婦協第18回評議員大会資料1968年 ③たんこぶおぼよこ ④九州炭婦協第5回評議員大会資料1968年
	03	2	011	05_08 ①九州炭婦協第5回評議員大会資料1968年 ②九州炭婦協第18回評議員大会資料1968年 ③たんこぶおぼよこ ④九州炭婦協第5回評議員大会資料1968年
	04	2	014	05_08 ①九州炭婦協第5回評議員大会資料1968年 ②九州炭婦協第18回評議員大会資料1968年 ③たんこぶおぼよこ ④九州炭婦協第5回評議員大会資料1968年
	05	2	016	05_08 ①九州炭婦協第5回評議員大会資料1968年 ②九州炭婦協第18回評議員大会資料1968年 ③たんこぶおぼよこ ④九州炭婦協第5回評議員大会資料1968年
	06	2	018	05_08 ①九州炭婦協第5回評議員大会資料1968年 ②九州炭婦協第18回評議員大会資料1968年 ③たんこぶおぼよこ ④九州炭婦協第5回評議員大会資料1968年
	07	2	019	05_08 ①九州炭婦協第5回評議員大会資料1968年 ②九州炭婦協第18回評議員大会資料1968年 ③たんこぶおぼよこ ④九州炭婦協第5回評議員大会資料1968年
全国炭婦協(地方) 05	08	2	020	05_12 ①九州炭婦協第5回評議員大会資料1968年 ②九州炭婦協第18回評議員大会資料1968年 ③たんこぶおぼよこ ④九州炭婦協第5回評議員大会資料1968年
	09	2	021	05_12 ①九州炭婦協第5回評議員大会資料1968年 ②九州炭婦協第18回評議員大会資料1968年 ③たんこぶおぼよこ ④九州炭婦協第5回評議員大会資料1968年
	10	2	022	05_12 ①九州炭婦協第5回評議員大会資料1968年 ②九州炭婦協第18回評議員大会資料1968年 ③たんこぶおぼよこ ④九州炭婦協第5回評議員大会資料1968年
	11	2	023	05_12 ①九州炭婦協第5回評議員大会資料1968年 ②九州炭婦協第18回評議員大会資料1968年 ③たんこぶおぼよこ ④九州炭婦協第5回評議員大会資料1968年
	12	2	026	05_12 ①九州炭婦協第5回評議員大会資料1968年 ②九州炭婦協第18回評議員大会資料1968年 ③たんこぶおぼよこ ④九州炭婦協第5回評議員大会資料1968年
	13	2	027	05_12 ①九州炭婦協第5回評議員大会資料1968年 ②九州炭婦協第18回評議員大会資料1968年 ③たんこぶおぼよこ ④九州炭婦協第5回評議員大会資料1968年
	14	1	056	05_12 ①九州炭婦協第5回評議員大会資料1968年 ②九州炭婦協第18回評議員大会資料1968年 ③たんこぶおぼよこ ④九州炭婦協第5回評議員大会資料1968年
15	5	020	05_12 ①九州炭婦協第5回評議員大会資料1968年 ②九州炭婦協第18回評議員大会資料1968年 ③たんこぶおぼよこ ④九州炭婦協第5回評議員大会資料1968年	
16	5	021	05_12 ①九州炭婦協第5回評議員大会資料1968年 ②九州炭婦協第18回評議員大会資料1968年 ③たんこぶおぼよこ ④九州炭婦協第5回評議員大会資料1968年	

全国 日本放婦主婦協議会①06.09		資料名	年/月/日	備考	
①	カネ子1内の 通じ番号 全国放婦協 大会資料・活動報告書 (地方本部委員を採らず) 06	01 5 027	炭鉱山文化協会 第三回生活改善講習会関係資料	1954/ /	06.01 5.027 ①第三回生活改善中央講習会関係資料 ②炭鉱山文化協会関係資料 ③炭鉱山文化協会関係資料 ④炭鉱山文化協会関係資料 ⑤炭鉱山文化協会関係資料 ⑥炭鉱山文化協会関係資料 ⑦炭鉱山文化協会関係資料 ⑧炭鉱山文化協会関係資料 ⑨炭鉱山文化協会関係資料 ⑩炭鉱山文化協会関係資料 ⑪炭鉱山文化協会関係資料 ⑫炭鉱山文化協会関係資料 ⑬炭鉱山文化協会関係資料 ⑭炭鉱山文化協会関係資料 ⑮炭鉱山文化協会関係資料 ⑯炭鉱山文化協会関係資料 ⑰炭鉱山文化協会関係資料 ⑱炭鉱山文化協会関係資料 ⑲炭鉱山文化協会関係資料 ⑳炭鉱山文化協会関係資料 ㉑炭鉱山文化協会関係資料 ㉒炭鉱山文化協会関係資料 ㉓炭鉱山文化協会関係資料 ㉔炭鉱山文化協会関係資料 ㉕炭鉱山文化協会関係資料 ㉖炭鉱山文化協会関係資料 ㉗炭鉱山文化協会関係資料 ㉘炭鉱山文化協会関係資料 ㉙炭鉱山文化協会関係資料 ㉚炭鉱山文化協会関係資料 ㉛炭鉱山文化協会関係資料 ㉜炭鉱山文化協会関係資料 ㉝炭鉱山文化協会関係資料 ㉞炭鉱山文化協会関係資料 ㉟炭鉱山文化協会関係資料 ㊱炭鉱山文化協会関係資料 ㊲炭鉱山文化協会関係資料 ㊳炭鉱山文化協会関係資料 ㊴炭鉱山文化協会関係資料 ㊵炭鉱山文化協会関係資料 ㊶炭鉱山文化協会関係資料 ㊷炭鉱山文化協会関係資料 ㊸炭鉱山文化協会関係資料 ㊹炭鉱山文化協会関係資料 ㊺炭鉱山文化協会関係資料 ㊻炭鉱山文化協会関係資料 ㊼炭鉱山文化協会関係資料 ㊽炭鉱山文化協会関係資料 ㊾炭鉱山文化協会関係資料 ㊿炭鉱山文化協会関係資料
		02 2 040	炭鉱山文化協会 第五回生活改善講習会関係資料	1956/ /	
		03 2 041	炭鉱山文化協会生活改善中央講習会第6回要録	1957/ /	
		04 2 036	ウーマン生糸婦人集の報告書、宣言決議書	1958/ /	
		05 2 038	第三回日本母大妻連合会(第1日目～3日目)	1957/ /	
		06 2 038	第四回母大妻大会資料、母親さんふん第19号1958年	1958/ /	
		07 2 001	母大妻連合会大会資料(付、第18回母大妻大会) 第18回母大妻大会交流会議録他	1967/ /	
		01 2 034	婦人(ふじん)ニュース(道平婦人会機関紙)NO.1971、23号(1959年531)～25、32、35、38、40号(1932年532)	1956/ /	
		02 3 003	支那機関紙(福)つたい(日放高松主婦会)第17号21、23号1957年・1958年	1957/ /	
		03 2 017	支那機関紙(長)たんべき(神戸放高28,180,131号)、神戸主婦の会(大会特集号)、姫野芳(姫野放高第56号)1958年	1958/ /	
04 3 002	支那機関紙(庄)こたま(中山主婦会第57号1955、1954年)、神戸主婦の会(大会特集号)、姫野芳(姫野放高第56号)1958年	1958/ /			
05 3 007	母親さんふん(日本母大妻連合会)第17、9、11、12、22、24、25、28、29、31、33、37、42、47、49、51、53、55号1956年・1962年	1956/ /			
06 4 031	BOX02 炭鉱山文化協会(1983年新春号、62号(1983年8月25日)、66号(1983年11月28日)、昭和62年12月(1983年新年号))	/ /			
07 2 008	炭鉱山文化協会(1983年新春号、62号(1983年8月25日)、66号(1983年11月28日)、昭和62年12月(1983年新年号))	/ /			
01 2 042	写真(新しい中華全国民主婦連合会から)	/ /			
02 2 044	写真(中国、朝鮮から)	/ /			
03 4 044	写真 ①⑨姉妹記念大会、定例会、他大会、学習会、子宅など	/ /			
04 2 045	BOX02 ネガ(35ミリ)と写真×5本	/ /			
01 1 028	BOX01 研山(ずりやま)は知っている、道放高の20年	1973/ /			
02 4 036	BOX08 日本放婦主婦協議会結成三十周年記念誌	1983/ /			
03 1 026	box1 あしあと 住友赤十字会 三十周年記念誌	1984/ /			
04 1 027	box1 三池主婦会結成35周年 報告書	1988/ /			
05 2 024	大塚斗争、斗争録(第一冊)	1956/ /			
06 2 025	大塚斗争録(第二冊)	1956/ /			
07 1 057	box1 悲しみを語りかえて一歩も三池の大量殺人一三池からの報告(有明大火災害)	1984/ /			
08 4 040	たたかひの志を燃やして 不当解雇反対・裁判闘争の記録1988年～1992年	1993/ /			
09 2 046	中国からのハガキ、手紙、カードなど	/ /			
10 2 047	中国女子(婦女)写真集	1956/ /			
		以下空白	/ /		

全国 日本炭鉱主婦協議会②(01.07.03.06.21.7)	カネ子(母)の 通札番号	箱番	資料の有無	資料名	年/月/日	備考		
全国政婦協(中央) 各委員会資料 01	08	5 007		日本炭鉱主婦協議会 第4～6回評議会、幹事会 1955～1957年	/ /	01.08 5.007 日本炭鉱主婦協議会(母)評議員 会簿(1956年) ①日本炭鉱主婦協議会(母)評議員 会簿(1956年) ②日本炭鉱主婦協議会(母)評議員 会簿(1956年) ③日本炭鉱主婦協議会(母)評議員 会簿(1956年) ④日本炭鉱主婦協議会(母)評議員 会簿(1956年) ⑤日本炭鉱主婦協議会(母)評議員 会簿(1957年) ⑥日本炭鉱主婦協議会(母)評議員 会簿(1957年)		
	09	5 008		第16回日本炭鉱主婦協議会評議員会資料、活動方針1967年	1956/ /			
	10	5 009		日本炭鉱主婦協議会第16回評議会 議事録他	/ /			
	11	5 010		第17回評議員会議事録他1966年	1966/ /	01.11		
	12	5 011		第18回評議員会議事録他1969年	/ /	5.016 日本炭鉱主婦協議会(母)評議員 会簿(1969年) ①日本炭鉱主婦協議会(母)評議員 会簿(1969年) ②日本炭鉱主婦協議会(母)評議員 会簿(1969年) ③日本炭鉱主婦協議会(母)評議員 会簿(1969年) ④日本炭鉱主婦協議会(母)評議員 会簿(1969年) ⑤日本炭鉱主婦協議会(母)評議員 会簿(1969年) ⑥日本炭鉱主婦協議会(母)評議員 会簿(1969年) ⑦日本炭鉱主婦協議会(母)評議員 会簿(1969年)		
	13	5 012		第19回評議員会資料1970年	1970/ /			
	14	5 013		日本炭鉱主婦協議会(中央)代表委員会資料 第10回(52)第13回(56)、第15回(58)議案	1977/ /	01.12		
	15	5 014		日本炭鉱主婦協議会(中央)代表委員会資料 第13回(57)第15回、第17回(60、61)年度「平成」年度	/ /	5.011 日本炭鉱主婦協議会(母)評議員 会簿(1969年) ①日本炭鉱主婦協議会(母)評議員 会簿(1969年) ②日本炭鉱主婦協議会(母)評議員 会簿(1969年) ③日本炭鉱主婦協議会(母)評議員 会簿(1969年) ④日本炭鉱主婦協議会(母)評議員 会簿(1969年) ⑤日本炭鉱主婦協議会(母)評議員 会簿(1969年) ⑥日本炭鉱主婦協議会(母)評議員 会簿(1969年) ⑦日本炭鉱主婦協議会(母)評議員 会簿(1969年)		
	16	5 022		第12回定期大会報告書	/ /	01.15		
	全国政婦協(中央) 発書書・米箱書・事務綴り	07	5 001		炭婦協本部発書書 炭婦協発他	/ /	02.07	
		08	5 002		発書書(二つ折)1957(1956年)1957年	/ /	5.001 日本炭鉱主婦協議会(母)評議員 会簿(1956年) ①日本炭鉱主婦協議会(母)評議員 会簿(1956年) ②日本炭鉱主婦協議会(母)評議員 会簿(1956年) ③日本炭鉱主婦協議会(母)評議員 会簿(1956年) ④日本炭鉱主婦協議会(母)評議員 会簿(1956年) ⑤日本炭鉱主婦協議会(母)評議員 会簿(1956年) ⑥日本炭鉱主婦協議会(母)評議員 会簿(1956年) ⑦日本炭鉱主婦協議会(母)評議員 会簿(1956年) ⑧日本炭鉱主婦協議会(母)評議員 会簿(1956年) ⑨日本炭鉱主婦協議会(母)評議員 会簿(1956年) ⑩日本炭鉱主婦協議会(母)評議員 会簿(1956年)	
		09	5 003		炭婦協本部発書書 炭婦協発他	/ /	02.08	
10		5 004		炭婦協本部発書書	/ /	5.002		
11		5 005		炭婦協本部発書書(第13回母部大会)	/ /	02.09		
12		5 006		中央政婦協(しん)1967	/ /	5.003 日本炭鉱主婦協議会(母)評議員 会簿(1956年) ①日本炭鉱主婦協議会(母)評議員 会簿(1956年) ②日本炭鉱主婦協議会(母)評議員 会簿(1956年) ③日本炭鉱主婦協議会(母)評議員 会簿(1956年) ④日本炭鉱主婦協議会(母)評議員 会簿(1956年) ⑤日本炭鉱主婦協議会(母)評議員 会簿(1956年) ⑥日本炭鉱主婦協議会(母)評議員 会簿(1956年) ⑦日本炭鉱主婦協議会(母)評議員 会簿(1956年) ⑧日本炭鉱主婦協議会(母)評議員 会簿(1956年) ⑨日本炭鉱主婦協議会(母)評議員 会簿(1956年) ⑩日本炭鉱主婦協議会(母)評議員 会簿(1956年)		
03		5 034		挨拶状、事務更替へのお礼状、要望書他	/ /	02.09		
04		7 027		運炭婦協発心付キ	/ /	5.004 日本炭鉱主婦協議会(母)評議員 会簿(1956年) ①日本炭鉱主婦協議会(母)評議員 会簿(1956年) ②日本炭鉱主婦協議会(母)評議員 会簿(1956年) ③日本炭鉱主婦協議会(母)評議員 会簿(1956年) ④日本炭鉱主婦協議会(母)評議員 会簿(1956年) ⑤日本炭鉱主婦協議会(母)評議員 会簿(1956年) ⑥日本炭鉱主婦協議会(母)評議員 会簿(1956年) ⑦日本炭鉱主婦協議会(母)評議員 会簿(1956年) ⑧日本炭鉱主婦協議会(母)評議員 会簿(1956年) ⑨日本炭鉱主婦協議会(母)評議員 会簿(1956年) ⑩日本炭鉱主婦協議会(母)評議員 会簿(1956年)		
全国政婦協(地方) 05		17	5 023		1995年各地方政婦協大会(地方報告書)	/ /	5.005 日本炭鉱主婦協議会(母)評議員 会簿(1956年) ①日本炭鉱主婦協議会(母)評議員 会簿(1956年) ②日本炭鉱主婦協議会(母)評議員 会簿(1956年) ③日本炭鉱主婦協議会(母)評議員 会簿(1956年) ④日本炭鉱主婦協議会(母)評議員 会簿(1956年) ⑤日本炭鉱主婦協議会(母)評議員 会簿(1956年) ⑥日本炭鉱主婦協議会(母)評議員 会簿(1956年) ⑦日本炭鉱主婦協議会(母)評議員 会簿(1956年) ⑧日本炭鉱主婦協議会(母)評議員 会簿(1956年) ⑨日本炭鉱主婦協議会(母)評議員 会簿(1956年) ⑩日本炭鉱主婦協議会(母)評議員 会簿(1956年)	
		08	5 028		北海道平和婦人会「しん」ニュース、機関紙第12.7.9.11.12.14.16.14.17号(1954年)「1954年」と「1959年」と「1960年」	/ /	02.10	
	08	5 029		三池主婦会「しん」第7「26号」(1975年)「1975年12」(6折付)	/ /	5.004		
	10	5 030		「しん」5号より「日本炭鉱主婦協議会機関紙 政務新聞(特集・号外)1950、1959、1960、1961、1962年	/ /	02.09		
	11	5 031		第10回内閣大蔵省資料1960、1961、1962、1964号外	/ /	5.004		
	12	5 032		機関紙「しん」No.743、「主婦」No.133	/ /	02.10		
				以下空白	/ /	5.004		
					/ /	02.10		
全国政婦協 機関誌と原稿 07					/ /	5.004		
					/ /	02.10		
					/ /	5.004		
					/ /	02.10		
					/ /	5.004		
					/ /	02.10		
					/ /	5.004		
					/ /	02.10		
					/ /	5.004		
					/ /	02.10		
					/ /	5.004		

北海道道協①05_06				資料名	年/月/日	備考
カテゴリ内の通し番号	箱番	pdfの有無	資料名	年/月/日	備考	
①	01	1 088	道協婦協、会報のハガキ、招函券、領収書	/ /	02_02 3_008 最初のリストと中が違つたようた カテゴリ分け時 ①道協臨時大会資料1972年47 ②道協臨時大会資料第29号、1977年46 ③道協臨時大会資料1977.1978年 ④他	
	01	1 059	道協婦協、機関誌上原稿	1978/ /	02_03 3_009 ①就任、退任挨拶状 ②委嘱期、大会、集案案内 ③選別事件関係 ④道主編退任1977-1978年(とび) ⑤総評主編の委嘱(6回定期大会(案)、プロック集案1977年 ⑥いのちく5し全道婦人集案 ⑦主編の名ニュース(自治労主編の会)第29号 ⑧道協婦協第18号 ⑨全道労務生対協第13-14号 ⑩選挙関係 ⑪選挙関係	
			以下空白	/ /	02_04 3_010 ①道協婦協 第18,19号(51年4月) ②道協婦協 第17-16号(51年10月-52年4月8,14,15無し) ③道協婦協 第1号-20号(52年6月-53年3月4,11,17,18無し) ④道協婦協 第1号-11号(53年5月-12月4無し) ⑤道協婦協 第6,12号(54年) ⑥道協婦協 第7号、71号(52) ⑦代表委員会資料集録 第1-9回(51年6月-10月、52年2月、4無し) ⑧就任退任挨拶・申請、要望書など	
				/ /	02_05 3_011 ①代表者 委員 会資料集録 第5回(55) ②代表者 委員 会資料集録 第1-6回(52年6月-53年4月) ③代表者 委員 会資料集録 第3回(53年10月) ④代表者 委員 会資料集録 第7回(54年) ⑤他年代不明 ⑥定期大会資料第26, 27回	
				/ /		
				/ /		
				/ /		
				/ /		
				/ /		
				/ /		
				/ /		
				/ /		
				/ /		
				/ /		

北海道道協②01_03		カネゴリ内の通し番号		箱番	pdfの有無	資料名	年/月/日	備考
北海道協 定期総会資料 各委員会資料 集金資料 01	09	4	001	議事録(道協協代表委員会、定期大会)	1978/ /	01_09 4_001 ①55第5回代表委員会 ②55第5期(1978年度)代表委員会 ③55第2回代表委員会 ④55第2回定期代表委員会 ⑤55第5回代表委員会 ⑥55第32回定期大会		
	10	4	002	道主幹連 1982年(定期総会、議事録など)	1982/ /	01_10 4_002 ①55第2回定期総会議事報告 ②55第6回(55年度)常任幹事会 ③55年度第2回常任幹事		
	11	4	004	55年度(代表委員会報告、道協協局、委員会報告など)	1980/ /	01_10 4_004 ①55第1回代表委員会 ②道協協NO.47.110.11 ③厚生年鑑の仕組みプリント		
	12	4	011	第30回定期大会(他委員会記録あり)	1985/ /	01_11 4_004 ①55第1回代表委員会 ②道協協NO.47.110.11 ③厚生年鑑の仕組みプリント		
	13	4	035	道協協「三十周年関係」プログラム、はがき、案内	1982/ /	02_09 4_007 ①道主幹協 57NO.2-5, 17-20, 58NO.8-10, 12(重複)、NO.17-18 ②道主幹協 58(58年度)NO.1-38 ③道主幹協 58NO.49(58年度) ④道主幹協 58NO.16-17, 19-21 ⑤道主幹協 58NO.2, 7-6, 11-13 ⑥道主幹協 58NO.19		
	14	8	004	三十年間に寄せて 各支部からの原稿	1982/ /	02_10 4_007 ①道主幹協 56NO.1-56NO.13(道協協局発之一緒あり) ②道協協 56NO.11, 2 ③代表委員会 56第1回~56第4回 ④代表委員会 56第1回、56第2回(56年度) ⑤就任挨拶(主幹協→道協協、他) ⑥道協協、道協協局、道協協人選対委員会発 ⑦他		
	15	4	041	第35回定期大会議案書 道主幹協	1995/ /	02_11 4_008 ①道協協 56NO.1-56NO.13(道協協局発之一緒あり) ②道協協 56NO.11, 2 ③代表委員会 56第1回~56第4回 ④代表委員会 56第1回、56第2回(56年度) ⑤就任挨拶(主幹協→道協協、他) ⑥道協協、道協協局、道協協人選対委員会発 ⑦他		
	09	4	005	道主幹協連昭和55年以降(道主幹協発など)	1982/ /	02_11 4_008 ①道協協 56NO.1-56NO.13(道協協局発之一緒あり) ②道協協 56NO.11, 2 ③代表委員会 56第1回~56第4回 ④代表委員会 56第1回、56第2回(56年度) ⑤就任挨拶(主幹協→道協協、他) ⑥道協協、道協協局、道協協人選対委員会発 ⑦他		
	10	4	007	道主幹協書類 昭和61年~(道主幹協発など)	1986/ /	02_11 4_008 ①道協協 56NO.1-56NO.13(道協協局発之一緒あり) ②道協協 56NO.11, 2 ③代表委員会 56第1回~56第4回 ④代表委員会 56第1回、56第2回(56年度) ⑤就任挨拶(主幹協→道協協、他) ⑥道協協、道協協局、道協協人選対委員会発 ⑦他		
	11	4	008	60年度道協協協賛記録(就協協、挨拶(主幹協→道協協)、大会案内など)	1986/ /	02_11 4_008 ①道協協 56NO.1-56NO.13(道協協局発之一緒あり) ②道協協 56NO.11, 2 ③代表委員会 56第1回~56第4回 ④代表委員会 56第1回、56第2回(56年度) ⑤就任挨拶(主幹協→道協協、他) ⑥道協協、道協協局、道協協人選対委員会発 ⑦他		
	12	4	009	道協協(h)1年度第4回常任幹事会活動報告、道主幹協第44号など)	1990/ /	02_11 4_008 ①道協協 56NO.1-56NO.13(道協協局発之一緒あり) ②道協協 56NO.11, 2 ③代表委員会 56第1回~56第4回 ④代表委員会 56第1回、56第2回(56年度) ⑤就任挨拶(主幹協→道協協、他) ⑥道協協、道協協局、道協協人選対委員会発 ⑦他		
	13	4	014	道協協関係(道協協発など)	1983/ /	02_11 4_008 ①道協協 56NO.1-56NO.13(道協協局発之一緒あり) ②道協協 56NO.11, 2 ③代表委員会 56第1回~56第4回 ④代表委員会 56第1回、56第2回(56年度) ⑤就任挨拶(主幹協→道協協、他) ⑥道協協、道協協局、道協協人選対委員会発 ⑦他		
	14	4	003	挨拶状(就任挨拶、活動へのお礼挨拶など)1975~1982年まで) 道協協発第17号(1982年あり)	1975/ /	02_11 4_008 ①道協協 56NO.1-56NO.13(道協協局発之一緒あり) ②道協協 56NO.11, 2 ③代表委員会 56第1回~56第4回 ④代表委員会 56第1回、56第2回(56年度) ⑤就任挨拶(主幹協→道協協、他) ⑥道協協、道協協局、道協協人選対委員会発 ⑦他		
	15	4	013	年金問題(要望書、指導者講習会レジュメ(1978年など)	1975/ /	02_11 4_008 ①道協協 56NO.1-56NO.13(道協協局発之一緒あり) ②道協協 56NO.11, 2 ③代表委員会 56第1回~56第4回 ④代表委員会 56第1回、56第2回(56年度) ⑤就任挨拶(主幹協→道協協、他) ⑥道協協、道協協局、道協協人選対委員会発 ⑦他		
	16	4	028	昭和48年事務局日誌	1973/ /	02_11 4_008 ①道協協 56NO.1-56NO.13(道協協局発之一緒あり) ②道協協 56NO.11, 2 ③代表委員会 56第1回~56第4回 ④代表委員会 56第1回、56第2回(56年度) ⑤就任挨拶(主幹協→道協協、他) ⑥道協協、道協協局、道協協人選対委員会発 ⑦他		
	07	4	016	出金伝票 4か月分 57年度12月~58年3月	1975/ /	02_11 4_008 ①道協協 56NO.1-56NO.13(道協協局発之一緒あり) ②道協協 56NO.11, 2 ③代表委員会 56第1回~56第4回 ④代表委員会 56第1回、56第2回(56年度) ⑤就任挨拶(主幹協→道協協、他) ⑥道協協、道協協局、道協協人選対委員会発 ⑦他		
	08	4	017	昭和60年4月分出金伝票	1975/ /	02_11 4_008 ①道協協 56NO.1-56NO.13(道協協局発之一緒あり) ②道協協 56NO.11, 2 ③代表委員会 56第1回~56第4回 ④代表委員会 56第1回、56第2回(56年度) ⑤就任挨拶(主幹協→道協協、他) ⑥道協協、道協協局、道協協人選対委員会発 ⑦他		
09	4	018	昭和62年出金伝票1月分~12月分	1977/ /	02_11 4_008 ①道協協 56NO.1-56NO.13(道協協局発之一緒あり) ②道協協 56NO.11, 2 ③代表委員会 56第1回~56第4回 ④代表委員会 56第1回、56第2回(56年度) ⑤就任挨拶(主幹協→道協協、他) ⑥道協協、道協協局、道協協人選対委員会発 ⑦他			
10	4	019	昭和63年出金伝票1月分~12月分	1977/ /	02_11 4_008 ①道協協 56NO.1-56NO.13(道協協局発之一緒あり) ②道協協 56NO.11, 2 ③代表委員会 56第1回~56第4回 ④代表委員会 56第1回、56第2回(56年度) ⑤就任挨拶(主幹協→道協協、他) ⑥道協協、道協協局、道協協人選対委員会発 ⑦他			
11	4	020	平成元年出金伝票1月分~12月分	1977/ /	02_11 4_008 ①道協協 56NO.1-56NO.13(道協協局発之一緒あり) ②道協協 56NO.11, 2 ③代表委員会 56第1回~56第4回 ④代表委員会 56第1回、56第2回(56年度) ⑤就任挨拶(主幹協→道協協、他) ⑥道協協、道協協局、道協協人選対委員会発 ⑦他			
12	4	021	平成2年出金伝票1月分~12月分	1977/ /	02_11 4_008 ①道協協 56NO.1-56NO.13(道協協局発之一緒あり) ②道協協 56NO.11, 2 ③代表委員会 56第1回~56第4回 ④代表委員会 56第1回、56第2回(56年度) ⑤就任挨拶(主幹協→道協協、他) ⑥道協協、道協協局、道協協人選対委員会発 ⑦他			
13	4	022	平成3年出金伝票1月分~3月分	1977/ /	02_11 4_008 ①道協協 56NO.1-56NO.13(道協協局発之一緒あり) ②道協協 56NO.11, 2 ③代表委員会 56第1回~56第4回 ④代表委員会 56第1回、56第2回(56年度) ⑤就任挨拶(主幹協→道協協、他) ⑥道協協、道協協局、道協協人選対委員会発 ⑦他			
14	4	023	平成5年伝票つづり、出金伝票4月分~12月分	1977/ /	02_11 4_008 ①道協協 56NO.1-56NO.13(道協協局発之一緒あり) ②道協協 56NO.11, 2 ③代表委員会 56第1回~56第4回 ④代表委員会 56第1回、56第2回(56年度) ⑤就任挨拶(主幹協→道協協、他) ⑥道協協、道協協局、道協協人選対委員会発 ⑦他			
15	4	024	平成6年出金伝票1月分~7月分、9、10、12月分	1977/ /	02_11 4_008 ①道協協 56NO.1-56NO.13(道協協局発之一緒あり) ②道協協 56NO.11, 2 ③代表委員会 56第1回~56第4回 ④代表委員会 56第1回、56第2回(56年度) ⑤就任挨拶(主幹協→道協協、他) ⑥道協協、道協協局、道協協人選対委員会発 ⑦他			
16	4	025	入金票、領収証 SS9~H1 道協SS3~SS8、入金票、領収証、請求書	1977/ /	02_11 4_008 ①道協協 56NO.1-56NO.13(道協協局発之一緒あり) ②道協協 56NO.11, 2 ③代表委員会 56第1回~56第4回 ④代表委員会 56第1回、56第2回(56年度) ⑤就任挨拶(主幹協→道協協、他) ⑥道協協、道協協局、道協協人選対委員会発 ⑦他			
17	4	029	昭和52年3月分~4月分出金伝票	1977/ /	02_11 4_008 ①道協協 56NO.1-56NO.13(道協協局発之一緒あり) ②道協協 56NO.11, 2 ③代表委員会 56第1回~56第4回 ④代表委員会 56第1回、56第2回(56年度) ⑤就任挨拶(主幹協→道協協、他) ⑥道協協、道協協局、道協協人選対委員会発 ⑦他			

北海道炭婦協②04.07		カゴリ内の 通し番号	箱番	pdfの有無	資料名	年 / 月 / 日	備考
②	報告書・報告規約集など 04	01	5 025		日本炭女協同組合規約・規程集	1970 / /	1993年 05.01 6.008 ①炭婦協より(日本炭女協同組合議案) 第39.45.49.51.53.59.60.61.62.63.64.65.66.67.68.70.71.72号 ②炭女新聞1051号(日本炭女協同組合) ③赤平主 新聞第213号S617.14号S62 ④炭女まやち 第29号S61
		02	4 037		日本炭女協同組合北海道地方本部、規約・規程集	1979 / /	
		03	5 024		炭婦協「働く会」の要約調査に関する報告	1972 / /	
		04	5 026		産地地調査報告書	1991 / /	
	02	4 027		年賀状、新年会案内(封筒)	1995 / /		
	02	6 008	Box 箱別NO.6	道炭婦協機関誌「炭婦協だより」No.43(とじ)~67	/ /		
	03	6 009		炭婦協だより No.59 S.56 機関誌	1981 / /		
	04	4 006		全道労協書類59年~(炭婦協だより、赤平主協新聞)	1980 / /		
	05	6 001		原稿(炭婦協だより)53年新年号	/ /		
	06	6 002		原稿(炭婦協だより) 54年新年号	/ /		
	07	6 003		原稿(炭婦協だより) 54年、55年新年号	/ /		
	08	6 004		原稿(炭婦協だより) 55年	/ /		
09	6 005		原稿(炭婦協だより) 59年 No.60	/ /			
10	6 006		原稿(炭婦協だより) 61年 No.65	/ /			
11	6 007		原稿(炭婦協だより) 62年 No.67	/ /			
12	4 034		炭婦協だより 昭和64年度 新年号原稿	/ /			
写真・水がなど 07	01	4 042	Box 箱別NO.4	35ミリネガフィルム×4本	/ /		
	02	4 043	Box 箱別NO.4	フォトアルバム、道炭婦協総会00	/ /		
				以下空白	/ /		
					/ /		

北海道産婦協③01.06		カテゴリ内の通し番号	箱番	pdfの有無	資料名	年/月/日	備考	
北海道産婦協 定期総会資料 各委員会資料 集委資料 01	16	8 045			道産婦協第27回定期大会資料	1968/ /		
	17	8 046			道主幹協第29回～第30回定期大会資料	1977/ /		
	18	8 047			道主幹協第31回定期大会資料	1979/ /		
	19	8 048			道主幹協第31回～第33回定期大会資料	1981/ /		
	20	8 049			道主幹協第36回～第37回定期大会資料	1982/ /		
	21	8 050			道主幹協第40回～第42回定期大会資料	1984/ /		
	22	8 051			道主幹協第43回～第44回定期大会資料	1990/ /		
	23	8 001			代表委員会記録と資料 (道産婦協) 56第17回～56第19回	1981/ /		
	24	8 021			会館出席名簿 昭和61年	1986/ /		
	25	8 022			道産婦協定期大会、代表委員会記録(捺印原簿)ハコ	/ /		
	26	8 020			道産婦協指導講習会年間問題レジュメ1978年	1978/ /		
	27	8 028			第1回年金学校レジュメ きれいな水といのちを守る 合成洗剤協賛北海道連会	1977/ /		
	28	8 015			第21回 いのちとくらしを守る全道女性集委資料1983年H5	1983/ /		
	29	8 017			第25回はたらく婦人の北海道集委討議資料1984年S59	1984/ /		
	30	8 035			昭和52年度第1回財団法人北海道婦人協会理事集委資料	1977/ /		
	道産婦協 発輸・来輸・事務綴り 02	17	8 031			道産婦協発16号(労発67号)新石炭政策確立中央大会の開催について	/ /	
		18	8 060			家族状況と職者の調査並びに職戚、知人の紹介依頼についての協力要請書	/ /	
		19	8 085			活動方針案、他(年数、会議名不明)	/ /	
		20	8 003			自治労会館案内 S57 執行部役員区長名簿など	/ /	
		08	8 024			備品台帳	/ /	
		09	8 025			53年度 謝礼金/入出伝票	/ /	
	道産婦協 金銭出納帳 03	05	8 008			たたらう世界の婦人たち	/ /	
		13	6 010			産婦協だより No.64 S60 機関紙	/ /	
	道産婦協 機関誌と原稿 06	14	6 011			産婦協だより No.65、76、70 機関紙	/ /	
		15	6 012			産婦協だより No.69 H1 機関紙	/ /	
		16	6 013			産婦協だより No.71 H3 機関紙	/ /	
		17	8 010			機関紙(まやちNo.27、赤平主婦新聞No.213、総評No.280)	/ /	
	18	8 066			婦連協だより、他	/ /		

北海道炭婦協③07_08						
カテゴリー内の 通し番号	箱番	pdfの有無	資料名	年 / 月 / 日	備考	
③	03	012	写真 封筒入り×3	/ /		
	01	009	索引紙、すみ夫妻50年のあゆみ	1981 / /		
	02	077	ハイム化粧品のカatalog	/ /		
	03	074	運炭証購者主婦の会から運炭婦協への感謝状	1983 / /		
			以下空白	/ /		
				/ /		

(4) 炭労

日本炭鉱労働組合(炭労)01_04			資料名	年/月/日	備考
カテゴリ内の 通し番号	番号	pdfの有無	資料名	年/月/日	備考
炭労 定期大会 学習会資料 01	01	026	炭労第6回定期大会報告書1979年s49	1979/ /	
	02	027	炭労第6回臨時大会議案、大衆討議資料1980	1980/ /	
	03	032	炭労定期大会資料1981年S56(北海道石炭対策協議会による石炭政策闘争、行動経緯の報告、S55決算報告)	1981/ /	
	04	018	日本炭鉱労働組合(定期大会資料?) 1990~1991年度運動方針	1990/ /	
	05	007	81北海道春闘方針(案)、81国産春闘情報No.9	1981/ /	
	06	034	付加価値税導入反対会連討議委員会 低福祉・高負担の電力料金値上げ案の問題と対応策資料1974年s49	1974/ /	
	07	055	学習会「中東紛争と日本のエネルギー政策・国内炭を考える」1990年H2	1990/ /	
炭労 配布物 02	01	064	76'春闘・決戦団塊の闘争計画1976年s53	1976/ /	
	02	061 BOX8	炭労各支部役員・顧問。政治局名簿(日本炭鉱労組)1980年H2	1980/ /	
	03	062	道炭労第5回地方委員会配布物1991年H3	1991/ /	
	04	063	空知炭鉱閉山闘争 中央行動実施要領について1995年H7	1995/ /	
	05	059	石炭鉱業の安定と産地地産地消対策に関する特別要請書1990年H2	1990/ /	
	06	073	80国産春闘のたたかい(パンフ)1980年s55	1980/ /	
炭労 報告書 機関誌号外 03	01	019	道炭労青結協機関誌「はくるま」号外1976年s54	1976/ /	
	02	070	北海道炭鉱労働組合代表 訪中国報告書1974年s49	1974/ /	
	03	072	自由諸国のヤマの仲間と 第43回MFE大会報告書並びに西ドイツ炭鉱協賛報告1976年s54	1979/ /	
炭労 記念誌 集い(パンフ) 04	01	054 BOX8	北炭労連 創立20周年記念号1969年s44	1969/ /	
	02	055 BOX8	炭労20年のあゆみ 日本炭鉱労働組合1973年s48	1973/ /	
	03	058 BOX1	新たな出発 夕張新炭鉱建設闘争の足跡(今後の闘い)1983年s58	1973/ /	
	04	056 BOX8	炭鉱建職者、退職者と炭鉱労働全道のついでプログラム1985年S60	1985/ /	
	05	058 BOX8	北炭労連 惜別の夢ご案内1986年s63	1986/ /	
日本炭鉱労働組合(炭労)05			資料名	年/月/日	備考
カテゴリ内の 通し番号	番号	pdfの有無	資料名	年/月/日	備考
炭労 勤労協機関誌 05	01	014	勤労協 機関誌1977年S52 .No.171のみ	1977/ /	
			以下空白	/ /	

(5) 道主婦協

道主婦協 01_03		カテゴリー内の 通し番号	箱番	pdfの有無	資料名	年 / 月 / 日	備考
道主婦協 定期総会資料 01	01	8 029			道主婦協 第20回定期総会議事録 他(国鉄新聞99、社会保障制度一覽77、道民連合ニュース)	1977 / /	
	02	8 037			道主婦協 第22回定期総会議案書 1979年S54	1979 / /	
	03	8 038			道主婦協 第23回定期総会議案書 1980年S55	1980 / /	
	04	8 039			道主婦協 第24回定期総会議案書 1981年S56	1981 / /	
	05	8 040			道主婦協 第26回定期総会議案書 1983年S59	1983 / /	
	06	8 041			道主婦協 第28回定期総会議案書 1985年S60	1985 / /	
	07	8 042			道主婦協 第33回定期総会議案書 1990年H02	1990 / /	
	08	8 043			道主婦協 第36回定期総会議案書 1993年H05	1993 / /	
道主婦協 記念誌・報告書 02	01	8 053		BOX8	道主婦協 北我(が)育てる主婦協55年のあしあと	1992 / /	
	02	1 053			道主婦協 労金100億円結集運動アンケート調査報告書	/ /	
	03	7 015 8 067			北教祖家族会 業の調査 1981年S56	1981 / /	
	04	8 071			北京から東北へ33人の旅 1976.10~11月訪中記	1977 / /	
道主婦協 発行物・綴籍 03	01	8 005			夕張新鉱閉山提案撤回に関する要請	/ /	
	02	8 011			北炭夕張新鉱閉山阻止中央行動に関する書類(行動日程など)	/ /	
	03	8 013			道主婦協発 第6号、10号1979年、20号1980年	/ /	
	04	8 013 1 054			第7回1978年、第9回1980年のらちくしを守る全道婦人集會資料 第15回いのちをくらしを守る全道婦人集會資料	/ /	
	05	8 013			労働金庫関係	/ /	
					以下空白	/ /	
						/ /	

(6) 総評主婦の会

総評主婦の会 01.03		カテゴリー別 通し番号	箱番	pdfの有無	資料名	年 / 月 / 日	備考
総評主婦の会 総評部発行物 01	01	2	030		「総評主婦の会をどうすすめていくか(案)」	1959 / /	
	02	2	028		主婦の会組織化のための懇談会	/ /	
	03	2	029		主婦の会全国協議会結成大会プログラム、資料(1960年度活動方針案)	1959 / /	
	04	2	029		総評主婦の会組織案1960~1961	1960 / /	
	05	2	028		総評主婦の会組織案第6号1976	1976 / /	
	06	2	029		評議会回議事簿録1956~1972	1956 / /	
	07	7	001		総評主婦の会S60年(文書綴) 総評主婦の会第1984年1月~1986年5月 s59~s61	1984 / /	
総評主婦の会 定期大会資料 02	01	2	031		総評主婦の会第13回定期大会 昭和47年度活動方針1972年	1972 / /	
	02	7	003		総評主婦の会第14回定期大会 昭和48年度活動方針1973年	1973 / /	
	03	6	020		総評主婦の会第16回定期大会 昭和52年度活動方針 開催1977年	1973 / /	
	04	7	010		総評主婦の会 第20回定期大会 1978年度報告書 昭和54年1979年開催	1979 / /	
	05		012		総評主婦の会 第24回定期大会 1983年度活動方針と会計報告昭和56年	1983 / /	
	06	4	012		総評主婦の会 第26回定期大会 1985年度活動方針と会計報告昭和60年	1985 / /	
	07	7	003		総評主婦の会 第28回定期大会 1987年度活動方針と会計報告昭和62年	1987 / /	
総評主婦の会 他集会・伝議資料 03	01	8	001		1991総評主婦の会 秋南北海道ブロック集會資料	1991 / /	
	02	7	013		総評主婦の会85 秋季ブロック集會報告書	1985 / /	
	03	2	032		健康改善阻止・国鉄運賃値上げ反対闘争の中間総括資料	1972 / /	
	04	2	028		第21回はたらぐ婦人の集會概要 1976年 昭和51年	1976 / /	
	05	7	011 012		85年総評家内労働全国担当集會報告 第40回中央家内労働審議集會報告	1985 / /	
	06	7 1	008 052		1986年家計実態調査 1988年家計実態調査	1986 / /	
	07	7	005		1986年国民春闘 家内労働対策を強化する全国集會資料	1986 / /	
	08	8	030		第3回いのちとくらしを守る実行委員会決定事項、第7回らし 以下空白	/ / / / / /	

総評主婦の会 04.05						
カテゴリ内の 通し番号	箱番	pdfの有無	資料名	年 / 月 / 日	備考	
総評主婦の会 記念誌・冊子 04	01	7 006	総評主婦の会 20年譜	1979 / /		
	02	7 007	活動の手引き 総評主婦の会	1982 / /		
総評主婦の会 機関誌 05	01	7 002	総評主婦の会 No.178～230(とび) 機関誌	1976 / /		
	02	6 014	総評主婦の会 No.212～246(とび) 機関誌	1979 / /		
	03	6 015	総評主婦の会 No.247～277(とび) 機関誌	1979 / /		
	04	6 016 017 018	総評主婦の会 No.278～304(とび) NO.282, 287～289, No.291～301(とび) 機関誌	1985 / /		
	05	6 016 8 030	庶務新聞(971, 1059)・全道労協(782, 1131)・ベトナム母子保健センター連絡会ニュース24 夕刊 以下空白	/ / / / / /		

(7) 家計簿

家計簿 01-03		資料名		年 / 月 / 日	備考
カテゴリ内の 通し番号	箱番	pdfの有無	資料名	年 / 月 / 日	備考
家計簿 道主婦協家計簿白書 報告書 01	01	1 051	総計主婦の会全国協議会 1974年度家計調査報告書・主婦の意識調査報告	1974 / /	
	02	1 036	道主婦協 家計簿白書1977年S52	1977 / /	
	03	8 036	道主婦協 家計簿白書1979年S54	1979 / /	
	04	1 037	道主婦協 家計簿白書1980年S55	1980 / /	
	05	8 036	道主婦協 家計簿白書1981年S56	1981 / /	
	06	1 038	道主婦協 家計簿白書1987年S62	1987 / /	
	07	1 039	家計簿白書 一主婦は何かハートかー (25周年)1987年発行	1987 / 05 /	
	08	1 040	道主婦協 家計簿白書1988年S63	1988 / /	
	09	4 038	道主婦協 家計簿白書1989年H1	1989 / /	
	10	1 041	道主婦協 家計簿白書1991年H3	1991 / /	
	11	1 042	道主婦協 家計簿アンケート感想文集集号1991年H3	1991 / /	
	12	1 043 4 039	道主婦協 家計簿白書1992年H4	1992 / /	
家計簿 道主婦協会報 02	01	1 044	主婦協会報 特集 道主婦協家計簿白書号1991年H3、1993年H5	/ /	
	02	1 045	主婦協会報 道主婦協家計簿白書1994年H6	/ /	
家計簿 道主婦協家計簿	01	1 46~50	道主婦協家計簿(無記入)計6冊 年数不明	/ /	
			以下空白	/ /	
				/ /	

(8) 選挙関連

選挙関連01~05		カテゴリー内の 通し番号	箱番	pdfの有無	資料名	年 / 月 / 日	備考
選挙関連 つしま孝且 01	01	7 022 033			つしま孝且講演会関係資料1973年~1974年、選対発、	1973/ /	
	02	1	029		選挙関係 つしま選対ニュースなど	1979/ /	
	03	7	023		浜崎協選挙紹介者名簿 あくね、つしま	/ /	
	04	1	031		つしま孝且国政ニュース1974~1980	/ /	
	05	1	035		つしま孝且国政ニュース1980~1981年	/ /	
	06	4	015		つしま孝且国政ニュース1983~1984年	/ /	
	07	7	022		つしま選対プリント、今日までの経緯について、選対組織図、ふじんニュース、社会新報	/ /	
	08	7	024		選挙用スタッカー つしま、岡田	/ /	
選挙関連 あくね登 02	01	1	030		あくね選対つづ(福井)	1974/ /	
	02	1	030		あくね選挙ホスター、後援会役員名簿、日報表(福井)	1974/ /	
選挙関連 横路孝弘 03	01	7	019		58年度候補支持者カード1983年	/ /	
	02	7	019		横路孝弘/ハフレット	/ /	
選挙関連 岡田春夫 04	01	1	033		衆議院副議長就任にあたって—岡田春夫 1979年s54	1979/ /	
	02	1	035		とり戻せ政治を！ 岡田春夫国会報告	/ /	
	03	7	020		岡田春夫/ハフレット 激動の80年代	/ /	
選挙関連 選対発行物等 05	01	8	033		道政労選対対抗プリント五十嵐広三加入紹介者カード内わけ、支持獲得状況など	/ /	
	02	8	033		知事選挙勝利にむけての嵐行動の展開	1978/ /	
	03	1	032		素紙川村選対一中は道政労代選挙 委員会原稿など 1977年SS2	/ /	
	04	8	080		選挙関係、「婦人の手で新しい北海道をつくらう」全道連会案内他 1982年、1983年	/ /	
	05	8	079		結婚祝賀金の式次第	/ /	
							以下余白

(9) 社会党関係

カテゴリー内の 通し番号	箱番	pdfの有無	資料名	年/月/日	備考
社会党系01	01	024	規約・規程集 日本社会党規約 北海道本部規則他1989年h01	1989/ /	
	02	025	月刊 社会党 1995年4月	1995/ /	
	03	021	総選挙政策(総論)1979年s54	1979/ /	
	04	078	第10回いのちとくらしを守る全道婦人連会 私たちの暮らしと平和を考えるよつらん 以下空白	/ /	
				/ /	
				/ /	

(10) その他

カテゴリー内の通し番号	箱番	pdfの有無	資料名	年/月/日	備考
冊子 01	01	021	婦人通信 No.318	/ /	
	02	025	婦人通信 No.290~325(とび)	/ /	
	03	026	婦人通信 No.326~342(とび)	/ /	
	04	014	食運情報 No.39	/ /	
	05	016	日本共産党の組織破壊と闘う動労	/ /	
	06	017	出版図書目録	/ /	
報告書 関係機関発行資料 02	01	006	全道消団連ニュース、日本生協、ゼーゼー一他	/ /	
	02	016	北海道労働婦人労働行動計画 S53	/ /	
	03	008	労働者福祉活動の手引き81	/ /	
	04	009	年金総点検ハンドブック 全道労働組合協議会	/ /	
パンフレット・チラシ 03	01	075	労金のちらし(主婦の手で100円の結集を)パンフ	/ /	
	02	076	労金のパンフ	/ /	
	03	018	目黒さつき会館のパンフレット	/ /	
書籍 04	01	028	日本の黒幕 小佐野賢治の巻 上	/ /	
	02	033	CHILDREN'S DEAMINGS FROM CHINA 以下空白	/ /	
				/ /	
				/ /	



太平洋炭鉱主婦会の記録

北海道炭鉱主婦協議会の会長の聞き取りと資料を中心に

(JAFCOF 釧路研究会リサーチ・ペーパーvol.5)



発行日:2015年6月28日



著者:西城戸誠・大國充彦・久保ともえ・井上博登

発行者:産炭地研究会(JAFCOF)

<http://c-faculty.chuo-u.ac.jp/~nakazawa/>



本報告書は、2009～2013 年度日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究A)『旧産炭地のネットワーク型再生のための資料救出とアーカイブ構築』(課題番号・21243032 研究代表者・中澤秀雄), 2014 年度～2018 年度日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究A)『東アジア産炭地の再定義: 産業収束過程の比較社会学による資源創造』(課題番号・26245059 研究代表者・中澤秀雄)の研究成果の一部である。